

第二條 上長官又ハ士官ニ相當スル者ノ昇給ハ朝鮮駐節軍司令官又ハ朝鮮駐節憲兵隊司令官ヨリ
 陸軍大臣ニ上申シ同大臣ニ於テ之ヲ命ス

第三條 准士官又ハ下士ニ相當スル者ノ昇給ハ准士官ニ相當スル者ニ在リテハ朝鮮駐節軍司令官
 又ハ朝鮮駐節憲兵隊司令官、下士ニ相當スル者ニ在リテハ當該隊長ニ於テ之ヲ命ス

(別表)

朝鮮軍人俸給增加區分表

階級	等級	支給區分	在勤年數	給與人員
上長官相當者	一 等給	各兵科各部ヲ通シ 各官等毎	每級二年以上	現員三分ノ一
	二 等給			
士官相當者	一 等給	各兵科各部ヲ通シ 各官等毎	每級二年以上	現員三分ノ一
	二 等給			
准士官相當者	一 等給	各兵科各部ヲ通シ 各官等毎	每級二年以上	現員三分ノ一
二 等給				
下士相當者	一 等給	各兵科各官等毎		

備考 一、朝鮮歩兵隊同騎兵隊附ニシテ各部下士ニ相當スル者ハ其所屬隊ノ同等ノ下士ニ相當スルモノト通算スルモノトス

二、給與人員ハ總テ古參順序ニ依リ算スルモノトス但シ分數ニ依リ人員ヲ算スルトキ増數ヲ生スルトキハ總テ之ヲ切上タルコトヲ得

○海軍省達第二十二號

准士官以上(候補生)學生、臨時講習員及帝國大學等ニ依托ノ學生生徒ニシテ實觀見學又ハ學術實地研究ノ爲艦船、海軍諸學校、海軍工廠其ノ他へ出張スル場合ノ往返旅費ハ海軍內國旅費規則第五表又ハ清韓樺太旅費規則第三表ニ依リ定額、滞在旅費ハ目的地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄別表ニ依リ之ヲ支給ス

依リ之ヲ支給ス

明治四十四年三月一日

(別表)

海軍大臣 男爵齋藤實

考	備	依托學生生徒	陸上		艦船
			陸上	艦船	
一	准士官以上(候補生)學生同一地ノ滞在五日以上ニ及フトキハ六日ヨリ發程ノ前日迄七十錢ヲ支給ス	八	一圓三十錢	五	十
二	臨時講習員タル下士卒海軍諸學校又ハ艦船ニ在ルトキハ本表ノ金額ヲ支給セズ				
三	依托學生生徒同一地ノ滞在五日以上ニ及フトキハ六日ヨリ發程ノ前日迄六十錢ヲ支給ス	七	十	五	十
四	橫須賀勤務ノ者ニシテ長崎ニ出張スル場合及長崎勤務ノ者ニシテ橫須賀ニ出張スル場合ハ本表ノ金額ヲ支給セズ	六	十	五	十
五	横須賀長浦以外ノ地ヨリ同地へ出張シ彼處滞在在在ニ變更スル場合又ハ一時歸還者ハ一時他ニ出張シ再度横須賀長浦ニ引續キ出張滞在スルコトアル場合モ最初同地ニ到着ノ日ヨリ起算シ第一項及第三項ヲ適用シ六日ヨリ發程ノ前日迄七十錢又ハ六十錢ヲ支給ス	五	十	三	十

○海軍省達第二十三號

明治三十六年十一月 達第三百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通改正ス

明治四十四年三月六日

品名ノ欄東京所在各廳普通圖書(學校ヲ除ク)ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍大臣 男爵齋藤實

艦政本部製圖工場所屬物品 艦政本部會計課長 〓會計課書記

○海軍省達第二十四號

海軍艦政本部製圖工場ノ醫務衛生ニ關スル事項ハ海軍造兵廠軍醫長ヲテ處理セシム
明治四十四年三月七日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十五號

海軍職工規則中左ノ通改正ス
第一條ヲ左ノ如ク改ム
本則ニ於テ職工ト稱スルハ海軍工廠海軍造兵廠海軍下瀬火藥製造所海軍修理工場旅順海軍工作部及海軍艦政本部製圖工場ニ於テ使役スル職工ヲ謂フ
明治四十四年三月十三日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十六號

運術練習艦規則第十五條中海軍一等兵曹トアルヲ海軍二等兵曹ト改ム
明治四十四年三月十七日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十七號

明治四十年達第四百一十一號中各廠團部隊所屬ニ非サルモ一時使用又ハ保管中ニ係ル雜役船舟ニ付テモ亦同レヲ加フ
明治四十四年三月十七日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十九號

陸戰隊概則ヲ廢ス
明治四十四年三月十八日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十號

軍法會議書類保存規程中左ノ通改正ス
明治四十四年三月十八日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十一號

艦營用品經理規程別表第一號第二種消耗品品名表左ノ通り改メ同第二號艦營用品直買品名表中へ「電流機須賀海兵團及東京ヲ追加ス(左記略ス)」
明治四十四年三月二十八日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十二號

前項ノ書類ヲ東京軍法會議ニ移送シタルトキハ艦隊副官ハ其ノ目錄ヲ編製シ願末ヲ明ニシ置ク可シ
議ニ於テ之ヲ保管ス
明治四十四年三月二十八日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十三號

但財産原簿財産簿及其増減報告書ハ四十四年度ヨリ財産目錄ハ第二回目錄ヨリ改ムヘシ
別紙ハ經理局長ヲテ之ヲ要スル向ニ配附セシム
明治四十四年三月十七日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十四號

明治四十年達第四百一十一號ハ雜役船舟定期検査報告方ノ件ナリ
明治四十四年三月二十八日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十五號

明治四十四年三月 海軍省第二十八號 第二十九號 第三十號 第三十一號

海軍大臣 男爵齋藤實

四三

○海軍省達第三十二號

軍艦驅逐艦水雷艇及潛水艇ニシテ艦艇籍ヨリ除カルルニ際シ乗組員アルモノハ其ノ介達ニ接シタル
當日適宜ノ時ニ於テ軍艦製造後初メテ軍艦旗ヲ掲揚スルトキノ場合ニ準シ一時軍艦旗ヲ掲ケ
ハ該旗ヲ用ツ 敬禮ヲ行フヘシ

明治四十四年三月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十三號

吳海軍工廠ニ於テ製造ノ呂號戰艦ヲ攝津ト命名セラル

明治四十四年三月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十四號

艦艇類別等級別表中戰艦ノ欄内ノ河内ノ次ニ攝津ヲ加フ

明治四十四年三月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○陸軍省達第十一號

明治四十一年陸軍第六號中左ノ通改正ス

明治四十四年四月五日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一陸軍砲兵工科學校火工下士學生及砲兵工長學生ハ 毎年一月上旬及四月中旬火工下士候補學生
ハ毎年十二月中旬

〔參照〕

明治四十一年十一月十九日陸軍第六號陸軍砲工學校以下學校學生入學時期ナリ

○陸軍省達第十二號

明治三十五年陸軍第八十九號中左ノ通改正ス

明治四十四年四月五日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條 戶山學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校、重砲兵射擊學校、砲兵工科學校學生及教導隊分
遣下士卒ハ本規則ニ依リ取扱フヘシ

第二條 學生中退學シタル者アリテ之ヲ補缺スルヲ適當ト認ムルトキハ學校長ハ所管長官
兵工廠提理ノ認可ヲ受ケ當該部隊長ニ補缺員ヲ分遣スヘキコトヲ通報シ部隊長ハ直ニ之ヲ分
遣シタル後順序ヲ經テ所管長官ハ兵器廠ニ在リケニ報告スヘシ

第五條 下士候補者ハ教導隊ヘ分遣セシメサルモノトス

〔參照〕

陸軍第八十九號陸軍學校學生及教導隊分遣下士卒取扱規則(明治三十五年八月二十六日)抄録
第一條 戶山學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校、重砲兵射擊學校、砲兵工科學校、教導隊分遣下士卒ハ左ノ規定ニ
依リ取扱フヘシ

第二條 學生中退學シタル者アリナ其ノ時期之ヲ初缺スルヲ適當トスルトキハ學校長電報教導大隊長所管長官ノ認可ヲ請ケ當該隊長ニ補缺員ヲ分遣スヘキ旨通報シ隊長ハ直ニ之ヲ分遣シ後該隊長ヲ下ノ職階ニ降格スルニ依ルニ報告スヘシ
第五條 下士候補生又ハ短期下士候補生ハ該隊隊ハ分遣セシメサルモノトス

○海軍省達第三十五號

橫須賀鎮守府在籍	軍艦	鎮
	軍艦	八重山
	軍艦	高雄
吳鎮守府在籍	軍艦	赤城
舞鶴鎮守府在籍	軍艦	比叡
橫須賀鎮守府在籍	水雷艦	第二十一號
	水雷艦	第二十四號

右帝國水雷艦籍ヨリ除カル

○海軍省達第三十六號

右帝國水雷艦籍ヨリ除カル
明治四十四年四月一日
海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十七號

佐世保海軍工廠ニ於テ製造ノ伊號二等巡洋艦ヲ筑摩ト命名セラル

○海軍省達第三十八號

艦艇類別等級別表中巡洋艦ノ欄内利根ノ次ニ筑摩ヲ加フ

○海軍省達第三十九號

治療品經理規程中左ノ通改正シ明治四十四年四月一日ヨリ施行ス

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一條中「治療及衛生試驗ヲ」治療防疫及衛生試驗ニ改ム

第二條第二項中「治療用藥品」ノ下ニ「防疫用藥品」ヲ加フ

第四條中「要港部」ヲ「要港部及定員百人以内ノ」ニ改ム

第十一條第二項中「前項ノ場合ニ於テ」ノ下ニ「防疫用藥品共ノ他」ヲ加フ

第十二條中「治療品」ノ下ニ「防疫用藥品」ヲ加フ

第十六條第二項中「痘苗血清藥腸管扶斯診斷液」ヲ削ル

第十八條 削除

第二十四條中「及藥品」ヲ「防疫用藥品及其ノ他ノ藥品」ニ改ム

第二十五條第一項ヲ左ノ通改ム

兵備品會計官吏ハ毎年六月三十日迄ニ前年度治療品殘高報告書

金額調書

式ニ依ルニ添へ出納命令官ヲ經テ海軍省醫務局長ニ出スヘシ

第二十七條 兵備品取扱主任ハ毎年四月二十日迄ニ前年度治療品消費報告書ヲ提出シテ所屬出納命令官ヲ經テ海軍省醫務局長ニ出スヘシ但シ第十九條ノ場合ニ於テハ其ノ際開製レ出スヘシ

(表及書式中改正アリ略ス)

○海軍省達第四十號

明治四十二年達第十一號末項ヘ左ノ一項ヲ加フ

十三 喇叭術練習生 金拾五圓

(参照)

明治四十二年十一月二日海軍省達第十一號ハ學生生徒練習生卒業證書授與式實施方針ノ件ナリ

○海軍省達第四十一號

海軍里程表別冊ノ通改正ヲ明治四十四年四月十五日ヨリ施行ス但シ別冊ヘ之ヲ要スル向ヘ經理局ヨリ配付セシム

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十二號

艦船造修試験検査規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三章「附屬物」トアルヲ總テ「機裝品」トシ「機關附屬物」ニ改ム

第四十四條中「又ハ豫備品」ヲ削ル

第四十六條中「機裝及」ヲ削ル

第四百條中「附屬物」増減等ニ依リ「機裝品」及「機關附屬物」増減等ニ依リ「機關附屬物」目録ヲ改ム

第三號目録中「第三十六號船附屬物目録」ヲ「第三十六ノ一機裝品目録第三十六ノ二機關附屬物目録」ニ改ム

第五號目録目録類中「第三號船附屬物目録」トアルヲ「第三ノ一機裝品目録第三ノ二機關附屬物目録」ニ改ム

艦船造修試験検査規則附屬様式目録第十五様式ノ次ニ左ノ通追加ス

第十六號様式機裝品目録

第十七號様式機關附屬物目録

(様式略ス)

○海軍省達第四十三號

自今艦營需品中機關長主管螺摑及摑掛並鍍鍍及柔軟鋼線網(灰揚機械用)ハ機關附屬物ニ左記物件ハ機裝品ニ編入ス

但シ現在品ハ此ノ際各其ノ向ヘ保管轉換ヲ爲スヘシ

明治四十四年四月一日

航海長主管掌帆ノ部砲術長主管、水雷長主管

鐵 架 大中小

砲 架 大中小

鐵 環 大中小

鐵 脚 鈎 大中小及揚旗線用

砲 脚 鈎 鐵付

海軍大臣 男爵齋藤實

鐵 鈎 鐵付 大中小

砲 鈎 鐵付 大中小

厚木單滑車 鐵付 七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九、七六一九

厚木復滑車 鐵付 一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二、一〇二

厚木三滑車 鐵付 一五二、一五二、一五二、一五二、一五二、一五二、一五二、一五二、一五二、一五二

鐵 脚 鈎 鐵付 大中小及揚旗線用

砲 脚 鈎 鐵付

鐵單滑車 八九「ミリ」ヨリ三〇五「ミリ」迄
 鐵復滑車 八九「ミリ」ヨリ二七九「ミリ」迄
 鐵三滑車 一〇二「ミリ」ヨリ二〇三「ミリ」迄
 砲銅單滑車 一〇二「ミリ」ヨリ二二九「ミリ」迄
 砲銅復滑車 一〇二「ミリ」ヨリ二二九「ミリ」迄
 砲銅三滑車 一二七「ミリ」一七八「ミリ」迄
 柔軟鋼線網 舵柄標索應急修理用
 航海長主管船匠ノ部
 側 硝子 通信器燈及羅針燈補用

缺球硝子 舷窓天窓補用
 三角硝子 上甲板明取補用
 窓硝子 舷窓天窓補用
 文字板硝子 通信器補用
 主計長主管
 釜 鍋

○海軍省達第四十四號

艦裝品中靜動索及滑車類目錄ニ在ル左記物件ヲ經營用品ニ編入ス

但シ現在品ハ此ノ際保管轉換ヲ爲スヘシ

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

航海長主管掌帆ノ部
 釣瓶用鈎索
 防舷物用鈎索
 舵 柄 標
 小蒸氣船波除

○海軍省達第四十五號

艦裝ニ裝備スル機關附屬物ノ品種數量ハ軍艦ニ在リテハ別冊機關附屬物標準甲ニ、驅逐艦水雷艇ニ在リテハ同乙ニ據ルヘシ

但シ別冊ハ海軍艦政本部長ヲシテ之ヲ要スル向ニ配付セシム

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十六號

艦裝品目錄ニ記載スヘキ品名ハ別冊ニ準據スヘシ

但シ別冊ハ海軍艦政本部長ヲシテ之ヲ要スル向ニ配付セシム

明治四十四年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十七號

軍備補充費ヲ以テ明治四十四年度ニ於テ製造スヘキ二百五十噸曳船ニ左ノ通命名ス

明治四十四年四月十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

橫須賀海軍港務部附屬

二百五十噸曳船

第一橫須賀丸

吳海軍港務部附屬

二百五十噸曳船

第三吳丸

佐世保海軍港務部附屬

二百五十噸曳船

第三佐世保丸

○海軍省達第四十八號

艦艇類別等級別表中潛水艇ノ欄第九、ノ次ニ第十、第十一、第十二ヲ加フ

明治四十四年四月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十九號

右臨時吳海軍港務部附屬ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 椅子山丸

右佐世保海軍港務部附屬ヲ解ク

佐世保海軍港務部附屬
汽船 橋子山丸

右本籍ヲ吳鎮守府ニ改ム

佐世保鎮守府在籍
汽船 橋子山丸

明治四十四年四月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五十號
雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條中「校生」ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加ス

通 辯 臨時海軍艦隊部支部

第三條中「水栓番人」ヲ「水栓手」ニ改メ「倉庫丁」ノ欄「竹敷要港部」ノ次ニ「本省各學校」ヲ番人ノ欄「埋葬地」ノ次ニ「鎮海海軍用地」ヲ追加ス

○海軍省達第五十一號

雇員備人給與規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一表雇員給料最上表中「校生」ノ次ニ「通辯」ヲ加フ
第二表備人給料最上表中「水栓番人」ヲ「水栓手」ニ改ム

○海軍省達第五十二號

職工人夫給與規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十五條ノ三 甲工廠ヨリ乙工廠ニ轉備スル職工ニハ移轉料トシテ十圓ヲ支給ス

〔參照〕

海軍省達第二號職工人夫給與規則(明治三十三年一月二十二日)抄録

第十五條ノ三 甲工廠ヨリ乙工廠ニ轉備スル職工ニハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ移轉料トシテ十圓以内ヲ支給スルコトヲ得

○海軍省達第五十三號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月二十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十七條 准士官以上劍ヲ佩用スルトキハ劍帶ノ鈎緒ヲ延ハシテ左手ニテ劍柄ヲ握リ之ヲ垂下スルヲ例トス

第十八條 准士官以上候補生及生徒短劍ヲ佩用スルトキハ其ノ鞘ニ附セル環ヲ劍帶ノ鈎ニ掛ケルヲ例トス

○海軍省達第五十四號

海軍軍醫學校規則中左ノ通改正ム

明治四十四年四月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一條 校長ハ海軍軍醫學校條例、本則及教育綱領ニ依リ教程共ノ他教務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍省醫務局長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條中「每學年」ヲ「修業期」ニ改メ「及研究成績」ヲ削ル

第三條中「學年」ヲ「修業期」ニ改ム

第六條中「選科」ヲ「研究科」ニ改ム

第八條第一項ヲ削リ第二項中「十二月二十一日ヨリ」ヲ「十二月二十六日ヨリ」ニ改ム

第八條ノ二ヲ左ノ如ク改ム

第八條ノ二 學生ノ修業期ヲ左ノ如ク區別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘレ

甲種學生

乙種學生

研究科學生

第九條 甲種學生ハ二十五名以内研究科學生ハ十名以内トス

第十條 研究科學生シ志願スル者ハ研究セムトスル學科及項目ヲ記載シ毎年三月及九月順序シテ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ海軍大臣ハ海軍省醫務局長ヲシテ志願者ノ學識性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ審査シ且研究期間ヲ定メシム

第十一條 研究科學生ハ研究終リタルトキハ其ノ成績ヲ記述シ之ヲ校長ニ提出スヘシ

第十二條 乙種學生ハ校内ニ起臥セシメ軍醫學校ノ職員(文官及職員)甲種學生及研究科學生ハ必要ニ應シ校内ニ起臥セシム

〔參照〕

海軍省第九十二號海軍軍醫學校規則(明治三十二年五月十六日)抄錄

第一條 校長ハ海軍軍醫學校條例及本則ニ依リ教職其他職務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍省醫務局長ノ認可ヲ得テ之ヲ實施スヘシ

第二條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ學生ノ成績成績及研究成績ヲ考査シ之ニ意見ヲ附シテ海軍省醫務局長ニ進達スヘシ

第三條 校長ハ學年ノ終ニ於テ教育ノ會同シ會議ヲ開キ既往ノ進歩及將來教育ノ改良ニ就テ審議シ學事報告ヲ作リ之ヲ海軍省醫務局長ニ進達スヘシ

第六條 校長ハ選科學生ノ研究學科ニ就キ其ノ指導者ヲ指定スヘシ

第七條 學年ハ軍醫學生及選科學生ニ在テハ毎年十一月十日ニ始マリ練習學生ニ在テハ入校ノ日ヲ以テ其ノ開始トス

第八條 都合ニ依リ醫務局長ノ認可ヲ得テ此ノ時期ノ多少伸縮變更スルコトヲ得

第九條 軍醫學生ハ十五名以内選科學生ハ五名以内トス

第十條 選科學生タルコトヲ志願スルモノハ海軍軍醫學校條例第十二條及第十四條ニ據リ入學後研究セントスル學科ヲ

選擇シ毎年十一月十五日マテニ順序シテ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ海軍大臣ハ海軍省醫務局長ヲシテ志願者ノ學識

性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ審査セシム

第十一條 選科學生ハ學期ノ終ニ於テ自己ノ研究成績ヲ記述シ之ヲ校長ニ提出スヘシ

第十二條 軍醫學生及選科學生ハ通學トシ練習學生ハ校内ニ寄宿セシム

○海軍省第五十五號

明治二十八年達第四十四號軍艦進水手續中左ノ通改正ス

第六條中海軍省軍務局長ヲ削リ海軍艦政本部第一部長同第三部長第四部長ヲ海軍艦政本部第三部長ニ改ム

第七條削除

第八條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ此ノ場合ニ於テハ海軍艦政本部長ハ參列セサルモノトス

〔參照〕

海軍省達第四十四號軍艦進水手續(明治二十八年五月十九日)抄錄

第七條 場合ニ依リ海軍大臣ハ海軍省軍務局長若ハ當該鎮守府司令長官ヲシテ其ノ代理ヲラシムルコトアルヘシ

明治四十四年四月 海軍省第五十五號

五五

第八條 千歳米浦ノ軍艦(海軍省)ヲ進水セシメラルトキハ海軍大臣其ノ命令書ヲ當該管區ノ司令官ニ送付シ當該管區ノ司令官ハ前條ニ準ジ進水式ヲ施行スヘシ但シ此場合ニ於テハ第六條ノ委任官中艦政本部第三部長及第四部長當該工廠各部長及主任検査官ノミヲ列スルモノトス

○海軍省第五十六號

明治四十年達第九十二號内地私立造船所ニ於テ建造セシメタル軍艦進水手續中左ノ通改正ス

明治四十四年四月二十八日

海軍大臣 勇爵齋藤實

第五條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ左ノ如シ

海軍艦政本部長

海軍艦政本部第二部長

當該管區ノ鎮守府司令官又ハ工廠長

第六條但書中「若ハ第四部長ノ内一名」ヲ削ル

〔參照〕

海軍省達第九十二號(明治四十年八月十七日)抄録

第五條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ左ノ如シ

海軍艦政本部長

當該管區ノ鎮守府司令官又ハ工廠長

前項ノ外海軍省軍務局長及艦政本部第一部長、第三部長、第四部長ハ時宜ニ依リ參列スルコトアルヘシ

第六條 千歳米浦ニ於ケル軍艦(海軍省)ノ進水式亦前各條ニ準ズ但シ海軍大臣ハ海軍艦政本部長ヲシテ其ノ代理ヲラシメ會

名簿ヲ副署セシム此ノ場合ニ於テハ第五條諸官ノ參列ヲ要セス時宜ニ依リ海軍艦政本部第三部長若ハ第四部長ノ内一名參列ス

○會計検査院達第一號

國債募集金出納證明規程左ノ通定ム

明治四十四年四月十日

會計検査院長 法學博士子爵田尻龍太郎

國債募集金出納證明規程

第一條 明治二十三年勅令第二十號ニ依リ日本銀行ノ調製スヘキ國債募集金出納計算書ハ別記第一號書式ニ據ルヘシ

出納計算書ノ提出期限ハ翌月末日マテトス

第二條 左ノ事項ハ出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 外國貨幣ヲ以テ領收シタルトキハ其員額及換算相場

二 前年度ニ屬スル納入告知書ニ依リ納付シタルモノアルトキハ其金額事由

第三條 毎回國債ノ募入決定シタルトキヨリ六十日以内ニ別記第二號書式ニ據リ調製シタル申込

價格分類表ヲ提出スヘシ但應募額ノ募集額ニ超過シタルトキハ其割當ノ方法ヲ詳記シタル説明

書ヲ添付スヘシ

第四條 失權者ヲ生シタルトキハ別記第三號書式ニ據リ失效高調書ヲ調製シ失權確定ノ翌月末日

マテニ之ヲ提出スヘシ

第五條 國債募集金出納ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ金庫ノ領收證書、應募保證金ノ還付領收

證書、大藏大臣命令書ノ謄本及應募申込書トス但應募保證金ノ還付領收證書及應募申込書ハ會

計検査院ノ指定ヲ俟テ之ヲ提出スヘシ

第六條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ出納計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査

ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

下検査書ハ出納計算書毎ニ事實ニ適合セスト認定シタル事項アルトキハ其金額事由ヲ記載スヘシ

第七條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第八條 本規程ハ明治四十四年四月ヨリ施行ス
 明治三十七年會計検査院達第三號ハ明治四十四年三月限り廢止ス
 明治四十四年三月以前發行ニ係ル國債ノ募集金並ニ應募保證金ニシテ四十四年三月末日マテニ
 納付又ハ還付未済ノモノアルトキハ本規程ニ依リ之ヲ證明スヘシ
 (別記)

第一號

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 一 計算書ノ用紙ハ薄紙引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ餘白ヲ存スヘシ
 一 計算書ハ改換塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任者
 之ニ捺印スヘシ

明治何年度

何年何月

國債募集金出納計算書

證書何冊

何々何冊

日本銀行

集 金

額	納 付 額			納付未済額	備 考
	計	本月分	前月迄累計		
0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	本期領收額ノ内若干 ハ應募保證金ニシテ 何々
0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	何々
0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	○同種ノ公債ト雖モ募集者ノハ發行ノ勇ナルモ ノハ別帳ニ記載スヘシ ○本月分領收額及納付額ノ各欄ニハ其月日本銀 行本店ニ於テ處理シタル金額ヲ又年度末ニ於 ケル納付未済額ハ翌年度會計書ノ領收額前 月迄累計額ニ掲上スヘシ應募保證金モ亦之ニ 準ス
0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	

明治四十四年四月 逓 會計検査院第一號 國債募集金出納説明規程

金 證 保 募 應									
領 收 額				處 分 費 額					
本 月 分		前 月 迄 / 分		拂込金=還答額		還 付 額		計	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢
0		0		0		0		0	
0		0		0		0		0	
0		0		0		0		0	

明治四十四年四月 逓 會計検査院第一號 國債募集金出納説明規程

募									
度 額				備 考					
本 月 分		前 月 迄 累 計		總 要					
圓	錢	圓	錢						
0				何年發行何公債(大藏省證券)					
0				第 何 期					
0				第 何 期					
0				價 格 以 上 迄 金					
0				延 滞 拂 込 金 利 子					
				計					
				第 何 回 何 公 債					
				第 何 期					
				第 何 期					
				計					
				合 計					

○時效完成後入に納付シタルモノアルトキハ還付額ニ併算シ其額ヲ備考ニ附記ス

何年發行(第何回)何公債申込價格分類表

日本銀行

明治何年度何年何月國債募集金出納計算證明候也

日本銀行總裁 氏 名 宛

會計検査院長宛

年 月 日

備 要

何年發行公債總額何圓
第何回何々

計

明治四十四年四月 總 會計検査院第一號 國債募集金出納證明規程

店 別											
摘 要	口數	申込額			募入額			價格以上資金		備 考	
		圓	角	厘	圓	角	厘	圓	角		厘
何 地											
發行價格以上	0	0			0			0			
發行價格ノ分	0	0			0			0			
計		0			0			0			
何 地											
發行價格以上	0	0			0			0			
發行價格ノ分	0	0			0			0			
計		0			0			0			
合 計		0			0			0			

明治四十四年四月 總 會計検査院第一號 國債募集金出納證明規程

總 括									
申込價格	應募額	募入額			拂込上ノ金額			備 考	
		圓	角	厘	圓	角	厘		
0	0	0			0			○ 拂込上ノ金額ニハ價格以上資金ヲ加算掲載スヘシ	
0	0	0			0				
0	0	0			0				
0	0	0			0				
0	0	0			0				
0	0	0			0				

第三號

國債應募拂込金延滞=由^ル失効高調書

何年何月分

日 本 銀 行

年月日 日本銀行總裁 氏 名 固

明治四十四年四月 連 會計檢査院第一號 國債募集金出納規則規程

摘要	額面	拂込上入金額		
		圓	角	分
何年發行何公債				
第二期拂込延滞ノ爲失敗				
申込價格何程ノ分	0	0	0	
ノ何程ノ分	0	0	0	
計	0	0	0	
何年發行何公債				
即何期拂込延滞ノ爲失敗				
申込價格何程ノ分	0	0	0	
ノ何程ノ分	0	0	0	
計	0	0	0	
合計	0	0	0	

明治四十四年四月 連 會計檢査院第一號 國債募集金出納規則規程

拂込額	未拂込額	備考
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	

年 月 日 日本銀行總裁 氏 名 印

(参照)

明治三十七年十月二日會計検査院第三號ハ本號ト同件ナリ

○會計検査院達第一號

豫備並廢銷國債證券類出納證明規程左ノ通定ス

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

明治四十四年四月二十一日

豫備並廢銷國債證券類出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ依リ物品會計官吏ノ證明スヘキ豫備並廢銷國債證券類出納計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 國債證券類出納ノ證明トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ
一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書但監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

二 豫備國債證券類ノ刷入済受入ニ對シテハ印刷局物品會計官吏ノ引渡目録

三 廢銷國債證券類ノ還納ニ對シテハ取扱銀行ノ還納書

四 豫備國債證券類刷入ノ爲メ排出交付拂ニ對シテハ各其領收證書

五 損紙拂ニ對シテハ上官ノ認定アル主任官吏ノ證明書

六 廢銷國債證券類ノ燒棄拂ニ對シテハ上官ノ認定アル燒棄證書

第三條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ
一 證明書類中他ノ計算證明上提出済ノモノアルトキハ其事由

二 現在品ノ内地送送中ノモノアルトキハ其數量及事由

第四條 前條ノ證明書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證明書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ナシ

第五條 一 證明書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ
二 下検査書ハ出納計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 出納計算書ト物品出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證
二 事實ニ適合セスト認定セン事項及其理由

第六條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

第七條 附則
 本規程ハ明治四十四年度ヨリ施行ス
 明治二十八年會計検査院達第六號ハ明治四十三年度限り廢止ス
 (別記)

明治何年度

豫備並廢銷國債證券類出納計算書

一 計算書ハ授受スルモノハ其年月日ヲ各自通シテ記入スヘシ
 二 物品會計表更ニ依リ一會計年度ヲ通シテ記入スヘシ
 三 計算書ハ用紙ハ厚實沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ厚
 四 代算書ハ改換後抹ヲ禁ス誤記數字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ
 五 簿籍簿中檢査了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名

証憑書何冊

何 + 〇

名

備部	品之部					殘高	備考
	計	交付	刷入 ノ 為	損紙拂	何々		
	枚	枚	枚	枚	枚	枚	

廢 銷 品							
受 之 部				拂 之 部			残 高
越 高	還 納	何 々	計	棄 却	何 々	計	
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚

備 考	品 目	受 之			
		越 高	製 造	別入済	何 々
		枚	枚	枚	枚
内何枚ハ偽造切符ナリ 内何枚ハ何圓切符ヲ變 造セシモノナリ 何 々	何公債證券				
	何 圓				
	何 圓				
	計				
	大藏省證券				
	何 圓				
	計				
軍用切符					
何 圓					
計					
何 々					
何 々					
計					
合計					

品目	
何公債證券	圓
何	圓
計	
大藏省證券	圓
何	圓
計	
軍用切符	圓
何	圓
計	
何	々
計合計	
身元保證金	
現金	0
何	0

明治何年度豫備貯蓄國債證券類出納證明規程也

物品會計官吏 氏 名 印

會計検査院長宛

年 月 日

〔參照〕 明治二十八年十一月二日會計検査院第六號ハ豫備貯蓄國債證券類出納證明規程ナリ

○陸軍第十三號

陸軍各隊陣營具定數表中左ノ通改正ス

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

明治四十四年五月五日

要領第八項定數表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

二 師團司令部所在地外ノ歩兵聯隊ニ在リテハ本表ノ外服用雜巾ハ箇、竹帶三箇ヲ増加ス

既具定數表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

四 師團司令部所在地外ノ歩兵聯隊ニ在リテハ本表ノ外水勒轡、水勒頭絆_共、腰張頭絆_共、

麥袋、馬名札、手入袋、根櫛、鐵櫛_共、木櫛、毛櫛、小仲間繩各六箇、蹄洗桶三箇、ランプ_{白在的}、_{鐵共}一箇ヲ増加ス

○陸軍第十四號

陸軍營繕事務規程左ノ通改正ス

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

明治四十四年五月九日

第一章 總則

第一條 陸軍所轄土地建造物ノ營繕ハ本規程ニ依ル但シ國防及馬政局所管ニ係ルモノハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 土地建造物ハ左ノ區分ニ依リ管轄スヘシ

- 一 各師管、朝鮮、臺灣、滿洲ニ在ルモノハ當該經理部長、樺太ニ在ルモノハ第七師團經理部長但シ
- 第二號第二號ニ屬スルモノ及特ニ指定スルモノハ此ノ限ニアラス
- 二 砲兵工廠ニ屬スルモノハ同廠提理

三 千住製鐵所ニ屬スルモノハ同所長

四 清國駐屯軍ニ屬スルモノハ同軍司令官

第三條 本規程ニ於テ新營ト稱スルモノ左ノ如シ

新築 新ニ建造物ヲ築造スルヲ謂フ

増築 建造物ノ面積、容積若ハ延長ヲ増加スルノ目的ヲ以テ之ニ工作ヲ加フルヲ謂フ

改築 建造物ノ全部若ハ一部ヲ取毀テ主トシテ其ノ材料ヲ使用シ更ニ現在ノ位置ニ建造物ヲ築造スルヲ謂フ

移築 建造物ノ位置ヲ變更スルノ目的ヲ以テ之ヲ取毀テ異リタル位置ニ於テ改築ヲ施スヲ謂フ

土地編入 官有地受領、民有地買收ノ類ヲ謂フ

修繕ト稱スルモノ左ノ如シ

移轉 建造物ノ大體ノ原形ヲ維持シテ其ノ位置ヲ變更スルヲ謂フ

模倣替 建造物ノ面積、容積若ハ延長ヲ増加セシメテ其ノ一部ニ變更ヲ加フルヲ謂フ

補修 土地及建造物ノ位置、原形ヲ維持スル爲手入又ハ返地ノ復舊等ヲ爲スヲ謂フ

第四條 營繕ニ係ル費途ハ新營ニ在リテハ新營費、修繕ニ在リテハ修繕費ニ屬ス但レ新營及修繕相互連繫シ分離シ難キモノハ其ノ主タル工事ニ依リ區分ス

第五條 工事ニ關シ具備スヘキ設計圖書左ノ如シ但シ輕微ナル工事ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 工事設計書

一 工事經費仕譯書

一 一般圖 附近ノ地形ヲ詳知スルニ萬分ノ一又ハ五萬分ノ一

一 配置圖 六百分ノ一乃至二千四百分ノ一

一 外面圖 五十分ノ一又ハ百分ノ一

一 平面圖 百分ノ一又ハ二百分ノ一

一 断面圖 五十分ノ一

一 局部明細圖 構造ノ複雜ナル部分ニ限ルニ二十分ノ一

第二章 工事ノ計畫

第六條 管轄者 砲兵工廠提理及千住製鐵所長ハ翌年度ニ要スル新營及修繕ヲ豫定シ工事所要圖書ヲ調製シ毎年四月十日迄ニ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第七條 翌年度ニ於テ實施スヘキ豫定工事ハ營繕費概算額決定後陸軍省經理局長ヨリ管轄管轄者ニ通報スヘシ

管轄者ハ前項ノ通報ニ基キ該工事ノ概要ヲ記シタル圖書ヲ調製シ十一月末日迄ニ陸軍省經理局長ニ送付スヘシ

第八條 砲兵工廠提理及千住製鐵所長ハ翌年度ニ要スル新營及修繕ヲ豫定シ工事所要圖書及工事ノ概要ヲ記シタル圖書ヲ調製シ翌年度作業或ハ繰出豫定計算書ト共ニ七月末日迄ニ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第九條 翌年度ニ於テ實施スヘキ工事ハ毎年豫算決定後陸軍大臣ヨリ之ヲ當該管轄者ニ令達ス但シ砲兵工廠及千住製鐵所ニ係ルモノハ豫算ノ令達ニ依ル

第十條 前條ノ工事 砲兵工廠及千住製鐵所中主要ナルモノハ陸軍省經理局長ヲシテ其ノ設計ヲ掌シシム此ノ場合ニ在リテハ陸軍大臣ヨリ設計圖書若ハ設計要領書ヲ當該管轄者ニ下付ス

第十一條 管轄者第九條ノ令達ヲ受ケ又ハ前條ニ依リ設計要領書ヲ下付セシメタルトキハ設計圖書ヲ調製シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但シ前條ニ依リ設計圖書ノ下付ヲ受ケタルモノ及千回未

滿ノ補修工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 災害其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ臨時必要ヲ生シタル新營又ハ修繕(千圓未満)ノ付テハ前六條ニ準シ工事ノ伺出及實施ヲ爲スモノトス但レ復舊工事ニ係ル伺出ニ付テハ設計圖書ノ外復舊前後設計及經費比較表ヲ添附スヘシ

第十三條 設計圖書ハ正木ヲ當該管轄官衙ニ保管スヘシ但シ第十條ニ依リ下付ヲ受ケタルモノハ該圖書第十一條ニ依リ經伺シタル圖書ハ認可後其ノ控本ヲ保管スヘシ

第十四條 命令又ハ認可ヲ受ケタル工事ノ設計ヲ變更スルノ必要アルトキハ管轄者ヨリ變更ノ事由及其ノ部分ニ對スル工事設計書、圖面竝ニ工事費増減仕譯書ヲ具シ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於ケル輕微ノ變更ハ管轄者限リ之ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ著手後直ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十五條 工事ノ實施ハ當該管轄者之ヲ行フ但シ輕微ナル修繕ニ在リテハ當該土地建造物ノ使用部隊ニ之ヲ委託スルコトヲ得

第三章 工事ノ實施

第十六條 管轄者ハ工事實施ノ爲工場主任官ヲ定メ之ニ所要ノ現場監視員ヲ附屬スヘシ

第十七條 工場ニハ左ノ圖書ヲ備フルヲ例トス但レ管轄者ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ種類ヲ增加スルコトヲ得

第十八條 工事ニ使用スル材料ハ持込ノ際検査ヲ行ヒ不合格ノモノハ供給者ヲシテ速ニ工場外ニ搬出セシムヘシ

一 設計圖書

二 工事費明細表

三 工事工程表

四 工事日誌

五 職工人夫出面帳

六 工事材料検査簿

七 工事承印簿

第十九條 地下工事其ノ他竣功後外面ヨリ明視シ難キ工事ニ在リテハ管轄者ハ工場主任官又ハ現場監視員ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第二十條 工事竣功シタルトキハ管轄者ニ於テ検査官ヲ命シ該官ヲシテ之レカ圖書ヲ作ラシムヘシ

第二十一條 陸軍省經理局長ハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ隨時ニ検査官ヲ派遣シ工事ノ検査ヲ行フコトヲ得

第二十二條 命令又ハ認可ヲ受ケタル工事起工ノトキハ起工及豫定竣功年月日並豫定及落札價格

前項ノ検査官ハ工事ニ關スル事項ニ付管轄者及工場主任官ニ對シ辯明ヲ求ムルコトヲ得

直轄工事ニ在リテハ工費見込額ヲ完成ノトキハ竣功年月日、實費額及豫算殘額ヲ管轄者ヨリ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第四章 土地ノ編入

第二十三條 管轄者ニ於テ土地ノ編入ヲ要スルトキハ官有地ニ在リテハ當該所管屬其ノ他ニ在リテハ所有者ト協議ヲ遂ケ左ノ圖書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ伺出ヘシ但シ輕微ナルモノヲ除クノ外ハ協議前其ノ概要ニ付陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 土地圖書

二 土地明細圖 六百分ノ一

三 附近一般圖 二萬分ノ一又ハ五萬分ノ一

四 官有ニ係ルモノハ當該所管屬トノ協議書

五 府縣ノ所有ニ係ルモノハ當該府縣會ノ議決書

六 郡市町村ノ所有ニ係ルモノハ當該地方會ノ議決書及管轄官廳ノ許可書

七 土地收用法ニ依ルモノハ事業計畫書

八 土地ノ交換ニ係ルモノハ相互ノ評價書

前項ノ圖書ハ買收ニ係ルモノハ各一通、交換及內務省所管土地農商務省所管國有林野ノ管理換ニ係ルモノハ各二通其ノ他ハ總テ各三通トス

第二十四條 農商務省所管國有林野及民有地ヲ陸軍用地ニ編入シタルトキハ管轄者ヨリ其ノ年月日所在地名、地目及地積ヲ取纏メ翌年度四月二十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

民有地ノ買收ニ付テハ前項ノ外買收濟年月日、實費額及豫算殘額ヲ其ノ都度管轄者ヨリ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十五條 土地編入ヲ爲シタルトキハ成ルヘク不朽ノ物質ヲ以テ境界標ヲ設ケ編入地ノ境界ヲ

明カニスヘシ

明カニスヘシ

第二十六條 不用地ヲ還付セムトスルトキハ管轄者ニ於テ第二十三條第一項第一號乃至第三號ノ圖書ヲ添ヘ尙地上物件ノ處分ヲ要スルモノハ其ノ處分ニ關スル意見ヲ具シ陸軍大臣ニ伺出ヘシ

第二十七條 土地ノ借入ニ付テハ第二十三條乃至第二十五條借入地ノ返還ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五章 土地建造物ノ使用

第二十八條 管轄者ハ土地建造物ニ係ル官有財產簿ヲ備フヘシ

第二十九條 各部隊ニ交付スル土地建造物ハ其ノ供用名稱ヲ表示セル圖面及受授證書ヲ添ヘ管轄者ヨリ之ヲ使用者ニ引渡スヘシ

第三十條 使用者ハ管轄者ノ承認ヲ受クルニ非サレハ土地建造物ニ工事ヲ施シ若ハ其ノ用途ヲ變更シ又ハ土地ノ掘鑿、植樹、伐木等ヲ爲スコトヲ得ス

但シ牧場等ノ事業ニ係ル土地ノ掘鑿ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 土地建造物用途ノ重大ナル變更ハ管轄者ヨリ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 災害其ノ他ノ事故ニ依リ使用土地建造物ニ損害ヲ來スヘキ虞アル場合ニ於テハ當該使用者ニ於テ保存上應急ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十三條 災害其ノ他ノ事故ニ依リ土地建造物ニ異狀ヲ生シタルトキハ管轄者ヨリ速ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十四條 土地建造物ノ還付ヲ要スルトキハ使用者ヨリ第二十九條ノ圖書其ノ他關係書類ヲ添ヘ管轄者ニ引渡スヘシ

明治四十四年五月 陸軍省陸軍第十四號 陸軍管轄事務規程

八三

前項ノ建造物ニシテ全ク不用ニ歸スル見込ノモノハ管轄者ヨリ意見ヲ具シ其ノ處分ヲ陸軍大臣ニ伺出ヘシ

○陸軍第十五號

陸軍簿表規程中左ノ通改正ス

明治四十四年五月九日

陸軍大臣 伯爵寺内正毅

- 第二條ニ左ノ八號ヲ加フ
- 第三十四 工事費増減仕譯書(樣式第三十一)
 - 第三十五 工事費明細書(樣式第三十二)
 - 第三十六 工事工程表(樣式第三十三)
 - 第三十七 工事日誌(樣式第三十四)
 - 第三十八 職工人夫出面帳(樣式第三十五)
 - 第三十九 工率材料検査簿(樣式第三十六)
 - 第四十 工事承印簿(樣式第三十七)
 - 第四十一 土地調書(樣式第三十八)
- 樣式第十一工事設計書ニ左ノ如ク加フ

- 備考
- 一 疑義ヲ生スル字句ヲ避ケ字體ハ成ルヘク楷書ヲ用井末文ノ餘白ハ斜線ヲ以テ抹消スヘシ
 - 二 設計書ハ圖面ト共ニ袋綴ト爲シ封シ目ニ管轄者(陸軍省陸軍部及ニ於テ設計ヲ掌ル者)ノ認印ヲ押捺シ表紙ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ浩翰ナルモノニ在リテハ圖面ハ分離シテ綴集スルモ妨ナシ
 - 三 紙數設計書ト圖面トノ紙數
 - 四 設計者(筆記者)又ハ製圖者ノ官氏名但シ署名ノ下ニ認印セシムヘシ
 - 五 調製年月日
 - 六 保存ニ堪ヘ難キ笨摺版ノ類ハ使用スヘカラス
 - 七 誤記訂正ハ朱線原文朱書ナルニ條ヲ畫シテ訂正又ハ加書シ其ノ事由ヲ欄外ニ記註シ管轄者認印スヘシ

(樣式第三十一) 用紙費減減

工事費増減仕譯書

一金 何 圓 (年月日第何號認可)

一金 何 圓 新豫算金額

送引 減増 何何圓

名	稱		構造	寸法	數量	積算	單位	單價	小計	送引
	新	舊								
聯大隊本部	新	舊	木造二層家	二六〇〇		一五六〇〇	坪	一四〇〇〇	一八七、三〇〇	
同	新	舊	木造	六〇〇〇		一五六〇〇	坪	一五〇〇〇	一七、九〇〇	
同	新	舊	木家造	六〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	一七、九〇〇	
同	新	舊	木家造	二〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	七、八〇〇	
同	新	舊	木家造	六〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	九、九〇〇	
同	新	舊	木家造	二〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	七、八〇〇	
同	新	舊	木家造	六〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	九、九〇〇	
及同	新	舊	木家造	二〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	七、八〇〇	
及同	新	舊	木家造	六〇〇〇		一五〇〇〇	坪	一五〇〇〇	九、九〇〇	
									二一〇、〇〇〇	

床大曳根太掛共	同	〇〇〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	本
何				
何	倉庫ノ分			
何				
何				
何				
何				
何				
何				
何				
何				

(注意) 内閣ハ建造物毎ニ區分スヘシ

(様式第三十三) 用紙半紙

工事工程表

名	起工年月日	竣功年月日	日数	備
敷地地平均	何年何月何日	何年何月何日	何日	
地形相方及掘壁	同	同	同	
コンクリート打	同	同	同	
腰積	同	同	同	
軸廻リ水府及建方	同	同	同	
小屋組	同	同	同	

何兵第何聯(大)隊何ノ工事ニ係ル分

(様式第二十四) 用紙半紙

工事日誌

野地打	同		
屋根瓦葺	同		
内外部造作	同		
床	同		
排水工事	同		
跡掃除	同		
何	同		

工事ノ種類	何兵第何聯(大)隊何ノ工事
起工	年 月 日
請負金額	金
部分拂	年月日金 年月日金 年月日金 年月日金
請負人住所氏名	代理人住所氏名

(注意) 設計書變更ニ基テ請負金額ノ増減代理人ノ變更等指記スルニ或者千ノ録白ヲ存スヘシ

(様式第三十五)其ノ一 用紙美濃紙

常備職工人夫出面帳

何兵第何職(大除何々工事ニ係ル分)

(注意) 記事ニハ作業進捗ノ状況持込材料検査ノ状況上官ノ巡視上官ヨリ與ヘラレタル命令指示及請負人ニ與ヘタル命令指示、注意等工事ニ關シ日日生シタル事項ヲ詳細ニ記載スルモノトス但シ工事承印簿、工事材料検査簿ニ詳記シタル事項ハ其ノ要旨ニ止ムルコトヲ得

月	一	記事											
		人員	夫	工	大工	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
二十	二十	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

(様式第三十五)其ノ二 用紙美濃紙

供給職工人夫出面帳

何兵第何職(大除何々工事ニ係ル分)

(注意) 一 本帳簿ハ直營工事ノ場合ニ限リ調製スルモノトス
二 工場主任官ハ毎日之ヲ検査スルモノトス

現場監視員印	供給年月日	名	稱	人員	日給額	小計	賃金仕拂	供給者住所氏名
①	明治四年	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某
②	同日	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某
③	同日	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某
④	同日	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某
⑤	同日	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某
⑥	同日	日大	工	十人	1000	10000	明治四年	何某

(様式第三十二) 用紙美濃紙

工事材料検査簿

検査年月日	名称	検査数量	合格数量	検査方法	検査場所	立會者	主任官
明治何年何月何日	割栗硬石	立三坪	立三坪	〇〇	現	工場主任官 何某某	何某某
同	目潰砂利	立二坪	立二坪	〇〇	併	工場主任官 何某某	何某某
同	地形用杭	五十本	三十本	〇〇	計	工場主任官 何某某	何某某
同	焼通煉瓦	千箇	八百箇	〇〇	同	工場主任官 何某某	何某某
何月何日	何々	二十樽	二十樽	〇〇	何々	工場主任官 何某某	何某某
同	川砂	立二坪	立二坪	〇〇	水洗	工場主任官 何某某	何某某

(様式第三十七) 用紙半紙

工事承印簿

年月日	事項	何兵第何聯(大隊)何々工事ニ係ル分	受命者氏名印
明治何年何月何日	一 左記諸點ハ設計書圖面ニ對シ違反(不合理)ト認メ何月何日迄ニ手直ラザルヘシ		何某某
	一 何々		何某某
	一 何々		何某某

(様式第三十八) 用紙半紙

土地調書

(府) 縣	(市) 郡	(町) 村	大字	字	地番	地目	地積	買收價格

(注意) 一 工場主任官ヨリ購買人又ハ代理人ニ命令指示注意シタル事項ニテ後置ニ供スヘキモノハ一切之ヲ掲記スルモノトス但シ工場主任官以外ノ者ニ於テ爲シタルモノハ特ニ其ノ旨附記スヘシ
 二 手直工事其ノ他重要ノ事項ニ付テハ購買人又ハ代理人ヲシテ自署セシムルモノトス

○陸軍第十六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十四年五月十日

第十一表中野砲兵ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

騎砲兵大隊 五九〇三〇

同表備考四中、大隊ニ以下ヲ增加スニ改ム

第十四表中野砲兵ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

騎砲兵大隊	三三三〇〇	一〇九九〇	九二八〇	二四四五〇
-------	-------	-------	------	-------

同表備考中、大隊ニ以下ヲ增加スニ改ム

○陸軍第十七號

陸軍各隊陣營具定數表及附圖中左ノ通改正ス

明治四十四年五月二十六日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

○陸軍第十八號

明治四十二年陸軍第四十二號衛戍病院分院ノ名稱及位置中東京第一衛戍病院中野分院ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治四十四年五月二十七日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

東京第一衛戍病院熱海分院

静岡県伊豆國田方郡熱海町

○海軍省達第五十七號

海軍砲術學校教官並教員ニシテ學術實地研究ノ爲陸軍戸山學校、海軍大學校へ出張スル場合及海軍水雷學校教官並教員ニシテ學生又ハ練習生指導ノ爲無線電信所へ出張スル場合ノ旅費ハ別表ニ依リ往返旅費ハ各其ノ定額、滞在旅費ハ目的地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄之ヲ支給ス

(別表)

海軍大臣 男爵齋藤實

旅費等級	往還旅費	滞在旅費
砲術學校教官並教員 六等以上	第一表定額	一圓三十錢
同 教員 七、八等	同	一圓
水雷學校教官 三、四等	第二表定額	二圓五十錢
同 教員 五、六等	同	一圓七十錢
同 同 七、八等	同	七十錢

○海軍省達第五十八號

恩給扶助料取扱手續中左ノ通改正ス

明治四十四年五月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

第四條 鎮守府司令長官前條ノ履歷書ヲ下付スルニ際シ兵籍簿ニ軍人ノ妻登記シアルトキハ人事部長ヲシテ直ニ其ノ兵籍簿ヲ人事局ニ送附セシムヘシ

第一書式中(元)軍艦何々(某)何々(休職)及位勳ヲ削ル
 第二書式第三書式第十三書式及第十四書式中位勳ヲ削ル
 第四書式及第十書式ヲ別紙ノ通改ム
 第十一書式中位勳ヲ削リ「卒」ヲ「下士卒」ニ改ム
 第十二書式中位勳及證人(二名)親戚(故舊)現住地氏名ヲ削ル
 第十五書式中(位)(勳)ヲ削ル
 第十六書式中父名何年何月何日生母名何年何月何日生長男名何年何月何日生ヲ削リ(以下士
 兵事官記名捺印ス)ヲ(主)管スル人事部長記名捺印ス)ニ改ム
 (別紙)
 第四書式(用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年動履何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ給
 助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附書第一書式ニ同シ
 官(元官)爵氏 名

附屬スハキ證據書類

履歷書(第十書式)

(遺族ヨリ請求ノトキ)

給助金請求書

右現役中何年何月何日死亡仕候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求
 仕候也

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附書第一書式ニ同シ
 故官爵氏名長男(寡婦)父母兄弟等)
 家督相續人(遺産相續人)氏 名

附屬スハキ證據書類

履歷書(第十書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ左記ノ者ヨリ請求スルモノトス

軍人戸主ニテ死亡シタルトキハ家督相續人
 軍人非戸主ニテ死亡シタルトキハ遺産相續人

第十書式(用紙美濃紙)

履歷明細書

何年何月何日何何地士族(平民)

官氏 名

何年何月何日生

明治何年	何月何日	海軍何等本中付(任何官)
同	同	何々罪ニ依リ(禁錮)(徵役)何ヶ月ニ處ス
同	同	任海軍三等兵曹
同	同	何地發某國へ回航但軍艦何々乗組
同	同	何地發某國へ回航(警備)但軍艦何々乗組
同	同	何地發何々戰役ニ從事但軍艦何々乗組
同	同	某地へ歸著
同	同	任海軍上等兵曹
同	同	任海軍兵曹長
同	同	任海軍中尉
同	同	任海軍大尉
同	同	現役備初
同	同	豫備役
同	同	何々ニ依リ豫備役(兵役ヲ免ス)(本官ヲ免ス)
同	同	豫備役(後備役)(退役)

備考 軍人恩給法第二十四條第七號ニ該當スル遺利者ニ在リテハ其ノ判決前ノ階級ヲ添付スヘシ

職官(元官)爵氏 名

〔参照〕

海軍省達第百十七號恩給扶助料取扱手續(明治三十三年十二月二十二日)抄録

第四條 鎮守府司令長官前條ノ履歷書ヲ下付シタルトキハ兵曹官ヲシテ直ニ其ノ兵務官ヲ人事局ニ送附セシムヘシ

○海軍省達第五十九號

汽船高崎丸ニ左ノ通信號符字ヲ添付ス

明治四十四年五月十九日

信號符字

G Q D L

船名

高崎丸

海軍大臣

男爵齋藤實

○海軍省達第六十號

海軍官印規程第三條中「工作船指揮官」ノ次ニ「運送船指揮官」ヲ加フ

明治四十四年五月十九日

海軍大臣

男爵齋藤實

○海軍省達第六十一號

雇員備人規則別表備考中左ノ通追加ス

明治四十四年五月十九日

海軍大臣

男爵齋藤實

○海軍省達第六十二號

普通科信號術練習規則第五條中本科ノ部ヲ左ノ通改ム

明治四十四年五月十九日

海軍大臣

男爵齋藤實

一 信號器具

二 信號法

帝國海軍信號旗各種信號燈電氣裝置其ノ他ノ信號器具信號用火工品及關係器具

帝國海軍諸信號法萬國船舶信號法氣象信號法

三 勤務ニ關スル事項

艦船ノ識別、帝國海軍旗章及外國ノ主ナル旗章、艦隊ノ陣形及艦隊運動定語概要、勤務ニ必要ナル通信器具及測器取扱法、救難浮標ノ構造及取扱保存法、海軍旗章條例當直艦規定或軍港要港開港規定ノ摘要、海上衝突豫防法概要、軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦飾ニ關スル心得、甲板日誌及信號誌ノ記註心得等

四 砲術

銃隊教練、陸戰要務、小銃射擊

〔參照〕

海軍省達第六十一號普通科信號術練習規則(明治四十三年五月三十日)抄録
第五條 普通科信號術練習生ノ修業期間ハ約五箇月ニシテ之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

- 一 信號器具
 - 帝國海軍諸旗章、帝國海軍信號用各種燈、セマキ、電氣發光其ノ他ノ信號器具、舟艇兵器及夜中信號燈
- 二 信號法
 - 帝國海軍諸信號法、萬國船舶信號法、氣象信號法、海上衝突豫防法ニ依ル信號法、遠方回響柁柄信號法、モールス符號
- 三 勤務及附規定
 - 艦船ノ識別、艦隊陣形及排列ノ名稱、外國海軍ノ主ナル旗章、艦隊諸通信器具取扱法、救難浮標、海軍旗章條例當直艦、規定及軍港要港開港規定ノ摘要、軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦飾ニ關スル心得、甲板日誌及信號誌記註心得、水路測器取扱心得等
- 四 砲術
 - 銃隊教練、陸戰要務、小銃射擊

○海軍省達第六十三號

喇叭術練習規則第五條中左ノ通改

明治四十四年五月十九日

本科第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二號ヲ第三號ニ改メ

海軍大臣 男爵齋藤實

二 信號術

信號器具概要、信號法信號助手トスルニ足ル程度

別科ノ中「信號術信號助手トスルニ足ル程度」ヲ削ル

○海軍省達第六十四號

明治四十二年達第十一號中第十以下左ノ通改

明治四十四年五月二十四日

- | | | | |
|--------------|-------|-------------|-------|
| 十 高等科信號術練習生 | 金參拾五圓 | 十三 特修科軍樂練習生 | 金參拾五圓 |
| 十一 普通科信號術練習生 | 金參拾五圓 | 十四 專科軍樂練習生 | 金參拾五圓 |
| 十二 喇叭術練習生 | 金參拾五圓 | 十五 看護術練習生 | 金參拾五圓 |
- 前項第十乃至第十四ノ内同時ニ二種以上ノ練習生ノ卒業證書授與式ヲ施行スルトキハ其各種毎ニ定額ヲ使用スルコトナク一種分ノ定額ニ他種ノ分ヲ金拾圓宛トシテ合算シタル範圍内ニ於テ處辨スヘシ

〔參照〕

明治四十二年十一月二日海軍省達第十一號ハ學生生徒練習生卒業證書授與式取扱辨方ナリ

○會計検査院達第三號

朝鮮總督府收入徵收額證明程式

朝鮮總督府特別會計規則ニ依リ歳入徵收官ヨリ證明スヘキ朝鮮歳入徵收額證明ノ程式ハ明治三十四年會計検査院達第二號第三號及第四號ノ各徵收額證明規程ヲ準用スヘシ

○會計検査院達第四號

朝鮮總督府鐵道官署現金出納計算證明程式

朝鮮總督府鐵道官署ニ於テ歳入金歳出金及歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲シタルモノノ現金出納計算證明ハ明治三十九年七月會計検査院達第三號ヲ準用ス

○會計検査院達第五號

明治二十三年會計検査院達第四號政府ヨリ補助金ヲ受ケル公共事業費決算證明規程中左ノ通改正ス

明治四十四年五月五日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

第一條中「北海道廳府縣郡區市町村」ヲ「公共團體」ニ改ム

〔参照〕

會計検査院達第四號政府ヨリ補助金ヲ受ケル公共事業費決算證明規程(明治二十三年十二月二十八日)抄録
第一條 政府ヨリ補助金ヲ受ケル北海道廳府縣郡區市町村ハ會計検査院ノ判決ヲ受ケタルモノ左ノ方式ニ據リ毎年度決算計算書ヲ編製シ年度經過後九箇月以内ニ之ヲ其主管廳ニ送付スヘシ
第二條 受拂計算書ニハ地方議會ニ報告シタル補助金ヲ受ケル事業ニ關スル收支決算報告書ヲ添付スヘシ

○會計検査院達第六號

現業員共済組合收入支出計算證明規程左ノ通定ム

明治四十四年五月五日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

現業員共済組合收入支出計算證明規程

第一條 政府ヨリ給與ヲ受ケル各屬現業員共済組合ハ會計検査院ノ検査ヲ受ケタル爲メ別記書式ニ據リ收入支出計算書ヲ編製シ年度經過後四箇月以内ニ之ヲ主管廳ニ送付スヘシ

第二條 收入支出計算書ニハ年度末日現在財産明細書ヲ添付スヘシ

第三條 收入支出ニ關スル證憑書類ハ領收證書支出決議書其他收支ノ事實ヲ確認スヘキ書類トス但共提出ヲ要スルモノハ會計検査院特ニ之ヲ指定スヘシ

第四條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ收入支出計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ二十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第五條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 收入支出計算書ト帳簿トノ符合及殘額現存ノ保證
二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

第六條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第七條 明治四十一年會計検査院達第三號及第六號同四十二年達第一號及第二號ハ廢止ス

(別記)

明治何年度

何廳現業員共済組合收入支出計算書

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 一 計算書ノ用紙ハ御沙引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ段代ヲ存スヘシ
 一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤脱等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二捺ヲ横並ニ主
 任官之ニ捺印スヘシ

証憑書 何册
何 ヶ ク

何廳現業員共済組合

摘要	収入額			摘要	支出額			備考
	□	□	□		□	□	□	
前年度越前政現業員以外 政府給與金 利息 計	0	0	0	何々給與金 何々 翌年度へ繰越	0	0	0	何々受給者若干人
計	0	0	0	計	0	0		

明治何年度何現業員共濟組合收入支出計算證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年月日

〔参照〕

明治四十一年四月會計検査院第三號八帝國鐵道職員共濟組合收入支出證明規程、同年十一月同第六號八東京現業員共濟組合收入支出證明規程、同年四月同第一號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年八月同第二號八通信官現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十月同第三號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十一月同第四號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十二月同第五號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年一月同第六號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年二月同第七號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年三月同第八號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年四月同第九號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年五月同第十號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年六月同第十一號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年七月同第十二號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年八月同第十三號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年九月同第十四號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十月同第十五號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十一月同第十六號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、同年十二月同第十七號八印刷局現業員共濟組合收入支出證明規程、

○陸軍第十九號

臨時軍用氣球研究会ニ係ル經費ノ仕拂命令及歳入ノ徴收ハ近衛師團經理部長ニ、臨時脚氣病調査會ニ係ル經費ノ仕拂命令及歳入ノ徴收ハ第一師團經理部長ニ委任ス

○陸軍第二十號(官報六月五日)

陸軍大臣 伯爵寺内正毅

明治四十四年勅令第七十八號ニ依ル手當支給方左ノ通定

第一條 陸軍將校乗馬令ニ依リ飼養スル將校同相當官ノ自馬ニシテ陸軍部隊ニ於テ去勢施行ノ爲

斃死シ又ハ癱疾ト爲リタルトキハ左ノ區分ニ依リ手當ヲ支給ス

年齢十歳以下ノモノハ 將校馬名簿ニ在ル評價額五分ノ四

年齢十一歳以上ノモノハ 同 三分ノ二

前項ニ依リ算出シタル金額百八十圓ヲ超ユルトキハ總テ百八十圓ヲ支給スルモノトス

第二條 前條手當ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ將校馬名簿寫及診斷書ヲ添ヘ順序ヲ經テ所

管長官ニ差出スヘシ

第三條 所管長官前條請求書ヲ受ケタルトキハ三名以上ノ審査委員ヲ命レ之ヲ審査セシム

第四條 審査委員ハ將校馬名簿及診斷書ニ據リ手當支給ノ當否及手當金額ヲ定メ所管長官ニ報告

スヘシ

第五條 所管長官ハ前條報告ヲ審査シ手當金ヲ決定シ本人ニ支給ス

第六條 所管長官手當金ノ支給ヲ了シタルトキハ關係書類寫ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告スヘシ

○海軍省第六十五號

海軍無線電取扱規程附表第一海軍艦(船)名略符號ノ欄中左ノ通改正ス

明治四十四年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

一 追加スヘキモノ
 艦隊ノ部周防ノ次ニ
 GK C 河内
 二等巡洋艦ノ部利根ノ次ニ
 GCM 筑摩
 海防艦ノ部高雄ノ次ニ
 GK K 葛城
 驅逐艦ノ部綾波ノ次ニ
 RUK 海風
 雜役船ノ部淀橋丸ノ次ニ
 KRS 歷山丸
 二 削除スヘキモノ
 海防艦ノ部
 GY Y 鐵速
 通報艦ノ部
 GY Y 八重山
 砲艦ノ部
 GAR 赤城
 驅逐艦ノ部
 KIM 電

○海軍省達第六十六號
 舞鶴海軍工廠ニ於テ製造ノ驅逐艦二隻左ノ通命名ス
 明治四十四年六月五日
 第三十三號驅逐艦 櫻
 第三十四號驅逐艦 櫻

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第六十七號
 汽船夏島丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
 明治四十四年六月五日
 信號符字 GQB P
 船名 夏島丸
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第六十八號
 當分ノ内横須賀及吳海軍工廠會計部工場庫主管ノ配置ハ左ノ區分ニ從ヒ當該海軍工廠長之ヲ定ム
 明治四十四年六月七日
 横須賀海軍工廠會計部
 造船造機工場庫
 造兵工場庫
 吳海軍工廠會計部
 造船造機工場庫
 砲熳水雷工場庫
 製鋼工場庫

○海軍省達第六十九號
 海軍特修兵ノ取扱ニ關シ左ノ通定ム
 明治四十四年六月九日
 海軍大臣 男爵齋藤實

一 特修兵ハ別ニ規定アルモノ、外他ノ特修兵トナルヘキ練習生ニ選拔スルコトヲ得ス但シ當分

ノ間左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

イ 普通科掌砲證狀若ハ普通科掌水雷證狀ヲ有スル者ヲ運用術練習生ニ選拔スルコトヲ得
ロ 舊信號兵曹又ハ信號兵出身ニシテ現ニ普通科一等又ハ二等掌電信證狀ヲ有スル二等兵曹以下二等水兵以上ヲ高等科信號術練習生ニ選拔スルコトヲ得但シ高等科信號術練習規則第三條第三號ニ關シテハ普通科一等又ハ二等掌電信證狀ヲ授與セラレタル日ヨリ六箇月以上海上勤務ニ服シタル者タルヘシ

二 特修兵ニシテ更ニ他ノ證狀ヲ授與セラレタルトキハ前ニ有シタル證狀ハ無効トス看護術修業證狀又ハ筆記適任證書ヲ有シテ又ハ筆記適任證書ヲ有スル者ニ在リテモ亦同シ

三 特修兵現役ヲ離ル、トキハ其ノ有スル證狀ハ無効トス看護術修業證狀又ハ筆記適任證書ヲ有スル者ニ在リテモ亦同シ

四 當分ノ内掌電信兵ヲ以テ掌信號兵ニ代ヘ又普通科掌信號證狀ヲ有スル掌信號兵ヲ以テ掌角兵ニ代ヘ補充若ハ配置スルコトヲ得

五 從來ノ規定ニ依リ現ニ掌帆兵ニ代ヘ補充シアル掌信號兵ニシテ其ノ配置ニ在ル者ハ明治四十四年十一月三十日迄引續キ配置スルコトヲ得

○海軍省達第七十號

海軍無線電報取扱規約附表第一選信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

明治四十四年六月十九日

海軍大臣 男爵齋藤實

大阪商船ノ部笠戸丸ノ次ニ

S P M ばなま丸

○海軍省達第七十一號

海軍軍人軍屬休暇規則中左ノ通改正ス

明治四十四年六月十九日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十三條中「演習統監」ヲ削ル

第十四條中「臺灣總督府若ハ馬公要港部」ヲ「臺灣澎湖島朝鮮及樺太地方」ニ改ム

第十四條ノ二中「清國及韓國」ヲ「朝鮮樺太及清國」ニ改ム

第十四號ノ三中「若ハ樺太」ヲ「朝鮮若ハ樺太」ニ改ム

第十五條削除

第十九條中「關東州及韓國内」ヲ「滿洲租借地及南滿洲鐵道區域」ニ改ム

○海軍省達第七十二號

海軍武官文官考課表規則中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十四年六月二十三日

第七條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ三 高等武官ニシテ體格優等ト認メラレサル者其ノ所屬ニ異動ヲ生シタルトキハ前調製官ハ直ニ新調製官ニ其ノ所見ヲ通報スルモノトス

第十條第二十號中「劣トス」ノ下ニ「並又ハ劣ニシテ職務ノ繁雜、氣候ノ寒暑等ニ依リ勤務ニ堪ヘサル者アラハ其ノ職務並ニ堪ヘサル期間ノ豫想ヲ得ラル、者ハ之ヲモ併記スルヲ要メ假令ハ向後六箇月位ハ航海頻繁ナル艦船ノ勤務ニ堪ヘス、尙一箇年位ハ旅順ノ如キ冬季嚴寒ナル地方ノ勤務ニ堪ヘス等」ヲ加フ

別表第二號海軍省ノ部次官ノ下「大臣直屬諸員」ヲ「大臣直屬上長官、士官（兵曹長同相當官）（除ク以下同）」ニ改メ「學校

長ノ下(兵曹長同相當官)ヲ削リ、鎮守府ノ部鎮守府司令長官ノ下、直屬諸員ヲ、直屬上長官、士官ニ改メ、備考第四中其長之ヲ刪製シ、ノ下ニ兵曹長同相當官ヲ加ヘ、其他本表ニ掲ケサル者ノ考課表モ亦之ニ準ス、ヲ削リ左ノ通第五ヲ追加ス

第五 本表ニ於テ調製官ヲ定メス又ハ本表ノ所定調製官ナキ場合ニ於ケル考課表ノ調製ニ關シテハ前號ヲ準用ス

○海軍省達第七十三號

海軍經理學校規則中左ノ通改正ス

明治四十四年六月二十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

第九條ノ二 丙種學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ其ノ鎮守府在籍ノ上等筆記中適當ト認ムル者ヲ選拔シ之ニ經理學校丙種學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告スルト同時ニ之ヲ海軍省經理局長ニ通報スヘシ

第九條ノ三 丙種學生卒業シタルトキハ各共ノ在籍鎮守府ニ復歸セシムヘシ

○海軍省達第七十四號

海軍無線電報取扱規約附表第一選信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十四年六月二十七日

東洋汽船ノ部亞米利加丸ノ次ニ

T B Y 武洋丸

○海軍省達第七十五號

高等科信號術練習規則中左ノ通改正追加ス

明治四十四年六月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第七條本科ノ部ヲ左ノ通改ム

本科

一 信號器具

帝國海軍信號旗、各種信號燈其ノ他ノ信號器具、信號用火工品及關係器具

二 信號法

帝國海軍諸信號法、萬國船舶信號法、氣象信號法

三 勤務ニ關スル事項

艦船ノ識別、帝國海軍旗章及外國ノ主ナル旗章、艦隊ノ陣形及艦隊運動定語概要、勤務ニ必要ナル通信器具及測器取扱法、救難浮標ノ構造及取扱保存法、海軍旗章條例共ノ他旗章ニ關スル諸法規則ノ摘要、當直艦規定並軍港要港開港規定ノ摘要、海上衝突豫防法概要、兵備品會計概要、軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦飾ニ關スル心得、海上氣象概要、水路圖誌概要、航路標識概要、航路日誌甲板日誌信號誌記註心得等

四 電氣器具

電氣及磁氣ノ概要、電池電鎗電線電氣計器ノ概要、電氣通信機共ノ他艦橋裝備電氣器具ノ構造大意並取扱保存法、白熱電燈及探照燈ノ概要

五 本科第一號ヨリ第三號ニ至ル教授法概要

第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二 橫須賀海兵團長ハ高等科信號術練習生ノ卒業式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

〔參照〕

海軍省達第六十號高等科信號術練習規則(明治四十三年五月三十日)抄録

第七條 高等科信機術練習生ノ修業期間ハ普通科一等掌信機師狀ヲ有スル者ニ在リテハ約六箇月、一等掌角機師狀ヲ有スル者ニ在リテハ約七箇月ニシテ之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一 信號器具

帝國海軍諸旗章、帝國海軍信號用各種燈、セマホア、其ノ他ノ信號器具、舟艇兵器及夜中信號燈

二 信號法

帝國海軍諸信號法、萬國船舶信號法、氣象信號法、海上衝突預防法ニ依ル信號法、海力回轉舵補信號法、モールス、符號

三 勤務及諸規定

艦船ノ識別外國海軍ノ主ナル旗章、東洋ニ於ケル主ナル内外汽船會社ノ旗章及船舶機突候色識別、艦隊ノ陣形及排列名稱、艦橋諸通信器具取扱法、救難浮標、諸法規中旗章ニ關スル事項、捕獲要當直艦ノ規定、海上衝突預防法兵器品管理規程、軍港要港開港規定ノ捕獲軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦節ニ關スル心得、航泊日誌甲板日誌信機師心得、水路諸測器取扱法、水路圖誌概要、海上氣象概要、航路標識概要等

四 電氣器具

電氣及磁氣ノ概要、電池、電線、電氣通信機其ノ他艦橋裝備電氣器具ノ構造大意、自熱燈及探照燈ノ概要

五 本科第一號ヨリ第三號ニ至ル教授法概要

○海軍省達第七十六號

神戸川崎造船所ニ於テ製造ノ波號二等巡洋艦ヲ平戸ト命名セラル

明治四十四年六月二十九日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第七十七號

海軍端舟帆走教範別冊ノ通定ム

但シ別冊ハ海軍教育本部ヲシテ要スル向ニ配付セシム

明治四十四年七月六日

○海軍省達第七十八號

海軍無線電取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

明治四十四年七月六日

大阪商船ノ部ばなま丸ノ次ニ

海軍大臣 男爵齋藤實

S S T ちよとる丸

○海軍省達第七十九號

電氣兵器名稱中左ノ通り改ム

明治四十四年七月七日

在來ノ名稱

海軍大臣 男爵齋藤實

變電路臺

新名稱

起電力檢測計

配電盤

強電力檢測計

電壓計

起電力兼強電力檢測計

電流計

電氣發動機

電壓計兼電流計

回轉變壓器

電動機

無線電信艦内練習器

直流變壓機

發電機要具筐

無線電信練習器

發動子

電路補修要具筐

要具共

明治四十四年七月 海軍省第七十七號 第七十八號 第七十九號

○海軍省達第八十號
海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改ム

明治四十四年七月八日

第六條ノ三 下士卒轉勤又ハ出張等ノ爲メ出發シ途中事故アリテ滞在ヲ要スルトキハ若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ所屬艦團部隊所在地以外ノ地ニ滞在ヲ要スルトキハ一時附近ノ海兵團ニ入團
海兵團在ラサルトキハ附近ノ敷設隊等ニ入隊 セシムルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄錄
第六條ノ三 下士卒轉勤若ハ出張等ノ爲メ出發シ途中事故アリテ滞在ヲ要スルトキハ一時附近ノ海兵團ニ入團(海軍省達第九十七號)セシムルコトヲ得

○海軍省達第八十一號

東京各廳(下關火藥製)ニ在勤スル高等官判任官ニシテ宿直、一晝夜交替、徹夜又ハ晝間ヨリ引續キ勤務ニ宿泊シ服務スル者ニハ別表ニ依リ食料ヲ支給ス但シ時宜ニ依リ別表ノ金額以內ニ於テ現品ヲ給與スルコトヲ得
本達ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

海軍大臣 男爵齋藤實

備	食料區分		上長官	文士官	兵曹長同相當官及准士官
	金	額			
一、本表ノ食料ハ一直若ハ二夜ニ對スル金額トス	四	十			
二、本表ノ食料ハ海軍給與令ニ依リ食料若ハ糧食ヲ受クル者ニハ支給セス					
三、本表ノ食料ハ明治四十年勅令第八號ニ依リ勳勳手當ヲ受クル者ニハ支給セス					

○海軍省達第八十二號

明治四十年達第十八號ニ左ノ一項ヲ追加ス
前項ノ規定ハ東京各廳(下關火藥製)ニ勤務スル判任官ニ之ヲ適用セス
本達ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省達第十八號(明治四十年三月十九日)
判任官以下宿直及其ノ他ノ場合ニ於テハ別表ニ依リ食料ヲ支給ス但シ時宜ニ依リ別表ノ金額以內ニ於テ現品ヲ給與スルコトヲ得

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第八十三號

驅逐艦機關日誌甲乙丙及丁別冊ノ通定ム但シ左記各艦隊ニ限り特ニ海軍總政本部ヲシテ之ヲ配付セシム
本達ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年七月十七日

- 軍務局 總政本部 海軍大臣 男爵齋藤實
- 第一艦隊 要港部 教育本部 鎮守府 第一艦隊
- 海軍省達第八十四號 兵學校 機關學校 工機學校

機關年報並機關日誌取扱及記載心得中左ノ通改正ス

明治四十四年七月十七日

第三條

機關日誌ハ軍艦機關日誌、驅逐艦機關日誌ノ二機式トシ共ニ正本及副本(副本中機關摘要、汽走表(甲)、需品及豫備品表、備考表ノ各表ニ切リ取りヲ設ケ機關日誌摘要ノ作成ニ供フ)ヲ設

海軍大臣 男爵齋藤實

又機關日誌ハ正本副本共ニ甲乙丙丁ニ區別シ甲ハ一臺若クハ二臺ノ吸鑄式主機械ヲ備フルモノニ乙ハ三臺ノ吸鑄式主機械ヲ備フルモノニ丙ハカーチス、タルビン式主機械ヲ備フルモノニ丁ハパーソンス、タルビン式主機械ヲ備フルモノニ充用シ又驅逐艦機關日誌ハ水雷艇ニ適用ス

第二十四條ノ二、第二十五條、第二十六條ノ二、第二十六條ノ三、第三十二條ノ二及第三十六條中軍艦ヲ削ル

○海軍省達第八十五號

海軍無線電報取扱規約附表第一透信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

明治四十四年七月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

大阪商船ノ部ニ添ふる丸ノ次ニ

S M X めきしこ丸

○海軍省達第八十六號

艦艇需品中ノ艦砲射擊用第三種標的筒ヲ標的筒ト改稱シ雜役船ニ編入ス

但目下製造中ノモノニ對シテハ其竣工ニ至ルマテハ艦艇需品トシテ整理スルモノトス

明治四十四年七月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第八十七號

明治四十年達第七十五號職工人夫扶助金支給細則中左ノ通改正ス

明治四十四年七月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條 前條ニ依リ職工人夫ニ扶助金ヲ支給スヘキモノアルトキハ所轄艦團其ノ他各部ノ長ハ傷疾疾病又ハ死亡ノ原因及其ノ輕重ヲ審査シ給額ヲ定メ診斷書並現認者ノ現認證書又ハ之ニ準スヘキ書類ヲ添ヘ所管長官ニ具申シ其ノ承認ヲ受ケ之ヲ支給スルモノトス

前條ニ依リ職工人夫ニアラサレ備人ニ扶助金ヲ支給スヘキモノアルトキハ前項ノ例ニ依リ所管長官ヲ經由シ海軍大臣ニ具申シ其ノ認許ヲ受ケ之ヲ支給スルモノトス

第三條 前條ノ扶助金ハ該艦團其ノ他各部ニ於テ支給スルモノトス但シ艦船ニ於テ支給スヘキ扶助金ニ限リ其ノ所管鎮守府所在地經理部ニ依リテ支給スルコトヲ得

〔参照〕

海軍省達第七十五號職工人夫扶助金支給細則(明治四十年六月二十九日)抄録

第二條 扶助金ヲ支給スヘキ者アルトキハ所轄艦團其ノ他各部ノ長ハ傷疾疾病又ハ死亡ノ原因及其ノ輕重ヲ審査シ給額ヲ定メ診斷書並現認者ノ現認證書又ハ之ニ準スヘキ書類ヲ添ヘ所管長官ニ具申シ其ノ承認ヲ受ケ該艦團其ノ他各部ニ於テ支給スルモノトス但シ艦船ニ於テ支給スヘキ扶助金ニ限リ其ノ所管鎮守府所在地經理部ニ依リテ支給スルコトヲ得

○海軍省達第八十八號

海軍艦政本部處務規程第十一條第八號ヲ削ル

明治四十四年七月三十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

海軍省達第五十八號海軍艦政本部處務規程(明治三十四年五月十四日)抄録

第十一條 第四部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

八 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト

○陸達第二十一號

下士以下軍服中改正地質(茶襦袢降絨)ヲ以テ製作シタル被服ノ著用竝ニ交付方左ノ通定ム
明治四十四年八月三日

陸軍大臣 伯爵寺内正毅

一 士官候補生、主計候補生、幼年學校生徒及營内居住下士ニハ第二種帽、絨衣袴ニ限リ改正地質ヲ以テ製作シタルモノヲ著用セシム

二 前號ノ被服ハ明治四十五年度ヨリ之ヲ交付ス但シ營外居住下士ノ爲豫メ所要數ヲ見込ミテ受領シ置キ其拂下方ニ就テハ明治四十一年十一月陸普第五二九八號通牒ヲ適用ス

三 第一號ノ被服ハ其員數軍隊經理規程附表下士以下被服所持定數ニ充タサル間ハ同表備考第一號第一裝、第二裝著用ノ場合及通常外出ノ際使用セシムルモノトス

○陸達第二十二號

陸軍通信術修業者通信吏員志願手續左ノ通定ム
明治四十四年八月二十六日

陸軍大臣 伯爵寺内正毅

陸軍通信術修業者通信吏員志願手續

- 第一條 陸軍ニ於テ通信術ヲ修業シタル下士兵卒ニシテ通信吏員ヲ志願セムトスル者ハ電信隊長ニ願出テ通信術技術證明書ノ下付ヲ受ケ願書(附錄第一號様式)及履歷書(附錄第二號様式)正副二通ト共ニ現役滿期ハ歸休兵ニ在リテ以下同シノ年ノ九月二十日迄ニ電信隊長ニ差出スヘシ
- 第二條 通信術技術證明書ハ電信隊長ニ於テ通信技術優良ニシテ品行方正勤務ノ結果良好ナリト認めタル者ニ之ヲ付與スルモノトス

明治四十四年八月 陸軍省陸達第二十一號 第二十二號 陸軍通信術修業者通信吏員志願手續

第三條 電信隊長ハ毎年四月中ニ第一條ノ志願者見込人員ヲ順序ヲ經テ陸軍省ニ報告スヘシ

第四條 電信隊長ハ第一條ノ願書共ノ他ノ書類ヲ調査シ毎年九月末日迄ニ取懸メ之ニ一連ノ考科列次名簿(附録第三號様式)ヲ添ヘ順序ヲ經テ陸軍省ニ進達スヘシ

第五條 前條ノ書類進達後第一條ノ志願ヲ取消シ又ハ通信術修業者證明書ヲ付與スヘカラスト認ムル事故アリタルトキハ電信隊長ハ速ニ其ノ事由ヲ順序ヲ經テ陸軍省ニ報告スヘシ但シ現役滿期後志願ヲ取消サルトスルトキハ本人ヨリ其ノ旨陸軍省及逓信省ニ届出フルモノトス

第六條 本手續ニ據ル志願者ハ別ニ試験ヲ要セス通信書記補又ハ通信事務員ニ採用セリルモノトス但シ其ノ採用ニ關シテハ逓信省ヨリ之ヲ本人ニ通知ス

第一號様式(用紙美濃白紙)

通信吏員採用願

通信吏員志願ニ付御採用被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ職務ニ從事可仕候仍テ月給ノ際不願職務及逓信術修業者證明書相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
子 弟

身元保證人
府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
子 弟

年 月 日
逓信大臣氏名殿

氏 名印
年 月 日 生

氏 名印
年 月 日 生

進テ就職地左ノ逓信吏員候補也

- 第一 何 地
- 第二 何 地

備考

就職地ヲ希望セサルモノハ其ノ旨記載スヘシ

志願者ノ居住地欄ニハ現役滿期後採用ノ通知ヲ受ケムトスル場所ヲ記載スヘシ

願書記載ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ都度陸軍省及逓信省ニ届出ツヘシ

第二號様式(用紙美濃白紙)

履歴書

學業

- 一 何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業
- 一 何年月日何學校何年學級ヨリ何學校何年學級ニ入學何年月日同校卒業
- 一 何年月日何所ニ於テ何々研究

職業

- 一 何年月日何々ニ從事ス但シ日給何錢
- 一 何年月日日給何錢ヲ給セラル
- 一 何年月日何々ニ依リ賞(罰)シ

(右ノ例ニ依リ履歴ニ關スル事項ハ悉ク記載スヘシ)

右之通相違無之候也

府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
府縣旗籍
府主 戶主ニアラサレハ
子 弟

原籍 府(縣)郡(市)町(村)番地
居住地 府(縣)郡(市)町(村)番地

志願者ノ居住地ハ現役滿期後採用ノ通知ヲ受ケムトスル場所ヲ記載スヘシ

氏 名印
年 月 日 生

第三號様式(用紙美濃白紙)

考科列次名簿

序列番號	考科ノ大要	品行	官氏名
一		甲	陸軍工兵軍曹 何 某
二		甲	陸軍工兵伍長 何 某
三		乙	陸軍工兵一等卒 何 某
四		甲	陸軍工兵上等兵 何 某
五		乙	同 右 何 某

考 備
考科ノ大要欄ニハ性質、通信吏員トシテ適任業務ノ見込及現字體、音聲ニ依ル一分間ニ於ケル和文並歐文ノ送受信字數等任用又ハ採用上美劣トナルヘキコトノ大要ヲ記シスルモノトス

○海軍省達第八十九號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

明治四十四年八月七日

大阪商船ノ部 めきしこ丸ノ次ニ

S C C 三かご丸

○海軍省達第九十號

海軍准士官下士官任用進級試験規則中左ノ通改正ス

明治四十四年八月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍准士官下士官任用進級試験科目表水兵部員欄内

特修兵以外ノ者		特修兵以外ノ者	
砲術	二五	砲術	二五
水雷術	二五	水雷術	二五
運用術	二五	運用術	二五
雜・同	五〇	雜・同	五〇

水雷術ニ長スト認ムルトキ又ハ本人之ヲ志望スルトキハ水雷術ヲ試験ス此ノ場合ニ於テ砲術ハ銃隊及口砲隊要務ニ止メ其ノ餘點ハ砲術一〇水雷術一五トス

水雷術、信號術、電信術若ハ喇叭術ニ長スト認ムルトキ又ハ本人之ヲ志望スルトキハ水雷術、信號術、電信術若ハ喇叭術ヲ試験ス此ノ場合ニ於テ砲術ハ銃隊及口砲隊要務ニ止メ其ノ餘點ハ砲術一〇水雷術、信號術、電信術若ハ喇叭術ヲ一五トス

○海軍省達第九十一號

海軍武官増修規則中左ノ通改正ス

明治四十四年八月十日

第四條第一項第一號ヲ左ノ通改正ス

一 大尉同相當官ニ一級俸及二級俸ヲ給スルハ毎級各共ノ人員ノ三分ノ一、中尉、兵曹長及各同相當官ニ一級俸ヲ給スルハ各共ノ人員海軍給與令第一表軍人俸給表備考第五ノ二分ノ一

明治四十四年八月 達 海軍省第九十一號

海軍大臣 男爵齋藤實

前項上級ニ缺員アリテ其ノ次級増俸資格者ノ數之ヲ補フニ足ラサルトキハ其ノ不足數ヲ次級以下ノ増俸セシムヘキ數ニ加フルコトヲ得

第六條中(第三條ノ規定ニ該)ヲ(第三條及第六條ノ二ニ)ニ改ム

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二 兵曹長同相當官中海軍給與令第一表軍人俸給表備考第五ノ俸給ヲ給シ又ハ准士官中一級俸ヲ給スルニ適當ナリト認ムル者アルトキハ海軍上長官士官任用進級取扱規則ニ規定シタル拔擢名簿及候補名簿調製官ハ該規則ニ準シ同ノ手續ヲ以テ七月三十一日ノ所屬ニ就キ別紙様式ニ依リ増俸拔擢名簿及増俸候補名簿ヲ調製シ之ヲ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スヘシ

増俸拔擢名簿又ハ増俸候補名簿ヲ進達又ハ移牒シタル後増俸セシムヘカワサル事由ヲ生シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ具申又ハ通牒スヘシ但シ本文ノ手續ハ現在所屬ノ調製官之ヲ行フモノトス

第八條 削除

(別紙)

様式一

明治 年 月 日

艦團部隊廳長(調製名簿)

所管長官(候補名簿)宛

兵曹長(上等機關兵曹)増俸拔擢名簿

順	現任官ニ任シタル年月日	現俸給與第三條除算増俸資格現俸中引入年月日	職	氏名
一				
二				
三				

様式二

明治 年 月 日

所管長官(候補名簿)

海軍大臣宛

上等兵曹(看護長)増俸候補名簿

職 氏 名

(記註心得) 増俸拔擢名簿ニ同シ

〔参照〕

海軍省達第百六十三號海軍武官増俸規則(明治三十年十一月二十九日抄録)

第四條 毎級人員ハ左ノ制限ヲ超エサルヲ例トス

一 大尉同相當官ニ一級俸及二級俸ヲ給スルハ毎級各其ノ人員ノ三分ノ一中尉兵曹長並同相當官ニ一級俸ヲ給スルハ各其ノ人員ノ二分ノ一

第六條 海軍上長官士官任用進級取扱規則中ニ規定シタル拔擢名簿調製官ハ其ノ部下ニシテ第二條ニ規定セル期限ノ經過シタル高等武官准士官中増俸セシムルニ適當ナラスト認ムル者アルトキハ第三條ノ規定ニ依リ増俸セシムルコトヲ得

序ヲ經テ海軍大臣ニ具申シ又ハ移牒ス但シ該具申ハ同等官ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第八條 第六條及第七條第一ノ經由官具申者ト異ナリタル意見ヲ有スルトキハ其ノ趣ヲ添記スヘシ

○海軍省達第九十二號

海軍無線電報取扱規則附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通り追加ス

明治四十四年八月十四日

大阪商船ノ部ニカガ丸ノ次ニ

海軍大臣 男爵齋藤實

S C D かなだ丸

明治四十四年八月 遼 海軍省第九十二號

○海軍省達第九十三號
海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十四年八月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條 公務旅行ノ發着ハ所管長官モ代理者ニ在リテハ其ノ都度之ヲ海軍大臣ニ届出テ其ノ他ノ者ニ在リテハ十日以上ニ亙ルトキ其ノ發着ヲ所屬長ヨリ人事局長ニ在リテハ其ノ在籍守府人事部長ニ通知スヘシ

〔參照〕

海軍省達第九十六號海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録

○海軍省達第九十四號

海軍武官待命休職停職者心得中左ノ通改正ス

明治四十四年八月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條 削除
第六條中「閱覽シ諒知スヘキモノトス」ヲ「閱覽スヘシ但レ兵營長同相管官及准士官ニレテ在籍守府所在地以外ニ滞在地ヲ指定セラレタルトキ又ハ滞在地變更ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ滞在地東京ニ在リテハ海軍省ニ其ノ他ニ在リテハ所在鎮守府ニ就キ閱覽諒知スヘキモノトス」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第九十一號海軍武官待命休職停職者心得(明治三十二年十一月一日)抄録

第五條 待命者ハ毎月一回所轄艦ニ出頭シ備付ノ待命者名簿ニ捺印スヘシ但レ偏病者ハ旅行中ノモノハ全快後若ハ歸着届ヲ爲スノ際出頭シ捺印スヘシ

第六條 待命休職停職者ハ所轄艦ニ就キ海軍部内ノ諸令達(其ノ中ハ海軍省令ニ在リテハ海軍省令ニ依リテ)ヲ宜宜閱覽シ諒知スヘキモノトス

第八條 待命休職停職タル兵營長同相管官及准士官ニシテ在籍守府所在地以外ニ滞在地ヲ指定セラレタルトキ又ハ滞在地變更ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ滞在地東京ニ在リテハ海軍省ニ其ノ他ニ在リテハ所在鎮守府ニ就キ第五條及第六條ヲ履行スヘシ

○海軍省達第九十五號

吳鎮守府在籍

軍艦 姉川

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治四十四年八月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十六號

艦艇類別等級別表中軍艦ノ欄内「姉川」ヲ削除

明治四十四年八月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十七號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通り追加ス

明治四十四年八月二十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

大阪商船ノ部かなだ丸ノ次ニ

S T A

たこま丸

○陸運第二十三號

明治四十一年陸運第二十七號陸軍運輸部輸送規程中左ノ通改正ス

「臺灣、韓國、滿洲」ヲ「朝鮮、臺灣、滿洲」ニ改ム

陸軍大臣 野島石木新六

第五條中「木札」ヲ「堅牢ナル札」ニ改ム

第六條 銃砲火藥類取締法施行規則ニ依ル火藥類共ノ他發火ノ虞アル物品ハ所定ノ容器ニ收納シ其ノ容器又ハ包裝ノ頂部見易キ所ニ火藥類ニ在リテハ火藥、爆藥若ハ火工品共ノ他ニ在リテハ危險品ト明瞭ニ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉輸スルコトヲ得サルモノニ在リテハ其ノ旨ヲモ朱記スヘシ但シ油紙、油布等發火ノ虞アル物品ヲ以テ内部ヲ梱包シタルモノニ在リテハ其ノ内容品危險ニ非ラサルトキハ油紙梱包、油布梱包等ト朱記シタル標札ヲ附スルモノトス
標札ハ長サ七寸幅三寸ヨリ小ナラサルモノ四箇以上ヲ同著シ
頂部ニ明瞭ニスルモノニハ頂部ノ取扱ニ便ナラシムルモノトス但シ梱包ノ形狀大小ニ依リ適宜標札ノ數ヲ減スルコトヲ得

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ハ第二十六條ノ検査其ノ他税關検査ノ場合ニ於ケル開梱再梱ニ之ヲ準用ス
第十四條第二項中「家族」ハ「下ニ家族携行ヲ許可セラレタル者」ヲ加フ
第二十二條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 赴任ノ場合ニ在リテハ將官同相當官ハ百貫目、上長官ハ八十貫目、士官ハ七十貫目、准士官ハ四十貫目、下士以下ハ二十貫目トシ軍醫及備役者ハ之ニ準ス
第二十四條及第二十五條中輸送請求書ノ下ニ
附録第一ノ割註ヲ加フ
第三十條 輸送途中ニ於ケル人馬ノ給養ハ運輸部ノ指定シタル停車場ニ於テ行フモノトス但シ運輸部ヨリ指定ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

明治四十四年九月 陸軍省陸運第二十三號

考	備	計
一	名稱ヲ記上スルニハ...	
二	危險品ハ...	
三	發送準備...	
四	陸軍省...	
五	搭船...	
六	朝鮮...	
七	朝鮮...	
八	已...	
九	陸軍...	
十	本...	
十一	一オ...	

一 名稱ヲ記上スルニハ...
 二 危險品ハ...
 三 發送準備...
 四 陸軍省...
 五 搭船...
 六 朝鮮...
 七 朝鮮...
 八 已...
 九 陸軍...
 十 本...
 十一 一オ...

〔参照〕

陸運第二十七號陸軍運送規程(明治四十二年四月一日抄)

- 第五條 輸送物品ノ梱包ハ通常重量八貫目容積六才以内トシ發送者ニ於テ包裝ヲ堅固ニシ各箱包ニ物品ノ名稱及貯送部隊
號又ハ受領者發送者ノ所屬部隊號又ハ姓名ヲ記シタル木札二箇以上ヲ固着スルカ若ハ色紙表面ニ明記スヘシ
- 第六條 火藥其ノ他發火ノ虞アル物品又ハ油紙油布等發火ノ虞アル物品ヲ以テ内部ヲ梱包シタルヨリハ總テ危險品トシテ
取扱ヒ其ノ梱包ハ左ノ各號ニ依ルヲ要ス但シ一定ノ形式ニ依リ又ハ外部ヨリ其ノ内容品ノ性質ヲ明知シ得ル場合は此ノ
限ニ在ラス
- 一 箱包ニ在リテハ赤繩ヲ以テ外部ヲ縦横ニ結束スルコト
- 二 箱物ニ在リテハ表面ニ太キニ條ニ赤繩ニ以テハ字ヲ記スルコト
- 三 各梱包ニハ長サ七寸幅三寸ヨリ小ナラサル赤色ノ札四箇以上ヲ附ケ之ニ危險品タル物品ノ名稱ヲ書き置スルコト
- 第七條 運送部ハ輸送物品ノ梱包不完全ニシテ發送中破損ノ虞アリト認めタルモノハ其ノ改良者ハ補修ヲ輸送請求者ニ請
求シ又ハ運輸課ニ於テ之ヲ行ヒ輸送請求者ヲシテ其ノ費用ヲ支辨セシムルコトアルヘシ
- 第十四條第一項
左ニ列記スル者ハ所屬長官ノ證明書ヲ添ヘテハ受ケ運輸部ニ申出テ其ノ指示ニ従ヒ第十一條各號ノ船箱ニ積入スル
コトヲ得
- 三 臺灣・韓國・滿洲及北滿ニ在動スル陸軍軍人軍屬ノ家族及從者
- 同條第二項
- 第三號ノ家族ハ妻子其ノ他一家内ニ居住スル者ニ限ル又從者ハ動任官ハ二名以内養任官ハ一名トシ准士官以下ハ家旗漢
行ノ場合ニ限リ一名ヲ許可スルコトヲ得家族ノモ親類タル場合は從者亦同シ
- 第二十二條 第十三條第一號第十四條及第十五條該當者ハ被服・家具・日用品等各自ニ必要ナル物品ニ限リ私有物トシテ
左記定置以内ヲ携行スルコトヲ得
- 一 赴任ノ場合ニ在リテハ將官同相當官ハ六十貫目以上長官ハ五十貫目士官ハ四十貫目准士官ハ三十貫目下士官ハ二十貫
目トシ軍屬及從役者ハ之ニ準ス
- 第三十條 檢送途中ニ於ケル人馬ノ給養ハ普通列車ニ依ル場合ノ外運輸部ノ指定シタル停車場ニ於テ行フモノトス
- 第三十四條 第三十一條ニ於ケル食料類ハ陸軍規程則第四表ニ依リ第三十二條及第三十三條ニ於ケル船内食料類ハ別表
ニ依ル
- 第三十六條 人馬物件ノ輸送ニ關スル費用ハ左ノ區分ニ依リ支辨スルモノトス
- 一 船舶輸送費 船主ハ運輸部但シ委託買品及建築材料等ノ搭載揚陸費ハ當該部隊

○海軍省達第九十八號
海軍省處務規程中左ノ通改正ス

明治四十四年九月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第九條 海軍省ニ勤務スル海軍少佐大尉一名並ニ判任官一名ヲレテ順次宿直セシム但シ將校宿直ハ同一構内ニアル他ノ各部ト共同スルコトヲ得
第十條 將校宿直ハ定例ノ勤務時間外ニ於テ海軍省並ニ同構内各部ノ取締及非常火災等ノ警戒ニ任シ又判任官宿直ハ將校宿直ノ任務ヲ補佐スル外主トシテ文書ノ取扱ニ任スヘシ
第十條ノ二 將校宿直並ニ判任官宿直ノ勤務ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

〔參照〕

海軍省達第五十六號海軍省處務規程(明治三十四年五月十四日)抄録

第九條 本省ノ判任官二人ヲシテ順次宿直セシム

第十條 宿直ハ定例ノ勤務時間外ニ於ケル事務ノ取扱ヲ爲シ省内取締ノ責ニ任スヘシ

○海軍省達第九十九號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十四年九月八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三十五條ノ二中「通信備優等徽章」ヲ「通信優等徽章」ニ「汽釀優等徽章」ヲ「機關高力運轉優等徽章」ニ「艦砲射手優等章」ヲ「艦砲射擊優等章」ニ「魚形水雷照準手優等章」ヲ「魚形水雷發射優等章」ニ「通信優等章」ヲ「通信優等章」ニ「汽釀優等章」ヲ「機關高力運轉優等章」ニ改ム
○海軍省達第一百號
海軍給與令施行細則第三表ヲ附表ノ通改ム

明治四十四年九月八日

海軍大臣 男爵齋藤實

(附表)

第三表(第四十條ニ依リ下士(卒ニ支給スル加俸)

種 類	區 分		日 額
	大 口	中 口	
艦砲射擊優等章	大 口	中 口	十
魚形水雷發射優等章	小 口	中 口	七
	中 口	大 口	五
通信優等章	卒	下	十
	下	卒	五
機關高力運轉優等章			十
備 考	艦砲射擊優等章ヲ授與セラレタル者ニ支給スヘキ加俸ノ額ハ檢定射擊ノ際射擊ヲ爲シタル砲ノ區別ニ依ル		

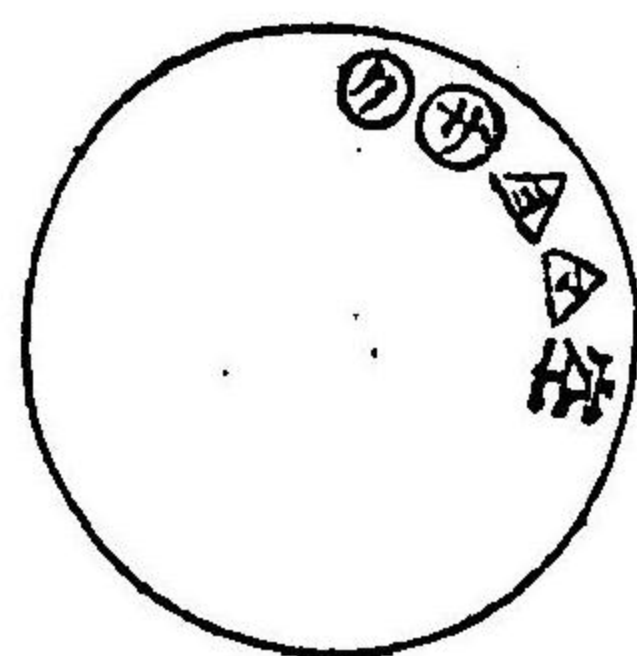
○海軍省達第一百號

明治四十三年達第一號黃銅製榨出藥莖取扱規程中左ノ通改ム

明治四十四年九月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條 工廠第五條ノ修理ヲ行ハ、莖底ニ左ノ例ニ依リ符號ヲ刻シ以テ其ノ責任及指定ヲ明カニスヘシ

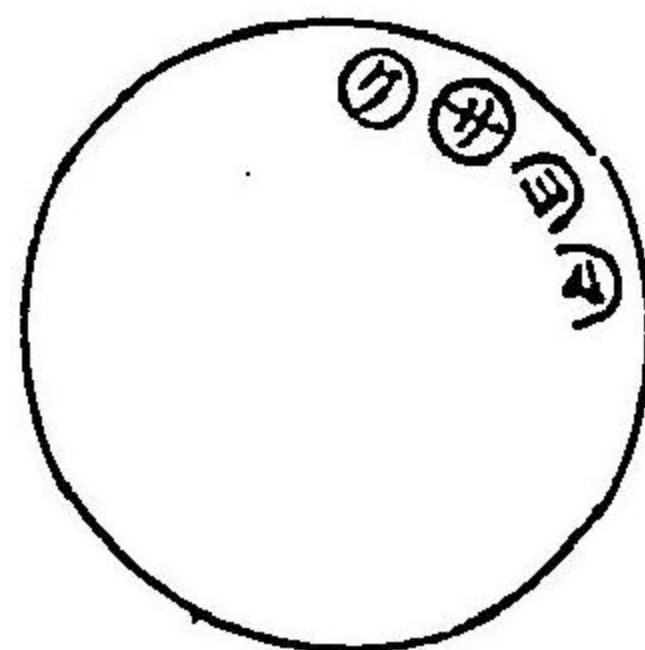


- ① 吳工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ② 佐世保工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ③ 橫須賀工廠ニテ修理ヲ行ヒ減裝藥用トス
- ④ 舞鶴工廠ニテ修理ヲ行ヒ減裝藥用トス
- △ 空放用トス

〔参照〕

海軍省達第一號黃銅製種出機取扱規程(明治四十三年一月十五日)抄録

第八條 工廠第五條ニ記スル修理ヲ行ヒタルトキハ英底ニ左ノ如キ符號ヲ刻シ且テ其ノ責任及指定ヲ明カニスヘシ



- ① 吳工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ② 佐世保工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ③ 橫須賀工廠ニテ修理ヲ行ヒ減裝藥用トス
- ④ 舞鶴工廠ニテ修理ヲ行ヒ減裝藥用トス

○海軍省達第百二號

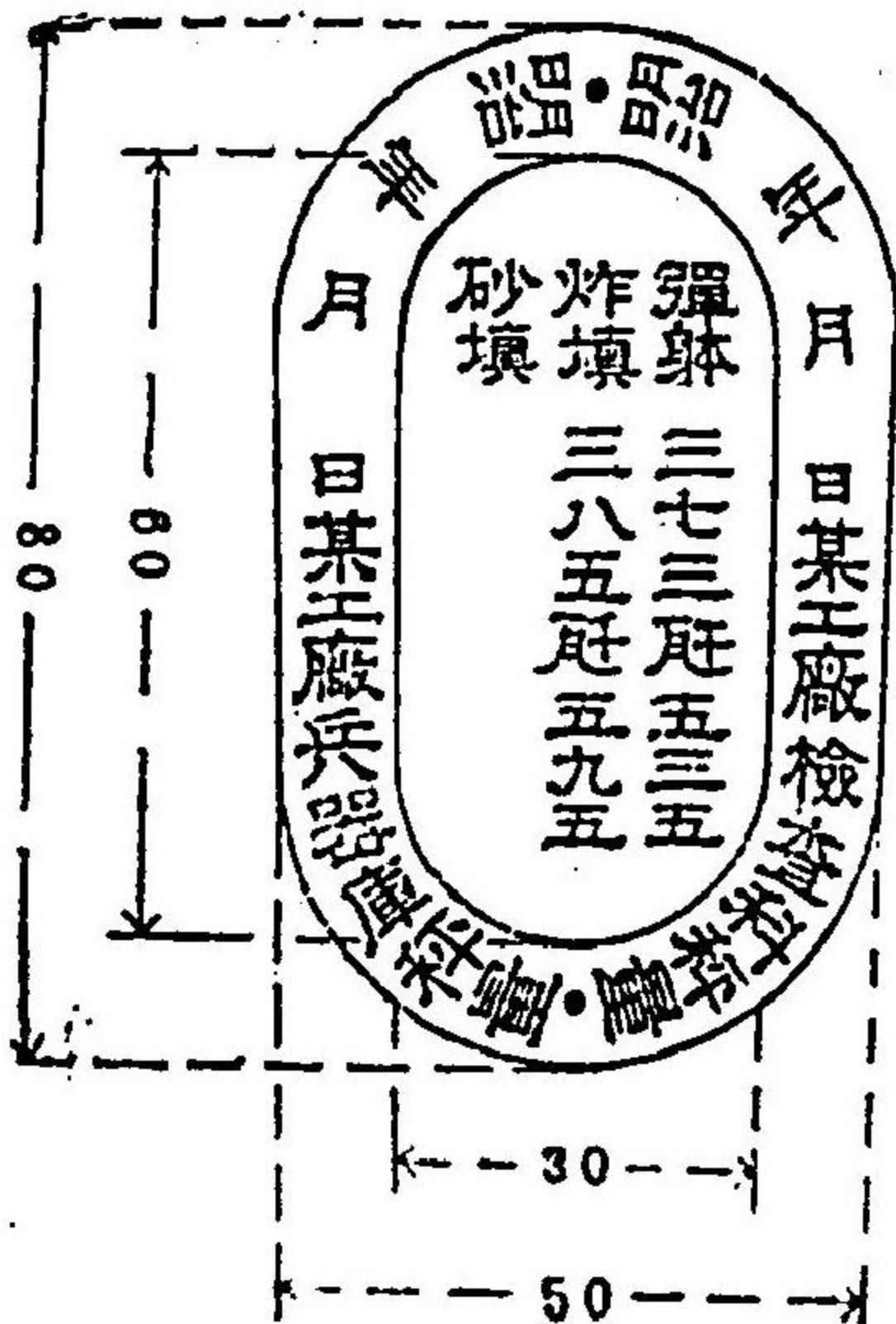
明治四十三年達第九十六號中注意箋ノ例ヲ別紙ノ通改ス

明治四十四年九月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔別紙〕

注 意 箋 例



說明

彈丸トハ換檢、炸填者ハ砂ヲ含マサル彈丸ノミノ重量、炸填トハ炸藥(信管ヲ含マズ)ノ重量、砂填トハ砂ノ重量、炸填トハ砂若ハ其他ノ填充物檢檢ヲ含ムトハ其ノ重量ヲ示シ、又注意箋ハ彈丸重量ニ於テ別紙ニ示スル標點ヲスヘシ

〔参照〕

明治四十三年七月海軍省達第九十六號ハ三吋砲以上ノ實用彈丸及流雷彈種實炸填供給方ナリ

○海軍省達第百三號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通追加ス

明治四十四年九月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

東洋汽船ノ部武洋丸ノ次ニ

- T S H 春 洋 丸
- T K Y 紀 洋 丸

○海軍省達第四百四號

海軍造船材料試驗規格中船體製造用鋼材鐵材ノ部別表ノ通改正ス(別表略ス)

○海軍省達第四百五號

明治四十四年九月十四日 海軍大臣 男爵齋藤實
明治四十四年達第六十九號第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第四號ヲ第五號トシ第五號ヲ第六號トス

四 特修兵ニシテ海軍特修兵條例第七條ニ依リ其ノ有スル證狀ヲ擬奏セラレタルトキハ同條例第

五條ニ依ル服役年限ノ誓約ハ無効ニ歸スルモノトス此ノ場合ニ於テ所轄長ハ之ヲ本人在籍領

守府ノ人事部長ニ通知シ同人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

〔參照〕

明治四十四年九月海軍省達第六十九號ハ海軍特修兵取扱方ノ件ナリ

○海軍省達第四百六號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名略符號通報艦ノ部中G A G 姉川ヲ削ル

○海軍省達第四百七號

元山需品支庫ヲ廢ス 海軍大臣 男爵齋藤實
明治四十四年九月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

○陸軍省達第二十四號

無線電信研究ニ係ル經費ノ仕拂命令及歲入ノ徵收ヲ近衛師團經理部長ニ委任ス

○陸軍省達第二十五號

明治四十四年十月四日 陸軍大臣 男爵石本新六
明治四十三年陸軍第四號衛戍病院服務規則中左ノ通改正ス

第二條中「鏡城」ヲ「羅南」ニ改ム 陸軍大臣 男爵石本新六

第四條第一項中割註ヲ「朝鮮臺灣滿洲ニ在リテハ朝鮮駐屯軍總司令部ニ稟申」ヲ「上申」ニ第二項中割註ヲ「朝鮮臺灣滿洲ニ在リテハ朝鮮駐屯軍司令部ニ稟申」ニ改ム

第五條第一號中割註ヲ「朝鮮臺灣滿洲ニ在リテハ朝鮮駐屯軍司令部ニ稟申」ニ改ム第三號中「入院中」ノ下ニ「待命」ノ下ニ「現役滿期」其ノ他ノ下ニ「免官」ヲ加フ

第六條中「具申」ヲ「上申」ニ改ム

第十二條中「下士以下」ヲ「士官以下所要ノ職員」ニ改メ「看護長、看護卒ハ概シ二箇月」ヲ「看護長ハ概シ六箇月看護卒ハ三箇月」ニ改ム

第十六條第一項第一號中「軍醫生」ヲ削リ第三號中「看護長」ノ下ニ「衛生部下士候補者」ヲ加フ

第十七條第四號中物品ヲ「金錢物品」ニ改ム

第十九條中「藥劑官主計」ヲ「主計藥劑官」ニ改ム

第二十四條中人員官等級ヲ「官等級氏名」ニ改ム

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

自費入院ノ者ニ在リテハ經理主任ニモ之ヲ通報スヘシ

第三十一條中「金錢貴重品」ノ下ニ「病室附看護長ヨリ」ヲ加フ

- 第三十五條中「要スル」ヲ「ハ單獨歸郷セシム之ニ要スル」ニ改ム
- 第三十六條中「病院長ハ」ノ下ニ「軍醫ヲ加ヘ左ノ但書ヲ加フ
但シ護送者ニハ護送證附錄第三ヲ交付スヘシ
- 第四十一條中「當該病室附」ノ下ニ「看護長ヲ加ヘ其ノ人名ヲ其ノ官ニ改メ」宿直軍醫ノ下ニ「看護主任ヲ加フ
- 第四十三條第二號中「決定」ノ下ニ「轉症ヲ加フ
- 第四十四條中「退院ノ種類」ノ下ニ「月日時ヲ加ヘ左ノ但書ヲ加フ
但シ自費入院ノ者ニ在リテハ經理主任ニモ之ヲ通報スヘシ
- 第四十七條及第四十八條中「申告」ヲ「報告」ニ改ム
- 第五十一條中「患者ノ病床日誌處方録」ヲ「病床ニ配付シテ」所要ノ準備ヲ整ヘニ改ム
- 第五十二條中「病室附軍醫」ヲ削ル
- 第五十四條中「認メタル處方」ニ「診療主任若ハ病室附軍醫ノ認證ヲ受ケ看護本ヲシテ」ヲ「看護本ニ交付シ」ニ改ム
- 第五十八條中「膏藥塗布藥」ヲ「外用藥」ニ改メ「處方箋」ニ依リ「ヲ削リ」病室附軍醫ノ下ニ「運送檢査ハヲ加フ
- 第六十一條中「月日」ノ下ニ「時ヲ加フ
- 第六十三條中「認證」ヲ「認印」ニ改ム
- 第六十四條中「事由」ヲ「退院又ハ死亡ノ年月日」ニ改ム
- 第六十六條第二項中「送付」ヲ「送付スヘシ」但シ准士官以上及「ニ改ム
- 第六十八條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ准士官以上ノ死亡診斷書「死體檢査書」ハ直接遺族ニ交付スルコトヲ得

- 第七十一條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ病室ノ構造ニ依リ寢臺ノ排列ヲ變更スルコトヲ得
- 第七十八條第二號ニ左ノ一項ヲ加フ
室外ニ在リテハ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ若帽セサル場合ハ上段ヲ少シク前ニ屈シ受禮者ニ注目スヘシ
- 同條第四號中「散步」ノ下ニ「理髮」ヲ「入浴」ノ下ニ「喫煙及讀書」ヲ加ヘ「遊」以下ヲ「遊フヘシ」ニ改ム
- 第十五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第十六號ヲ第十七號ニ改ム
十六 上等兵以下ノ患者ニシテ病況上運動ノ必要アル爲特ニ命アルモノハ室内外ノ勤務ニ服スヘシ
- 第八十條ニ左ノ一項ヲ加フ
面會時間ハ日曜日及祭日ハ午前九時ヨリ其ノ他ハ毎日午後一時ヨリ午後四時迄トス但シ患者ノ病況ニ依リ急ヲ要スル面會ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八十七條第五號中「出門證」ヲ「物品持出證」ニ改ム
- 第八十九條第二號中「卯茶」ヲ「流動茶」ニ改ム
- 第九十四條中「糧秣委員」ヲ「經理委員」ニ改ム
- 第九十六條中「二回」ヲ削ル
- 第九十七條中「一週間毎」ノ下ニ「概」ヲ加ヘ「以內」ヲ削ル
- 第九十九條中「標記」ノ下ニ「厚紙製患者標記ヲ含ムハ黒色又ハ藍色正方形ノモノ花ヲ加フ
銅製患者標記ヲ含ムハ白色等邊三角形ノモノ
- 第一百十七條中「下士」ヲ「看護長」ニ改ム

第二百一十一條中「處方録」ノ下ニ「處方箋」ヲ加フ
 第二百二十三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 前項ノ外必要ニ應ル病院宿直ニ小使厨夫ヲ附屬スルコトヲ得
 第二百三十四條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但レ病院勤務ニ服スル隊附軍醫ノ宿直ハ退勤時限ニ始マリ翌日ノ出務時限ニ終ルコトヲ得
 第二百三十五條 病院長ハ宿直勤務ニ服スヘキ軍醫三名以下ナルトキハ特ニ軍醫ノ宿直ヲ僅カサル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ軍醫ノ内一名ヲシテ必要ニ應ル出務セシムル爲私宅ニ在ラレムヘシ
 第二百三十九條第四號中「門鑑」ヲ「公用證若ハ門鑑」ニ改メ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六
 號ニ改ム
 五 引率官ニ依リ引率セラレタル軍人
 第四百十條中「出門證」ヲ「物品持出證」ニ改ム
 第四百二十二條第一項中「承認ヲ受ケ」ノ下ニ「病院内ニ於テ修理レ得ヘキモノニ在リテハ修工室ニ送
 リテ修理セシメ」病院外ニ於テ修理スヘキモノ及購買スヘキモノニ在リテハ傳票ニ記シテ加フ
 第四百二十六條中「藥物」ヲ「器械藥物」ニ改ム
 第四百四十八條中「認證」ヲ「證印」ニ改ム
 第四百四十九條中「假名又ハ漢字」ヲ以テ「陸軍藥局方」ト改ム
 第四百五十條中「木札」ヲ「札」ニ改ム
 第四百五十九條中「病院長」ヲ「診療主任」ニ改ム
 第四百六十條中「病院長」ノ下ニ「隨時」ヲ加フ「一週間毎ニ」ヲ「毎週一回」ニ改ム

附錄第一號中「官等級姓名」ノ右方上部ニ「部隊號」ヲ加フ
 附錄第二號ノ二(用紙堅初ノモノハ輪郭寸法) 縦三寸五分横四寸五分

(表)

護送證
患者ノ官 等級姓名
護送先
護送者
某衛戍病院附
(護送者ノ官等級 氏名ヲ記入ス)
明治年月日
某衛戍病院印

- 護送者心得
- 一 明治年 月 日 午 時 出 發 同 年 月 日 午 時 迄 二 附 着 し 本 館 下 庶 務 室 二 込 納 ス ン
 - 二 途 中 患 者 ノ 病 況 増 進 又 ハ 交 通 ノ 難 害 等 二 依 り 履 定 ノ 日 限 二 附 着 シ 難 キ ト キ ハ 關 係 官 吏 二 確 明 書 ヲ 請 求 シ 附 院 ノ 上 庶 務 室 二 提出 ス ン
 - 三 患 者 ノ 病 症 増 進 シ タ ル ト キ ハ 成 本 ハ ヲ 軍 隊 所 在 地 二 至 リ 軍 醫 ノ 診 斷 及 指 示 ヲ 受 タ ン シ 已 ヲ 得 サ ル ト キ ハ 地 方 醫 ノ 診 斷 ヲ 受 タ ル 事 妨 ナ シ
 - 四 前 項 ノ 場 合 又 ハ 患 者 ノ 危 篤 死 亡 シ タ ル ト キ ハ 至 急 當 院 二 電 報 シ 指 圖 ヲ 受 ク ン
- 患 者 ヲ 交 付 シ タ ル ト キ ハ 左 記 ノ 受 領 證 欄 二 記 入 捺 印 セ シ ム ン

(裏)

受領證

表記ノ患者本日午 時 於テ受領候也

府市町 郡村 番地

明治年 月 日 (留守擔當者)

附錄第七號中甲ノ部各室ヲ通シテ「各室」ニ改メ修理申立簿ノ項保存期限ノ概ニ但シ衛生材料修理申立簿ハ三年ヲ加ヘ乙、丁、戊、己ノ部ヲ左ノ如ク改ム

乙 事務室ニ備附シルモノ

名 稱	保 存 期 限	備 考
病 院 歴 史	軍 隊 内 務 附 表 第 三 ノ 保 存 期 限 二 同 ン	軍 隊 内 務 附 表 第 三 ノ 備 考 二 準
兵 種 名 簿	同	同
考 科 表	同	同
將 校 補 官 進 士 官 下 士 職 員 表	同	同
人 員 異 動 表	同	同
醫 文 庫	同	同
秘 密 圖 書 簿	同	同
秘 密 圖 書 二 關 ス ル 諸 帳 簿	同	同
秘 密 圖 書 付 簿	同	同
普 通 圖 書 簿	同	同
普 通 圖 書 付 簿	同	同
教 育 書 類 簿	同	同
學 務 科 規 定 表	同	同
發 給 來 驗 簿	同	同

來簡受付配布簿	同	
勳員ニ關スル書類簿	同	
人事ニ關スル書類簿	同	
處罰簿	同	
報告簿	同	
兵器受拂配當簿	同	
門露公用費外出免許 配當簿	同	
鐵道乘車費及乘船費 受渡簿	同	
郵便切手端書受渡簿	同	
馬名簿	同	
衛生簿	同	
入院患者名簿	三十年	同
病床日誌簿	三十年	病類毎二年次ヲ分テ整理ス
治病紀事簿	三十年	
衛生紀事簿	三十年	
現職醫官簿	同	
現職醫士簿	同	
現職藥劑師簿	同	
現職地味ニ關スル書類簿	其ノ他ハ 三十年	入院患者ニ關スルモノハ病床日誌末尾ニ添附シ整理ス
管内居住下士以下 簿	十年	詳年末整理ス

丁 藥室ニ備附クルモノ

外來患者診察簿	十年	
衛生試驗成績簿	三十年	衛生試驗室ニ備ヘテ整理シ トス
病理試驗成績簿	三十年	病理試驗室ニ備ヘテ整理シ トス
訓令訓示内訓綴	軍隊内務省附表第三ノ保存期限 ニ同シ	上級官舎ニ備ヘテ整理シ 示内訓綴ヲ綴込テ每年末整理ス
說評綴	同	
死因及患者遺留品引 渡簿	三年	
備人出勤簿	用濟廢棄	
丁 藥室ニ備附クルモノ		
名稱	保存期限	摘要
製劑簿	三年	
鑑査簿	三年	器械藥物消耗品檢査簿ニ区分 ス
購買修理簿	三年	同
藥物消耗品受拂簿	軍隊内務省附表第三ノ保存期限 ニ同シ	
理化學試驗成績簿	十年	
體溫計檢査簿	一年	
研究作業簿	一年	磨工室ニ備附ケ作業ヲ記註ス
報告綴	一時ト永久	

處方録(送) 第十年		戊 經理室ニ備附クルモノ			
名	稱	保	存	期	限
密綴圖書類	密綴圖書類	陸軍省	陸軍省	三年	
報告	報告	陸軍省	陸軍省	一時ト永久	
己 看護卒兵舎ニ備附クルモノ					
名	稱	保	存	期	限
管内居住下士以下人名簿	管内居住下士以下人名簿	陸軍省	陸軍省	三年	
看護卒身上明細簿	看護卒身上明細簿	陸軍省	陸軍省	三年	
患者名簿	患者名簿	陸軍省	陸軍省	三年	
現役兵名簿	現役兵名簿	陸軍省	陸軍省	三年	
勤務制簿	勤務制簿	陸軍省	陸軍省	三年	
體力簿	體力簿	陸軍省	陸軍省	三年	
身體検査簿	身體検査簿	陸軍省	陸軍省	三年	
種	位	種	位	種	位
同	同	同	同	同	同

○陸軍第二十六號

陸軍機密書類取扱規則左ノ通定ム

陸軍機密書類取扱規則及陸軍國防用防禦營造物圖書取扱規則ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年十月十日

陸軍大臣 男爵石木新六

陸軍機密書類取扱規則

第一條 陸軍機密書類トハ作戰、戰時編制及勳賞ニ關スル書類中重要ナルモノ其ノ他特ニ指定シタルモノヲ謂フ

前項書類中要塞防禦計畫書類、要塞區域内ニ於ケル陸軍ノ防禦營造物書類、地形ヲ描寫セサルヲ除ク及要塞近傍一万分一以上ノ地形圖並防禦營造物ヲ記載シタル地形圖、地形圖ニ非サルモ其ノ全形ノ尺取ヲ覽シ得ルモノハ特ニ之ヲ陸軍國防用機密書類ト稱ス

第二條 部隊長ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外機密書類ヲ調製配布スルノ必要ヲ生シタルトキハ順序ヲ經テ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

部隊長機密書類ヲ調製シタルトキハ順序ヲ經テ其ノ種類及部數ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス、參謀總長ニ於テ調製スル機密書類ニハ前二項ヲ適用セシムルノ外ニ其ノ調製ニ係ル機密書類ヲ他ニ配布シタルトキハ其ノ都度種類、部數及配布ヲ受ケタル部隊ヲ陸軍大臣ニ通報スルモノトス

第三條 機密書類ニハ調製部隊ニ於テ一葉又ハ一冊毎ニ左ノ標記ヲ爲スモノトス
軍事機密、調製年月日、調製部隊號、一連番號及特ニ返納期日ヲ指定スルノ必要アルモノハ其ノ期日

前項ノ一連番號ハ機密書類ノ種類毎ニ之ヲ區分スヘシ其ノ一連番號ヲ附シ難キモノハ適宜ノ番號又ハ符號ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得

- 第四條 機密書類ハ鎖鑰アル堅固ノ器物ニ格納シテ之ヲ保管スヘシ
- 第五條 機密書類ハ必要ナル最少数ニ於テ調製配布スルモノトス
- 第六條 部隊長ニ於テ其ノ調製ニ係ル機密書類ヲ部下諸部隊長ニ保管セシムルノ必要アルトキハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外所管長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 機密書類ヲ配布セムトキハ調製者ヨリ配布區分ヲ附レ確實ナル方法ニ依リ之ヲ諸部隊長ニ送付シ其ノ配布ヲ受ケタル部隊長ハ配布區分ニ基キ更ニ之ヲ部下諸部隊長ニ配布スヘシ
- 戰時ニ携行スヘキ機密書類ノ配布區分ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第八條 機密書類ハ配布ヲ受ケタル部隊長保管ノ責ニ任ス
- 調製部隊ノ長官ハ必要ニ應シ特ニ保管者ヲ指定スルコトヲ得
- 第九條 機密書類ノ配布ヲ受ケタル部隊長ハ必要ニ應シ部下將校同相當官ヲレテ之カ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十條 機密書類ノ配布ヲ受ケタル部隊長ハ直ニ其ノ受領證書ヲ差出スヘシ
- 第十一條 機密書類ノ調製者ハ機密書類調製原簿第一式其ノ保管者ハ機密書類保管原簿第二式ヲ備ヘ其ノ調製又ハ保管ニ係ル機密書類ノ出納ヲ確實ニスヘシ
- 第十二條 機密書類ノ調製者ハ之ヲ配布シタル部下部隊ニ就キ隨時保管ノ狀況ヲ検査スヘシ機密書類ノ配布ヲ受ケ更ニ部下部隊ニ配布ヲ爲シタル者亦同シ
- 第十三條 左ニ掲クルモノヲ除クノ外部隊長ニ於テ國防用機密書類ヲ保管スルノ必要ヲ生レタルトキハ順序ヲ經テ陸軍大臣ノ承認又ハ認可ヲ受ケ之ヲ保管スルコトヲ得
- 一 陸軍大臣、參謀總長、兵器本廠長、技術審査部長、築城部本部長及陸地測量部長ニ在リテハ所要ノ國防用機密書類

- 二 朝鮮總督、臺灣總督、關東都督、朝鮮駐劄軍司令官、海軍司令官、海軍副司令官ニ在リテハ其ノ管内ニ關スル所要ノ國防用機密書類
- 三 要塞司令官、築城部支部長、重砲兵旅團長、同聯隊長及同獨立大隊長ニ在リテハ其ノ地要塞ニ關スル所要ノ國防用機密書類
- 四 教育總監、重砲兵監、陸軍大學校長及陸軍砲工學校長ニ在リテハ各要塞近傍一万分一以上ノ地形圖及防禦營造物ヲ記載シタル地形圖、重砲兵射擊學校長ニ在リテハ東京灣要塞近傍一万分一以上ノ地形圖及防禦營造物ヲ記載シタル地形圖
- 第十四條 部隊長前條ニ依リ承認若ハ認可ヲ得タルトキハ其ノ目錄第三式ヲ製シ陸軍大臣ノ指定シタル部隊ニ該書類ヲ請求シ又ハ該部隊ニ就テ陳寫スルモノトス
- 前項ニ依リ陳寫シタル國防用機密書類ニハ第三條ニ準シ標記ヲ爲シ且何々寫又ハ何々拔萃ト附記シ其ノ作製シタル部數ヲ當該調製者ニ通牒又ハ報告シ調製者ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告又ハ通牒スルモノトス
- 第十五條 部隊長ニ於テ臨時ニ機密書類國防用機密書類ヲ除クヲ保管スルノ必要ヲ生レタルトキハ其ノ目錄第三式ヲ製シ順序ヲ經テ之ヲ調製者ニ請求スルコトヲ得
- 第十六條 海軍機密書類ヲ保管スルノ必要ヲ生シタルトキハ師團長及之ト同等以上ノ權アル長官、要塞司令官及對馬警備隊司令官ニ在リテハ直接ニ、其ノ他ノ部隊長ニ在リテハ所管長官ヲ經テ該書類ノ調製者ニ之ヲ請求スルモノトス
- 前項機密書類ノ取扱ニ關シテハ當該官憲ノ指定ニ依ルノ外本規則ニ依ル
- 第十七條 機密書類ハ之ヲ謄寫、複刷又ハ拔萃スルコトヲ得ス但シ調製者ノ承認若ハ認可ヲ受ケ保管者ニ於テ該書類ニ關シ審議ヲ爲シ若ハ訓令細則等ヲ作り又ハ學習用等ノ爲一部ノ謄寫、複刷若ハ拔萃ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ作製シタル書類ニ付テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十八條 職務上機密書類ノ閲覧ヲ要スル者ハ保管者ノ承認若ハ許可ヲ受ケ其ノ保管シ在ル場所ニ於テ閲覧シ許可ナクシテ之ヲ他ニ持出スコトヲ得ス

第十九條 致官機密書類中ノ事項ヲ致授スル場合ニ在リテハ其ノ機密ナルコトヲ告知シタル後之ヲ口授シ筆記セシムルコトヲ許サス

第二十條 機密書類ノ保管者ハ毎年四月盡日調ヲ以テ保管機密書類第十四條第一項第十七條ニ出納報告^{様式}第四ヲ調製官廳毎ニ區分シテ作製シ順序ヲ經テ所管長官ニ送付シ所管長官ハ之ヲ取纏メ更ニ出納報告ヲ作製シ之ヲ五月盡日迄ニ調製者ニ報告又ハ通牒スヘシ

前項ノ外機密書類ノ保管者ハ參謀總長ノ調製シタル機密書類ニ付又機密書類ノ調製者^{様式}ハ自ラ調製シタル機密書類ニ付前項ニ準シ六月盡日迄ニ陸軍大臣ニ報告又ハ通牒スルモノトス

機密書類調製者ハ第一項ニ規定スルモノノ外保管者ニ對シ其ノ調製書類ニ關シ所管ノ通牒ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 機密書類ヲ紛失シタルトキハ其ノ保管者ヨリ最迅速ナル方法ニ依リ順序ヲ經テ之ヲ調製者ニ報告又ハ通牒シ且搜索ノ手段ヲ盡シ紛失ノ顛末及處分ヲ詳報スヘシ

機密書類ヲ燒失シタルトキハ順序ヲ經テ其ノ顛末及處分ヲ詳報スヘシ

調製者ハ前二項ニ準シ陸軍大臣ニ報告又ハ通牒スルモノトス

第二十二條 機密書類ニシテ改正、廢止若ハ年度變換等ニ依リ不用ニ歸シタルトキ又ハ保管者ニ於テ所要止ミタルトキハ保管者ヨリ一月以内^{特ニ返納期日ヲ指定シ}其ノ目錄^{様式}五ヲ添ヘ其ノ配布ヲ受ケタル長官ニ返納シ同長官ハ之ヲ調製者ニ返納スヘシ第十四條第一項及第十七條ニ依リ作製シタル機密書類ニ付亦同シ

前項ニ依リ返納ヲ受ケタル機密書類中調製者ニ於テ不用ト認メタルモノハ將校同相當官監督ノ下ニ之ヲ燒却スヘシ

返納スヘキ書類中後日ノ參考ニ資スル爲保存ヲ要スルトキハ返納期日前ニ其ノ書類名番號(符號)調製年月日ヲ記シ順序ヲ經テ調製者ノ承認又ハ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ調製者ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告又ハ通牒スルモノトス

第二十三條 機密書類ノ保管者ハ動員ニ際シ所要ノ機密書類ヲ除クノ外其ノ書類ヲ當該留守部隊長ニ保管轉換ヲ爲シ該部隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ調製者又ハ調製者ノ留守部隊長ニ報告又ハ通牒^{様式}六スヘシ

特設部隊ノ動員又ハ臨時編成ニ際シテハ當該擔任部隊長ハ特設部隊長ニ必要ナル機密書類ノ保管轉換ヲ爲シ特設部隊長ハ前項ニ準シ之ヲ調製者又ハ調製者ノ留守部隊長ニ報告又ハ通牒スヘシ

第二十四條 留守部隊長、特設部隊長ハ復員又ハ解散ニ際シ其ノ保管スル機密書類ヲ動員又ハ編成ヲ擔任シタル部隊長ニ保管轉換ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ保管轉換ヲ受ケタル部隊長ハ前條ニ準シ之ヲ調製者ニ報告又ハ通牒シ尙保管ノ必要アルモノヲ除クノ外其ノ機密書類ヲ第二十二條ニ準シ調製者ニ返納スヘシ

第二十五條 機密書類ノ保管者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ書類ノ引繼ヲ確實ニシ且之ヲ配布ヲ受ケタル長官ニ報告又ハ通牒^{様式}七スヘシ

第二十六條 廢廳ノ際ニ於ケル機密書類ノ處置ニ關シテハ陸軍大臣ノ指示ヲ受クヘシ

第二十七條 機密書類ニシテ汚損使用ニ堪ヘサルモノアルトキハ其ノ引換ヲ調製者ニ請求スルコトヲ得

第二十八條 機密書類ノ部分改正又ハ正誤等ニシテ一連番號(符號)ヲ有スルモノヲ原書類中ニ補

綴加除シタルトキハ該番號(符號)及年月日ヲ標記シ置クヘシ
第二十九條 機密書類ノ印刷ハ必ス將校同相當官ヲシテ監督ノ責ニ任セシメ原版又ハ原稿ノ處分ヲ確實ニスヘシ

第二十條 軍事ニ關シ日常往復ノ機密文書及條例規則又ハ特別ノ命令ニ依リ進達スル機密書類ハ第三條ノ標記ヲ要セス單ニ軍事機密ナルコトヲ標示シ其ノ取扱ニ關シテハ第八條、第九條第十條、第十一條、機密文書ハ第十八條、第十九條、第二十一條ヲ除クノ外本規則ヲ適用セス但シ前項ノ機密書類ヲ進達スル場合ニ在リテハ第三條ノ標記ヲ爲スヘシ

第三十一條 海軍共ノ他ノ官憲ヨリ陸軍機密書類ノ請求ヲ受ケタルトキハ該書類ノ調製者ハ之ニ應スルコトヲ得但シ師團長及之ト同等以上ノ權アル長官、要塞司令官及對馬警備隊司令官以外ノ者ニ在リテハ所管長官ノ認可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ配布シタル機密書類ニハ第十一條、第十七條、第二十條、第二十一條、第二十二條第一項ヲ適用ス

第三十二條 機密書類中輕易ナル部分改正又ハ正誤等ニ關スルモノニシテ一連ノ番號(符號)ヲ有セサルモノノ取扱ニ付テハ本規則ニ依ラサルコトヲ得但シ該書類不用ト爲リタルトキハ保管者ニ於テ燒却スルモノトス

第三十三條 機密書類中重要ナルモノハ其ノ取扱ニ關シ第一條、第二條、第六條、第十三條、第十四條、第二十條、第三項、第二十九條、第三十條ヲ除クノ外本規則ヲ適用ス

第二十四條 陸軍部外ニ於テ調製シタル機密書類ヲ保管スル場合ニ於テ陸軍機密書類ト同一程度ノ機密ヲ要スルモノノ取扱ニ付テハ本規則ヲ適用ス

樣式第一ノ一

機密書類調製原簿

調製部隊號

番號	陸機密第何號	調製年月日	明治何年何月何日	返納期限	明治何年何月何日
件名	何.....				

注意 一、内ハ記號例ヲ示ス

一、件名異ナル毎ニ別冊ト爲スコトヲ得
二、機密書類ト國防用機密書類トハ各別冊トス
三、燒却紛失等保管關係ヲ離レタルモノハ其ノ番號ニ朱線ヲ畫シ其ノ理由ヲ標記シ置クモ
四、要スレハ件名ヲ表記スルコトヲ得
五、登記事項ハ同ノ上等ノ略記ヲ爲スヘカラス
六、本此ノ格式ニ準シ洋式帳簿トスルコトヲ得
七、出納額等ナル部ニ在リテハ此ノ格式ニ準シ各紙欄ヲ適宜增加スルコトヲ得
八、本簿ハ軍隊内務書附表第三其ノ一機密圖書簿ニ該當ス

樣式第一ノ二

編	「明治何年何月何日」 「調製部數何百部」 「自第何號」 「至第何號」	「中改正」 「何年 何第何號」 「何年 何第何號」 「.....」
---	---	--

「明治何年何月何日」 「増刷何部」 「自第何部」 「至第何部」		「正誤」 「.....」	
一連番號 (符號)	配布年月日	配布先	返納年月日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日

様式第二ノ一

何部隊調製
機密書類保管原簿

保管部隊號

注意

- 一 件名具ナル毎ニ別冊ト爲スコトヲ得
- 二 機密書類ト國防用機密書類トハ各別冊トス
- 三 増刷付失テ保管關部ヲ離レタルモノハ其ノ符號ニ朱線ヲ畫シ其ノ理由ヲ附記シ區クモ付ス
- 四 返納事項ハ同ノ同上等ノ略記ヲ爲スヘカヲ得
- 五 概テ此ノ様式ニ準シ洋式帳簿トスルコトヲ得
- 六 出納帳簿ナル部類ニ在リテハ此ノ様式ニ準シ各所欄ヲ適宜增加スルコトヲ得
- 七 本簿ハ軍隊内務附表第三其ノ一機密書類保管原簿ニ該當ス
- 八

様式第二ノ一

番號	「軍令陸甲第何號」 年月日	明治何年何月何日	明治何年何月何日
件名	「何々.....」	「何々.....」	「何々.....」
備考	「明治何年何月何日何部」 「配布ヲ受テ」 「.....」 「.....」 「.....」	「明治何年何月何日何部」 「.....」 「.....」 「.....」	「明治何年何月何日何部」 「.....」 「.....」 「.....」

明治四十四年十月 陸軍省陸軍第二十六號 陸軍機密書類取扱規則

要	
「明治何年何月何日某隊編成又ハ何々ノ爲何第何號ヲ以テ請求」	「明治何年何月何日何部受領」
「明治何年何月何日」	「明治何年何月何日」
「某隊編成ノ處該隊何部隊ニ對シニ付所屬長官(何々)ハ左ノ通保管時換セリ」	「自置 何部」
「本編ハ總括的ノ事項ヲ簡明ニ記述スルモノトシ以上ハ一例ヲ示スニ過キス」	

一連番號	受領年月日	充用區分	交付年月日	要
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	
	明治 年 月 日		明治 年 月 日	

様式第三

機密書類請求目錄

調製年月日	番 號	件 名	部 隊	數	充用區分

備考 注意 用紙ハ半紙野紙トス

自明治 年 五月 一日 機密書類出納報告 明治 年 月 日
至明治 年 四月 三十日

調製年月日	番 號	件 名	一連番號	備 考

様式第四

様式第五

備考	減ノ部	調製年月日	番	號	件	名	一軍	連	番	機	密	號	編	頁

- 注意
- 一 本表ハ保管者之ヲ作製スルモノトス
 - 二 件名ハ必ス調製年月日ノ順序ニ記載スヘシ
 - 三 國防用機密書類ハ別紙ニ作製スヘシ
 - 四 用紙ハ半紙野紙トス

機密書類返納目錄

調製年月日	番	號	件	名	返納部	隊	號	印	軍事機密一連番號

様式第六

機密書類保管轉換報告(通牒)

備考	調製年月日	番	號	件	名	舊保管者	何部隊長	氏	名印(花押)	明治年月日
						新保管者	何部隊長	氏	名印(花押)	

- 注意
- 一 本表ハ新保管者之ヲ作製シ舊保管者ノ連署ヲ求ムルモノトス
 - 二 用紙ハ半紙野紙トス

機密書類引繼報告(通牒)

舊保管者	何部隊長	氏	名印(花押)
新保管者	何部隊長	氏	名印(花押)

備考	調製年月日	番	號	件	名	軍	連	番	號	備	要

注意
一 本表ハ舊保管者之ヲ作製シ新舊保管者立會ノ上引繼クモノトス若シ舊保管者作製又ハ立會フコト能ハサル事情アルトキハ其ノ代理者作製又ハ立會ヲ爲スモノトス
二 用紙ハ半紙鮮紙トス

○陸軍第二十七號(官報十月十六日)
明治二十一年陸軍第七十三號ハ之ヲ廢止ス
明治四十四年十月十四日

陸軍大臣 男爵石本新六

○陸軍第二十八號
明治二十一年八月三陸軍第七十三號ハ陸軍懲罰令第十五條ニ當ル者ノ取扱方ノ件ナリ
陸軍一年志願兵終末試驗及第一次勤務演習期未試驗規程左ノ通定ム
一年志願兵終末試驗格例ハ之ヲ廢止ス
明治四十四年十月二十六日

陸軍大臣 男爵石本新六
資格ノ有無ヲ檢査スルヲ以テ目的トス

第一條 終末試驗及第一次勤務演習期未試驗ハ一年志願兵ノ豫備役將校同相當官タルニ必要ナル

第二條 終末試驗ハ師團長ニ於テ之ヲ實施ス
第三條 師團長ハ一年志願兵終末試驗委員ヲ編成シ終末試驗ヲ行ハシム其ノ試驗委員ノ編成ハ附表第一ニ依ル

第四條 師團長ハ一年志願兵終末試驗ノ日割ヲ定メ施行期日一月前ニ各部隊長ニ達スヘシ
第五條 各部隊長ハ一年志願兵ノ志操、品性其ノ他ニ付將校同相當官タルニ必要ナル素質ノ有無並平素ノ學科及術科ノ成績ヲ調査シ終末試驗期日一週間前迄ニ師團長ニ報告スヘシ

第六條 試驗委員長ハ附表第二ニ依リ學科試驗問題及術科試驗問題ヲ編製シ師團長ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 試驗委員長ハ試驗期日ノ前日迄ニ學科試驗問題ヲ各部隊長ニ送付スヘシ
第八條 學科試驗ハ前條ノ問題ニ依リ師團ノ各部隊ニ於テ同日同時ニ之ヲ行ヒ各部隊長共ノ監視ノ責ニ任ス

第九條 各部隊長ハ學科試驗終了シタルトキハ其ノ答案ヲ試驗委員長ニ送付スヘシ
第十條 術科試驗ハ試驗委員各部隊ノ衛戍地ニ於テ之ヲ行フ

第十一條 學科試驗及術科試驗ノ成績ノ調査ハ左ノ方法ニ依ル
一 採點ハ各課目毎ニ滿點ヲ二十點トス
二 各課目ノ得點ハ其ノ試驗ヲ分擔シタル各試驗委員ニ於テ各別ニ採點シ之ヲ合計平均シタルモノトス

三 學科及術科ノ得點ハ學科及術科毎ニ各課目ノ得點ヲ合計平均シタルモノトス
第十二條 終末試驗ニ於ケル學科試驗及術科試驗ノ及第點ハ概ネ左ノ標準ニ依ル
一 終末試驗ニ於テ學科及術科共各課目ノ得點八點以上
二 終末試驗ニ於テ學科及術科ノ各得點十點以上

三 終末試験ニ於ケル學科及術科ノ各得點ニ平素ニ於ケル學科及術科ノ各得點(滿點ハ二十點トス)ヲ學科及術科毎ニ加ヘ之ヲ二除シ其ノ各得點十二點以上

第十三條 試験委員長ハ終末試験ヲ終リタルトキハ其ノ成績ヲ調査シ師團長ニ報告スヘシ

第十四條 師團長ハ終末試験ノ成績ト第五條ノ報告ヲ參酌シ終末試験及第者ヲ決定ス

第十五條 第一次勤務演習期未試験ハ學科及術科ニ付其ノ程度ヲ高上スルノ外終末試験ノ方法ニ準シ之ヲ實施スヘシ

附表第一

一年志願兵終末試験委員編成表

區分	試驗委員長	學科	術科
步兵聯隊	師團參謀長	師團參謀	大佐官
騎兵聯隊	師團參謀長	騎兵隊佐官	大佐官
野砲兵聯隊	師團參謀長	野砲兵隊佐官	大佐官
山砲兵大隊	師團參謀長	野砲兵隊佐官	大佐官
重砲兵聯隊	師團參謀長	重砲兵隊佐官(大尉)	大佐官
重砲兵大隊	師團參謀長	重砲兵隊佐官(大尉)	大佐官
工兵大隊	師團參謀長	工兵隊佐官	大佐官
鐵道隊	師團參謀長	鐵道隊佐官	大佐官
電信隊	師團參謀長	電信隊佐官	大佐官
輜重兵大隊	師團參謀長	輜重兵隊佐官	大佐官

附表第二

一年志願兵終末試験科目表

種兵	學科	術科
步兵	野外要務令 體操教範 步兵操典 步兵射擊教範 機關銃射擊教範 野戰築城教範 交通教範 勦術教範 救急法衛生法大意 營務教範	步兵操典 步兵射擊教範 步兵野戰砲兵 工兵通信教範 中隊教練ニ於テ小隊ノ指揮 戰場ニ於テ中少尉ノ職スヘキ 獨立勤務 演習(路上、目算) 射擊

主計	軍醫	藥劑	獸醫	衛生	備考
師團經理部長	師團軍醫部長	師團藥劑部長	師團獸醫部長	師團衛生部長	一、本表ノ人員ハ必要ニ應シ増加スルコトヲ得 二、試験委員ニハ已ムヲ得サル場合ノ外ハ一年志願兵教育擔任教官ヲ充當セサルモノトス 三、步兵隊術科試験委員中佐官大尉各三人ハ他ノ步兵聯隊附ノ者トス 四、騎兵旅團、野砲(重砲)兵旅團ヲ有スル師團ニ於ケル術科試験委員ハ騎兵又ハ重砲兵 ニ在リテハ各騎兵又ハ重砲兵聯隊ヨリ佐官及大尉各一人、野砲兵ニ在リテハ各野砲兵聯隊ヨリ佐官又ハ大尉一人宛ヲ以テ網成スルモノトス 五、一年志願兵第一次勤務演習期未試験委員ノ編成ハ本表ニ準ス

○陸軍第二十九號

陸軍士官勤務適任證書付與規則左ノ通定ス

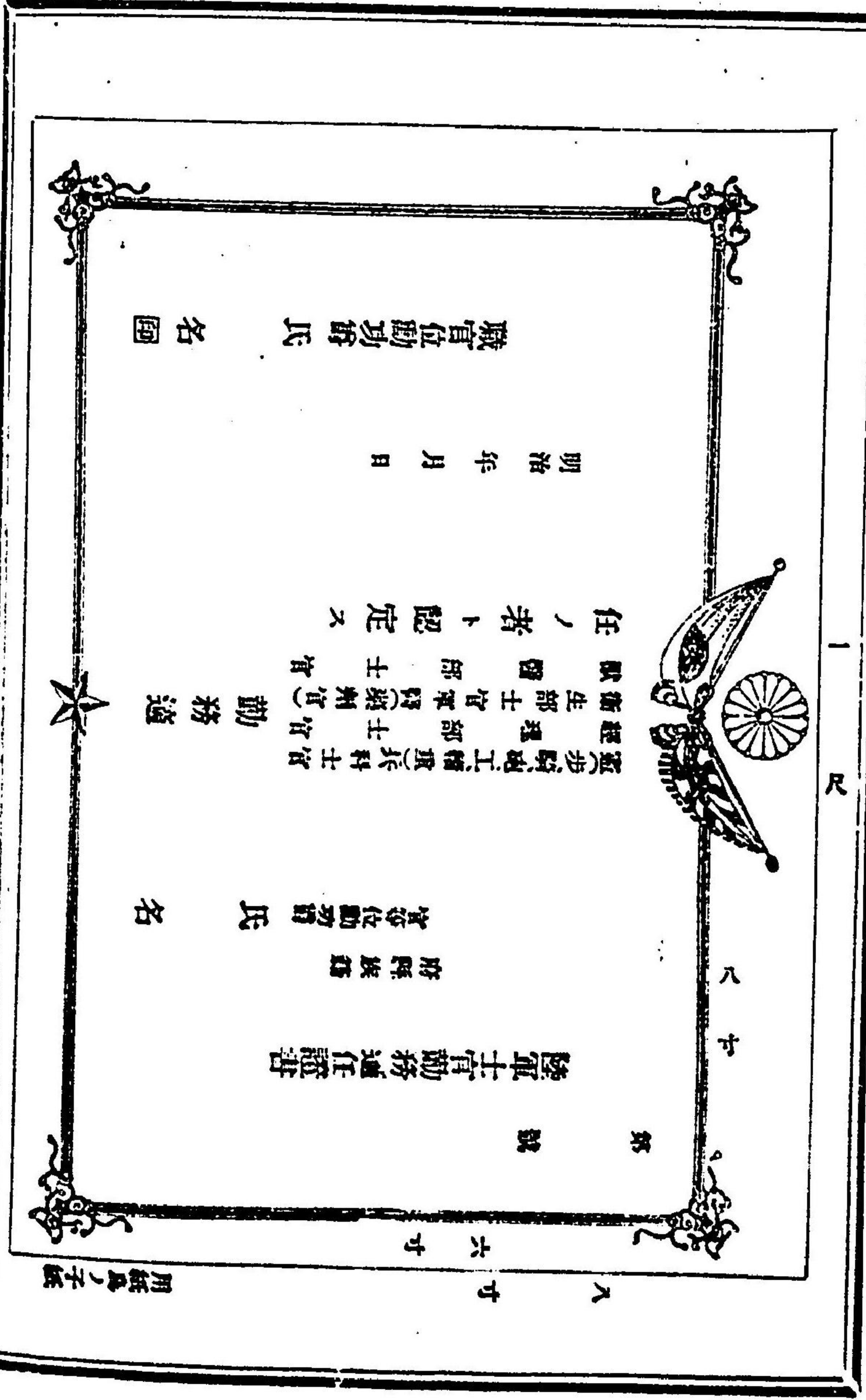
陸軍大臣 男爵石本新六

明治四十四年十月二十六日

陸軍士官勤務適任證書付與規則

- 第一條 士官勤務適任證書ハ各兵科各部ノ下士及衛生部准士官中志操確實品行方正勤務勉勵其ノ成績優秀ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニ之ヲ付與ス
 - 一 各兵科ノ曹長ニシテ當該兵科ノ豫備役後備役士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者
 - 二 一等計手ニシテ豫備役後備役經理部士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者
 - 三 衛生部准士官下士ニシテ醫師免許證、醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ有シ豫備役後備役軍醫又ハ豫備役後備役藥劑官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者
 - 四 獸醫部下士ニシテ獸醫免狀ヲ有シ豫備役後備役獸醫ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者
- 第二條 士官勤務適任證書ノ種類左ノ如シ
 - 一 憲(步騎砲工輜重)兵科士官勤務適任證書
 - 二 經理部士官勤務適任證書
 - 三 衛生部士官勤務適任證書
 - 四 獸醫部士官勤務適任證書
- 士官勤務適任證書ハ附錄様式ニ依ル
- 第三條 第一條第一號ニ該ル者アルトキハ隊附ニ在リテハ聯隊長、隊附ニ非サル者ニ在リテハ聯隊長ト同等以上ノ權アル長官ハ本人ノ考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ現役滿期ノ際之ニ士官勤務適任證書ヲ付與スヘシ
- 第一條第二號ニ該ル者アルトキハ所管經理部長ハ本人ノ考科表寫ヲ添ヘ所管長官ノ認可ヲ受ケ現役滿期ノ際之ニ士官勤務適任證書ヲ付與スヘシ
- 第一條第三號ニ該ル者アルトキハ所管軍醫部長ハ本人ノ考科表寫及醫師免許證、醫術開業免狀寫

- 又ハ藥劑師免許狀寫ヲ添ヘ所管長官ノ認可ヲ受ケ現役滿期ノ際之ニ士官勤務適任證書ヲ付與スヘシ
- 第一條第四號ニ該ル者アルトキハ所管獸醫部長ハ本人ノ考科表寫及獸醫免狀寫ヲ添ヘ所管長官ノ認可ヲ受ケ現役滿期ノ際之ニ士官勤務適任證書ヲ付與スヘシ
- 第四條 陸軍補充令第三十八條ニ依リ第一次勤務演習ノ終ニ於テ施行スル試驗ニ及第シタル者ハ前條ノ手續ニ依リ召集解除ノ際之ニ士官勤務適任證書ヲ付與スヘシ
- 第五條 戰時若ハ事變ニ際シ召集シ又ハ平時ニ於テ部隊附ニ採用シタル豫備役後備役准士官下士ニシテ第一條各號ノ一ニ該ル者アルトキハ召集解除ノ際又ハ採用期限滿ルトキ前條ノ手續ニ依リ士官勤務適任證書ヲ付與スルコトヲ得
- 第六條 士官勤務適任證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ證書ヲ無効トシ之ヲ返還セシム
 - 一 品位ヲ汚損スル所爲アルトキ
 - 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 第七條 陸軍補充令第四十二條第二項ニ依リ一等卒若ハ一等看護卒ト爲リタルトキ
- 第七條 聯隊區司令官ハ士官勤務適任證書ヲ有スル者ニシテ前條第一號乃至第三號ノ一ニ該ル者アルトキハ其ノ事由ヲ師團長ニ上申シ認可ヲ受ケ本人ニ其ノ證書ノ返還ヲ命スヘシ
- 召集中又ハ平時部隊附ニ採用中前條各號ノ一ニ該ル者アルトキハ當該部隊長ニ於テ前項ノ手續ヲ爲シ聯隊區司令官ニ之ヲ通報スヘシ
- 第八條 士官勤務適任證書ヲ付與シタルトキハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ之ヲ通報スヘシ
- 士官勤務適任證書ヲ付與シ又ハ返還セシメタル下士ニ在リテハ本人ノ軍隊手續ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ
- 第九條 本規則中師團長トアルハ朝鮮駐劄軍司令官、臺灣總督府關東都督、聯隊長トアルハ獨立部隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊司令官、警備隊區司令官ヲ包含ス



陸軍省印

○陸軍第三十號
陸軍下士適任證書付與規則左ノ通改正ス
明治四十四年十月二十六日

陸軍大臣 男爵石木新六

陸軍下士適任證書付與規則

- 第一條 下士適任證書ハ各兵科各部ノ兵卒中志操確實、品行方正、勤務勉勵共ノ成績優秀ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニ之ヲ付與ス
- 一 各兵科ノ上等兵中下士勤務ニ服シタル者其ノ他當該兵科下士タルノ才能ヲ有スル者
 - 二 各兵科ノ鞍(銃、木、鍛)工卒タル上等兵又ハ一等卒ニシテ鞍(銃、木、鍛)工長タルノ才能ヲ有スル者
 - 三 各兵科ノ上等兵中計手勤務ニ服シタル者其ノ他計手タルノ才能ヲ有スル者
 - 四 上等縫工卒ニシテ縫工長、上等靴工卒ニシテ靴工長タルノ才能ヲ有スル者
 - 五 上等看護卒中看護長勤務ニ服シタル者其ノ他衛生部下士タルノ才能ヲ有スル者
 - 六 蹄鐵工卒タル上等兵又ハ一等卒ニシテ獸醫部下士タルノ才能ヲ有スル者
- 第二條 下士適任證書ノ種類左ノ如シ
- 一 憲(步、騎、砲、工、輜重)兵科下士適任證書
 - 二 鞍(銃、木、鍛)工長適任證書
 - 三 計手適任證書
 - 四 縫(靴)工長適任證書
 - 五 衛生部下士適任證書

六 獸醫部下士適任證書

下士適任證書ハ附録様式ニ依ル

第三條 第一條第一號ニ該ル者アルトキハ歸休又ハ現役滿期ノ際聯隊長之ニ下士適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第二號ニ該ル者アルトキハ歸休又ハ現役滿期ノ際聯隊長之ニ鞍(銃、木、鍛)工長適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第三號ニ該ル者アルトキハ聯隊長ハ其ノ氏名、成績及列序ヲ所管經理部長ニ移牒シ所管經理部長ハ之ヲ審査シ歸休又ハ現役滿期ノ際之ニ計手適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第四號ニ該ル者アルトキハ歸休又ハ現役滿期ノ際被服本廠長之ニ縫工長適任證書又ハ靴工長適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第五號ニ該ル者アルトキハ聯隊長ハ其ノ氏名、成績及列序ヲ所管軍醫部長ニ移牒シ所管軍醫部長ハ之ヲ審査シ歸休又ハ現役滿期ノ際之ニ衛生部下士適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第六號ニ該ル者アルトキハ聯隊長ハ其ノ氏名、成績及列序ヲ所管獸醫部長ニ移牒シ所管獸醫部長ハ之ヲ審査シ歸休又ハ現役滿期ノ際之ニ獸醫部下士適任證書ヲ付與スヘシ

第四條 聯隊長ハ毎年歸休又ハ現役滿期ト爲ルヘキ上等兵中計手ニ適スヘキ者ヲ選定シ步兵聯隊ニ在リテハ少クモ二人、其ノ他ノ隊ニ在リテハ少クモ一人ヲ歸休又ハ現役滿期前概ネ三月間隊附主計ニ附屬シ計手ノ勤務ヲ習得セシムヘシ

前項ニ依リ計手ノ勤務ヲ習得シタル者ニハ前條第三項ノ手續ニ依リ下士適任證書ヲ付與スヘシ

第五條 計手候補者ニシテ計手ニ任用セラレズ、縫工長候補者ニシテ當該工長ニ任用セラレズ

歸休又ハ現役滿期ト爲ル者ニハ第三條第三項、第四項ノ手續ニ依リ下士適任證書ヲ付與スヘシ

第六條 戰時若ハ事變ニ際シ召集シ又ハ平時ニ於テ部隊附ニ採用シタル豫備役候補者ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ第一條ニ該ル者アルトキハ第三條ニ準シ召集解除ノ際又ハ採用期限滿ツルトキ之ニ下士適任證書ヲ付與スルコトヲ得

第七條 下士適任證書ヲ有スル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ無効トス

第八條 聯隊區司令官ハ下士適任證書ヲ有スル者ニシテ前條ニ該ル者アルトキハ本人ニ其ノ證書ヲ返還ヲ命スヘシ

召集中又ハ平時部隊附ニ採用中前條ニ該ル者アルトキハ當該部隊長ニ於テ前項ノ手續ヲ爲シ聯隊區司令官ニ之ヲ通報スヘシ

第九條 下士適任證書ヲ付與シタルトキハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ之ヲ通報スヘシ

下士適任證書ヲ付與シタルトキハ本人ノ軍隊手牒ニ其ノ旨火工師又ハ傭工及適任ノヲ記入シ之ヲ返還セシメタルトキハ其ノ記入ヲ爲スヘシ

第十條 本規則中聯隊長トアルハ獨立部隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊司令官警備隊區司令官ヲ包含ス

附則

本規則施行前付與シタル陸軍下士適任證書、陸軍衛生部下士適任證書及陸軍踏鐵工長適任證書ハ本規則ニ依リ付與シタルモノト看做ス

當分ノ内縫、靴工長ノ勤務ニ服スル上等兵中當該工長適任ノ者ハ本則第三條第三項ニ該ル者ニ準シ當該工長適任證書ヲ之ニ付與ス

○陸軍省第三十一號
陸軍各隊陣營具定敷表及附圖中左ノ通改正ス

明治四十四年十月二十七日

陸軍大臣 男爵石本新六

營中具定敷表中浴室具据風呂ノ項ヲ左ノ如ク改ム

据風呂	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

二十五、据風呂ノ項括弧内ノ數ハ傳染病患者用ヲ示ス
 二十六、戰用獸醫材料中ノ藥品格納用トシテ本表定敷外ニ馬藥棚一箇ヲ增加備附クルコトヲ得
 二十七、彈藥庫專用トシテ各隊彈藥庫ノ棟數ト同數ノ竹梯子ヲ增加備附クルコトヲ得
 附圖庖厨具中ニ斗焚平釜ノ部品質鐵ノ下ニ又ハアルミニウムヲ加フ

○海軍省達第百八號

長崎三菱造船所ニ於テ製造ノ呂號二等巡洋艦ヲ矢矧ト命名セラル

○海軍省達第百九號

海軍大臣 男爵齋藤實

軍艦河内外四隻ニ左ノ通信號符字ヲ點附ス

明治四十四年十月三日

信號符字	艦名	海軍大臣	男爵齋藤實
GQH M	河内	GQH H S	矢矧
		GQH N	
		GQH P	
		GQH R	
		GQH S	
		GQH T	
		GQH U	
		GQH V	
		GQH W	
		GQH X	
		GQH Y	
		GQH Z	

○海軍省達第百十號
艦隊職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十一日

第十五條 司令長官ハ海軍信號書、艦隊運動程式等ニ變更追加ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ案ヲ具シ述ニ海軍軍令部長ニ提出スヘシ

〔參照〕

海軍省達第四十二號艦隊職員勤務令(明治三十四年四月四日)抄錄
第十五條 司令長官ハ海軍信號書及艦隊運動程式等ニ變更追加ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ案ヲ具シ述ニ海軍軍令部長ニ提出スヘシ

○海軍省達第百十一號

明治三十七年達第百六號艦船造修試驗検査規則中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十二日

第十條 内外國私立製造所ニ於テ製造ノ艦艇竣工シタルトキハ該艦艇長ハ海軍艦政本部長ノ指定セル職員立會ノ上製造所長ヨリ之ヲ受領シ指定軍港ニ回航スヘシ

第十一條 内國私立製造所ニ於テ製造ノ艦艇軍港ニ回航シタルトキハ當該鎮守府司令長官ハ海軍工廠長ヲシテ兵裝其ノ他未済工事ヲ施行セシメ工事完了シタルトキハ直ニ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ノ要目簿及ヒ圖面等ハ海軍艦政本部長ヨリ工事施行ノ海軍工廠長ニ送付シ工廠長之ヲ艦艇長又ハ司令ニ交付スヘシ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ海軍艦政本部長ハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿及圖面等ヲ送付スヘシ

海軍大臣 男爵齋藤實

前項ノ艦艇工事完了セサルモノナルトキハ海軍艦政本部長ハ其ノ工事ノ程度ニ應シタル要目簿及圖面等ヲ工事施行ノ海軍工廠長ニ送付ス海軍工廠長ハ之ヲ完了シタル後艦艇長又ハ司令ニ交付シ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿及圖面等ヲ送付スヘシ
外國ニ於テ製造ヲ完了シタル艦艇ノ要目簿及圖面等ハ當該造船監督官ヨリ艦艇長ニ交付シ尙海軍艦政本部長ヨリ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ
第二十三條 内國私立製造所ニ於テ製造ノ雜役船竣工シタルトキハ海軍工廠長ハ製造所長ヨリ之ヲ受領シ未済工事アルトキハ之ヲ完了シ第三十二條ニ依リ授受及報告ヲ爲スヘシ
第二十四條 削除

○海軍省達第百十二號

第二第三豫備艦艇ニハ必要ニ應シ明治四十三年月一達第百四十九號定期及小演習用消耗兵器年額表ノ範圍内ニ於テ消耗兵器ヲ供給スルコトヲ得

○海軍省達第百十三號

明治四十二年達第十三號ヲ廢ス

明治四十四年十月十九日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治四十二年ニ明海軍省達第十三號ハ第二第三豫備艦艇ニ消耗兵器ヲ供給スルコトヲ得ル件ナリ

○海軍省達第百十四號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「海風」ノ次ニ「山風」ヲ加フ

明治四十四年十月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百十五號
艦内號令詞別冊ノ通定ム

別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲレテ配附セシム

明治四十四年十月三十日

○海軍省達第百十六號

明治二十四年十月二十九號ヲ廢ス

〔參照〕

明治二十四年十月二十九號ハ海軍省達第百二十九號ハ海軍運用總令圖改正ノ件ナリ

○海軍省達第百十七號

海軍工務規則左ノ通定ム

明治四十四年十月三十日

海軍工務規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ海軍工作廳ニ於ケル工務ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本規則ニ於テ海軍工作廳ト稱スルハ海軍工廠、海軍造兵廠、海軍下瀬火藥製造所、要港部修理工場、旅順海軍工作部及海軍艦政本部製圖工場ヲ指ス

第三條 海軍工作廳ニ於テハ左記事項ニ對シ適當ナル設備若ハ方法ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

一 機械取扱上生スル危險ヲ豫防スルコト

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

- 二 健康ヲ保全スルコト
- 三 風紀ヲ維持スルコト
- 四 公益ヲ害セサルコト
- 五 天災其ノ他非常ノ場合ニ對スルコト

第四條 海軍工廠ニ左ノ工場ヲ置ク

造船部工場

造機部工場

造兵部工場(橫須賀海軍工廠、佐世保海軍工廠、舞鶴海軍工廠ニ限ル)

砲熷部工場(吳海軍工廠ニ限ル)

水雷部工場(同上)

製鋼部工場(同上)

第五條 海軍工作廳ニ於ケル工場ノ小別、名稱及其ノ箇數ハ廳長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ同一工場ヲ他部ト共通シテ使用スル場合モ亦同シ

第六條 海軍工作廳ニ於テハ職工ニ關スル諸規則其ノ他心得ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第七條 海軍工作廳ニ於テハ常ニ左記圖面及諸表ヲ備置クヘシ

- 一 建築物位置圖
- 二 砲熷水雷發射試驗場、船渠、船臺、艦船引揚臺位置圖
- 三 鐵道線路其ノ他家屋外ニ在ル機械ノ配置圖
- 四 艦船速力試驗標柱ノ位置、標柱間ノ距離並試驗場ノ水深ヲ明記シタル圖
- 五 艦材圍場圖
- 六 建築物目錄(第一號書式)

七 船渠船隻明細表(第二號甲乙書式)
八 機械配置圖及機械目錄(第三號書式)

第八條 海軍工作廳ニ屬スル建築物及機械ニハ總テ公稱番號ヲ附シ圖面及目錄ニ記載スヘシ但シ機械ハ各工場ノ所屬毎ニ區別シテ番號ヲ附スヘシ
建築物ニハ其ノ名稱及公稱番號ヲ記シタル標札ヲ掲ケ機械ニハ白色ノ塗料又ハ見分ケ易キ方法ヲ以テ其ノ公稱番號及成ルヘク其ノ能力ヲ記載スヘシ

第九條 海軍工作廳ニ於テ機械ヲ購入製造改造若ハ廢却セントスルトキハ入費概算書ヲ添付シ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ購入又ハ製造ノ場合ハ入費概算書ノ外第二十三號書式ニ依ル機械明細書、又船渠用扉船ニ付テハ尙計畫圖面及製造方法書ヲ添付スヘシ

第十條 海軍工作廳ニ於テ材料物品及機械ヲ直接外國ニ於テ購買スルノ必要アルトキハ其ノ品名數量期限事由等ヲ詳記シ且仕樣書ヲ添付シテ海軍總政本部長ニ請求スヘシ海軍總政本部長ハ之ヲ調査シ造船造兵監督官ヲシテ之ヲ處理セシム
前項物品外國ヨリ到着シタルトキハ當該廳長ハ精密ナル検査ノ上其ノ狀況ヲ海軍總政本部長ニ報告スヘシ

第二章 工事

第十一條 海軍工作廳ニ於テハ工事施行手續及工事費整理手續ヲ定メ之ニ據リ工事及整理ヲ行フヘシ

第十二條 海軍工作廳ニ於テ工事ヲ行フトキハ材料費及工費ニ區別シタル工事費計算書ヲ作り毎工事ノ豫算及決算ヲ明ニスヘシ

第十三條 海軍工作廳ニ於テ餘力アルトキハ海軍部内各廳工事ノ依託ヲ受クルコトヲ得

第十四條 海軍工作廳ニ於テ餘力アルトキハ海軍部外ヨリ工事ノ依託ヲ受クルコトヲ得但シ該工

事ハ民間ニ於テ施行シ難キ理由アルモノ又ハ海難救助共ノ他止ムヲ得サル理由アルモノニシテ所屬長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ特命アルモノニ限ル

第十五條 艦船ノ受託工事ニシテ入渠スルトキハ別表第一號ニ依リ總積噸數ニ應シ入渠料ヲ徵收スヘシ此場合ニ於テハ船渠使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵收セス

第十六條 受託工事ノ爲諸機械ヲ使用スルトキハ其ノ使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵收スルノ外別表第二號ニ依リ使用料ヲ徵收スヘシ但シ海軍部内及他官廳ノ依託工事ニ對シテハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三章 職工

第十七條 海軍工作廳ニ於テ使役スル職工ヲ分ツテ左ノ三種トス

- 一 定期職工
- 二 通常職工
- 三 見習職工

第十八條 定期職工ハ海軍定期職工條例ニ依リ服業スル者トス

第十九條 通常職工ハ年齡滿十六年以上滿五十五年迄ノ者ニシテ見習職工トシテ工業ヲ習得シタル者又ハ職工タル普通ノ技能ヲ有シ新ニ採用セラレタル者トス但シ特別ノ技能アル者ハ年齡滿十六年以下十四年以上又ハ滿五十五年以上ノ者ト雖之ヲ通常職工ト爲スコトヲ得

第二十條 見習職工ハ年齡滿十四年以上滿二十五年迄ノ者ニシテ工業習得ノ目的ヲ以テ入業シ見習期間及成業後見習期間ニ均シキ期間ハ解備ヲ出願セサル旨誓約シテ服業スル者トス

第二十一條 左ニ掲グル者ハ職工タルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

一 身體検査ニ合格セサル者

第二十二條 職工ノ名稱ヲ左ノ如ク定ム

- 圖工 機工 仕上工 製鋼工 鑄工 鍛工 銅工 鉛工
- 彈工 撓鐵工 鋏打工 鐵塊工 鍛木工 鍛工 穿孔工 鍍工
- 造船工 水雷工 電氣工 模型工 木挽工 製工 製工 製工
- 組立工 水雷工 電氣工 火工 製工 製工 製工 製工
- 鋼具工 煉瓦工 潛水工 運轉工 管工 塗工 縫工 製工
- 記録工 雜工 潜水工 運轉工 管工 検査工 分析工 刷版工

第二十三條 職工ノ階級ヲ左ノ如ク分ツ

- 一 工手
- 二 組長
- 三 伍長
- 四 班職工

第二十四條 職工ハ一定ノ手帳ヲ所有スヘシ

手帳ハ在業中勤務ニ於テ保管シ入退業賃銀ノ増減賞罰共ノ他身上ニ關スル事項ヲ記載セ又辭令ニ代用スルモノトス

第二十五條 職工解備ニ際シ技能及勤怠成績ノ證明ヲ請フ者アルトキハ適當ト認ムル者ニ限り之ヲ手帳ニ記入シ與フルモノトス

第二十六條 職工ノ公休日ハ大祭祝日、日曜日、靖國神社祭日及毎年十二月二十九日ヨリ一月五日迄トス

第二十七條 職工ハ前條ノ公休日及服業定時間外ト雖命令アルトキハ何時ニテモ出業スヘキモノトス

第二十八條 職工左ノ諸號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ解備スヘシ但シ定期職工ハ定期職工條例ノ定ムル所ニ依ル

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 共同罷工ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシメタルトキ但シ強迫ヲ受ケタル事實アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 場内ノ秩序ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ之ヲ爲サシメ又ハ其ノ虞アリテ事證稍重キトキ
- 四 官ノ秘密ヲ漏洩シタルトキ
- 五 懲戒ノ處分ヲ受クルコト一箇月ニ三回若ハ二箇月ニ四回ニ及フトキ
- 六 正當ノ理由ナクシテ引續キ三週間以上出業セサルトキ
- 七 正當ノ理由ナクシテ公休日若ハ定時間外出業ノ命令ニ應セサルコト引續キ三回以上ニ及フトキ
- 八 公務ニ原因セサル疾病共ノ他ノ事故ニ依リ引續キ十週間以上出業セサルトキ但シ徵兵召喚ニ應シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 九 年齢五十五年ニ達シタルトキ但シ特別ノ技能アル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 十 不健康ニシテ工場ノ衛生ニ害アリト認メタルトキ
- 十一 技能上達ノ見込ナシト認メタルトキ
- 十二 品行不良又ハ懶惰ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタルトキ

第二十九條 前條ニ依リ職工ヲ解備シタルトキハ各鎮守府、要港部及艦政本部ニ其ノ事故詳細姓名年齢ヲ通知スヘシ鎮守府、要港部及艦政本部ハ部下各屬ニ之ヲ告示シ各屬ハ再ヒ之ヲ職工共

ノ他ニ採用セサルモノトス但シ前條第五號乃至第八號ニ依リ解僱セラレタル者ハ箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 第二十八條諸號ニ該當セサル者ト雖工事上其ノ他官ノ都合ニ依リ職工ノ減員ヲ要スル場合ニハ之ヲ解僱スルコトアルヘシ

第三十一條 女工ヲ使役セントスル場合ハ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 女工ハ危險又ハ衛生上有害ナル事業ニ就カレムルコトヲ得ス前項ノ場合ヲ除クノ外女工ノ使役ニ關シテハ本規則ニ準據スヘシ

第四章 勤務時間

第三十三條 高等官及官廳詰判任官以下ニ在リテハ一日ノ勤務時間ヲ八時間トス工場詰判任官以下ニ在リテハ之ヲ十時間トス但シ製圖工場及分析工場詰判任官以下ニ在リテハ之ヲ九時間トス

前項時間中三十分間ヲ食事時間トス

第三十五條 女工及十六歳未満ノ職工ハ夜業ニ従事セシムルコトヲ得ス但シ非常急遽ノ場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ經テ之ニ従事セシムルコトヲ得

第三十六條 執務及服業ノ始終時間ハ一箇年中晝夜ノ長短ト地方ノ情況トニ依リ第三十三條及第三十四條ノ制限ヲ變更セサル限ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得其ノ時限並高等官以下ノ出場退場職工ノ起業終業及食事時限ハ晝業夜業ニ區分シ所屬長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ高等官以下ノ退場時限ハ職工ノ晝業停止時限ト同一トスヘシ

第三十七條 止ムヲ得サル事由ニ依リ増服業又ハ公休日ニ服業セシムル必要アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第五章 職工賃錢

第三十八條 職工ノ賃錢ハ定時間ノ服業ヲ一工トシ工數ニ依リ之ヲ給ス但シ臨時終業ヲ命ジタルトキハ其ノ終業迄服業ヲ一工トシ賃錢ヲ給ス

第三十九條 職工起業時限迄ニ出業セス又ハ終業時限前ニ退業スルトキハ左ノ各號ニ依ルノ外賃錢ヲ給セス

- 一 起業時限迄ニ出業シ定時間ノ半數以上服業シタル後退業シタルトキハ賃錢半額ヲ給ス
- 二 起業時限ニ後ルコト十五分以内ニ出業シ終業時限迄服業シタルトキハ賃錢十分ノ七ヲ給ス
- 三 起業時限ニ後ルコト十五分以内ニ出業シ定時間ノ半數以上服業シタル後退業スルトキハ賃錢十分ノ二ヲ給ス

職工業務上傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ退業スルトキハ前項ノ區分ニ依ラス當日賃錢全額ヲ給ス

第四十條 職工ノ賃錢等級ハ別表第三號ノ通之ヲ定ム但シ其ノ平均額ハ毎年度別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十一條 職工ヲ定時間外ニ服業セシメタルトキハ一時間(以上)ニ計其(以上)毎ニ賃錢十分ノ一以内ヲ給ス

終業時限三時間後ヨリ起業時限迄ノ間ニ服業セシメ又ハ特種ノ事業ニ服セシメタルトキハ別表第四號ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

終業時限後起業時限迄當直トシテ艦船又ハ工場ニ服業セシメタルトキハ一時間毎ニ賃錢三十分ノ一ヲ給ス

第四十二條 職工ニ臨時出業ヲ命ジ服業セシメタルトキハ給與ハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ職工終業時限前ニ退業スルトキハ服業時間ニ對スル賃錢ノ半額ヲ給ス

第四十三條 職工定時間外若ハ公休日ニ於ケル天災其ノ他非常ノ場合ニ出場シ防禦ニ從事スルトキハ賃錢及加給ヲ給セス一時間毎ニ賃錢十分ノ一若ハ十錢以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十四條 夜業ヲ本務トスル職工ニハ定時間ノ服業ニ對シ賃錢ノ三割以内ヲ加給ス

第四十五條 職工業務止傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業ヲ要スルトキハ其ノ間(公休日ヲ除ク)賃錢半額ヲ給ス

職工業務旅行中自己ノ不攝生ニ由ラスシテ疾病ニ罹リ滞在スルトキハ賃錢半額ヲ給ス

第四十六條 職工傳染病隔離法施行ノ爲ニ服業ヲ禁セラレ又ハ官ノ都合ニ依リ休業ヲ命セラレタルトキハ其ノ間(公休日ヲ除ク)賃錢半額ヲ給ス

第四十七條 職工賃錢ノ増給ハ毎年四回以内之ヲ行フコトヲ得但シ技能相當ニ上達シ且精勤ノ者ニ非ラサレハ増給セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アル者ハ超級ノ増給ヲ爲スコトヲ得但シ三級以上超級ノ増給ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十八條 初テ職工ヲ傭入ル、ニ當リ假ニ賃錢ノ等級ヲ定メタルトキハ爾後一回ニ限り前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ増給ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 職工ノ賃錢ハ毎月二十日ヲ以テ締切毎月末日迄ニ之ヲ給ス但シ土地ノ情況ニ依リ毎月數回ニ締切毎回之ヲ給スルコトヲ得又死亡解備者ハ轉備ノトキハ其ノ都度之ヲ給ス

第五十條 職工賃錢ノ増給減給ハ其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ計算ス

職工ニシテ文官ニ任用セラレタル場合ニ於テハ辭令ノ日迄雇員若ハ傭人ニ採用セラレタル場合ニ於テハ辭令ノ日ノ前日迄其ノ賃錢ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第六章 時間請負法

第五十一條 工事ノ竣工時間ヲ豫定シ豫定ノ職工ヲ用テ之ヲ請負ハレムルヲ有利ト認ムルモノハ

之ヲ時間請負工事トシ本章定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第五十二條 時間請負工事竣工ノ後豫定職工ノ實就時間ニシテ豫定時間ヨリ短キトキハ左ノ算式ニ依リ加給ヲ給ス但シ該實就時間ニシテ豫定時間ヲ超ユルトキハ賃錢ノミヲ給ス

$$(T-t) \frac{W}{10} = \text{加給額}$$

ニハ、
 T 豫定時間
 t 實就時間
 W 時間請負金
 加給額ハ、
 $(T-t) \times \frac{W}{10}$ 加給額ニシテ之ヲ給ス

二人以上ニテ請負タル場合ニハ其ノ加給金ハ請負工事ヲ始メタル日ニ於ケル各自ノ賃錢ニ各實就時數ヲ乘シタル金額ニ按分シテ之ヲ給ス

第五十三條 夜業本務ノ者ニ在リテハ前條加給ノ外別ニ本規則第四十四條ノ加給ヲ給ス

第五十四條 時間請負工事ハ定時服業者ニ服業定時間中之ヲ課スルヲ例トス若シ工事ノ必要上止ムヲ得ス殘業セシムル場合ニハ別表第四號第一ノ加給中増働歩合ノミハ別ニ給シ第五十二條加給算式ハ之ヲ變更セス但シ増働歩合ハ現賃錢ニ依ルモノトス

第五十五條 器具機械ノ整理材料ノ運搬調革ノ掛外シ其ノ他損ニ工事ヲ離レタルカ若ハ無斷ニテ休業シタル時間ハ總テ請負時間内トス但シ止ムヲ得サル事故ノ爲休業ノ許可ヲ受ケタル場合若ハ官ノ都合ニ依リ工事ノ中止ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 實就時數ヲ調査スルニ當リ端時間ノ計算ハ每十五分ヲ以テ區分シ十五分未満ハ其ノ半以上ト未滿トニ依リ或ハ之ヲ十五分ニ算シ或ハ之ヲ切捨ルモノトス

第五十七條 工事不良ニシテ検査ニ合格セサルトキハ加給ヲ給セス但シ殘餘ノ時間内ニ之ヲ仕直シ尙殘時間アルトキハ之ニ對スル加給ヲ給ス

第五十八條 數箇ノ同形品中一部不良品ヲ生シタルトキハ殘餘ノ良品ニ對シ豫定時間ヲ按分シテ加給ヲ給ス

第七章 工費請負法

第五十九條 工事ノ竣工日數及豫定單價ヲ定メ豫定ノ職工ヲシテ之ヲ請負ハシムルヲ有利ト認ムルモノハ之ヲ工費請負工事トシテ本章定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第六十條 工費請負工事ニシテ請負日數内ニ竣工シタルトキハ左ノ算式ニ依リ加給ヲ給ス

$$(N \times T - W \times D) = \text{加給額}$$

ニ八以上ニテ請負タル場合ニハ其ノ加給ハ請負工事ヲ始メタル日ニ於ケル各自ノ賃錢ニ各實就時數ヲ乘シタル金額ニ按分シテ之ヲ給ス

第六十一條 工費請負工事ハ定時服業者ニ服業定時間中之ヲ課スルヲ例トス但シ工事ノ必要上止ムヲ得サル場合ニ於テハ定時間外ニ繼續セシムルコトヲ得ルト雖豫定單價ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十二條 工費請負工事ニ於ケル日數ハ服業定時間ヲ以テ一日トス定時間内外ノ端時間ニ對シテハ一時間毎二十分ノ一日ヲ加算ス但シ三十分以上ハ一時間ニ算入ス

第六十三條 第五十五條ノ規程ハ之ヲ工費請負工事ニ適用ス

第六十四條 請負日數内ニ工事ヲ竣工シ能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延期日數一日毎ニ加給十分ノ一ヲ控除ス但シ許可ヲ受ケ休業シタルトキ若ハ工事ノ都合ニ依リ就業人員ニ異動ヲ生シタル爲延延ヲ來シタル場合ハ之ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第六十五條 工事不具ニシテ検査ニ合格セサルトキハ加給ヲ給セス但シ請負日數内ニ工事ヲ仕直シ良品トナリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 多數ノ請負品中一部不良品ヲ生シタルトキハ良品ノ箇所ヲ請負箇數ト定メ加給ヲ給ス

第八章 賞與加給

第六十七條 職工ニシテ工費請負上特種ノ功勞アル者ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第六十八條 賞與加給ヲ給セントスルトキハ其ノ金額及事由ヲ具シ所屬長官ノ認可ヲ受テヘシ

第九章 職工旅費

第六十九條 職工ヲ旅行セシムル場合ハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ給ス

- 一 内國(朝鮮樺太ヲ除ク)ニ在リテハ海軍内國旅費規則ニ準據シ第七表表面内ハ同表九等ノ定額表面外ハ第五表九等ノ定額ヲ給ス但シ別表第四號第八及第九ノ場合ニ於テハ旅費ヲ給スルノ限ニ在ラス
- 二 外國(清國ヲ除ク)ニ在リテハ海軍外國旅費規則ニ準據シ汽車料ハ客室二等ノ定價トシテ客舍料食卓料日當及支度料ハ七等ノ定價以內ニ於テ旅行ノ性質ニ應シ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

海軍内國旅費規則第七表ノ表面外ニ屬スル北海道ノ旅行ニ限リ第五表ノ定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ増額スルコトヲ得

第七十條 甲廳ヨリ乙廳ニ轉備スル職工ニハ移轉料トシテ十圓ヲ支給スルコトヲ得

第十章 懲戒

第七十一條 職工ニシテ左ノ諸號ノ一ニ該當スル者アルトキハ廳長ハ其ノ情狀ニ依リ十日以内ノ出業ヲ停止若ハ賃錢ヲ減給スルコトヲ得但シ賃錢半額以上ヲ減スルコトヲ得ス

二箇以上ノ犯行ニ觸ル、者ハ各別ニ處分シ一所爲二箇以上ノ犯行ニ該ルトキハ一ノ重キニ從テ處分スヘシ

- 一 官物ヲ毀損或ハ亡失シ又ハ製作ヲ誤リタル者
- 二 火氣ノ取扱ヲ疎漏ニシ又ハ猥ニ定所外ニ焚火シタル者
- 三 各自擔當ノ鎖鑰ヲ怠リ又ハ使用ノ器具ヲ散亂シテ退場シタル者
- 四 言語所爲詐偽ニ渉ル者
- 五 服順ノ道ヲ失ヒタル者
- 六 暴行脅迫ヲ爲シタル者
- 七 犯行者アルヲ知テ之ヲ隱庇シタル者
- 八 他人ヲ陷ル爲無實ノ申告ヲ爲シタル者
- 九 賭博ニ類スル行爲アリタル者
- 十 利ヲ得ルヲ目的トシ廠内ニ於テ金錢ヲ貸與シ若ハ物品ヲ賣渡ス者
- 十一 職札ノ取扱ヲ疎漏ニシ或ハ置キ忘レ或ハ紛失セシメ又ハ其ノ掛外ヲ他人ニ依頼シ若ハ委託ヲ受ケ其ノ掛外ヲ爲シタル者
- 十二 罵詈侮慢喧嘩爭論又ハ高聲ニ雜話シ若ハ放歌シタル者
- 十三 酩酊シテ出業シ又ハ出業中飲酒シタル者
- 十四 定所外ニ放尿シ又ハ汚物ヲ投棄シタル者
- 十五 猥ニ建燈ニ觸レ或ハ瓦礫ヲ投シタル者
- 十六 無届ニテ缺勤シ又ハ事故ニ託シ出業セスシテ他ノ備ニ應シ若ハ稼業ヲ營ミタル者
- 十七 正當ノ理由ナクシテ休日若ハ定時間外出業ノ命令ニ應セサル者
- 十八 就業時間中睡眠シ又ハ懈怠ニシテ服業ニ熱心ナラサル者
- 十九 公務若ハ取締ニ有害ナル所爲アリタル者

- 二十 吸煙ヲ許サル場所ニ於テ吸煙具ヲ携帶シ若ハ顯匿シ又ハ吸煙ヲ許セル工場ト雖定メラレタル時間又ハ場所以外ニ於テ吸煙シタル者
- 二十一 官物ヲ濫用シ若ハ浪費シ又ハ擅ニ使用ノ器具ヲ變造若ハ製造シタル者
- 二十二 出業中私用品ヲ製造シ又ハ之ヲ依頼シ若ハ依頼ヲ紹介シタル者
- 二十三 掲示標札其ノ他諸報告榜標等ヲ毀損若ハ汚漬シタル者
- 二十四 柵塀牆壁其ノ他ノ物品ニ貼紙又ハ樂書シタル者
- 二十五 瓦斯電燈ノ火口及水管ノ水口ヲ開放シ置タル者
- 二十六 出業中許可ヲ得スシテ猥ニ退場シタル者
- 二十七 猥ニ他ノ工場若ハ禁止ノ場所ニ立入り又ハ自己ノ職業ヲ休止シ若ハ他人ノ職業ヲ妨害シ又ハ諸方ヲ徘徊シタル者
- 二十八 就業時間中喫飯若ハ其ノ準備ヲ爲シタル者
- 二十九 終業用意時限以前ニ終業ノ準備ヲ爲シタル者
- 三十 柵垣柵塀等ヲ踰越シタル者
- 三十一 出業中異様ノ舉動ヲ爲シ又ハ濫ニ袒裼裸體トナリタル者
- 三十二 猥ニ菓實貝藻ヲ採取シ又ハ樹木花卉ヲ折リ又ハ魚鳥ヲ捕フル者
- 三十三 就業時間中新聞雜誌ノ類ヲ閱覽スル者
- 三十四 碁將棋雙六骨牌等ノ遊具ヲ携帶シタル者
- 三十五 出業中醜行ヲ爲ス者
- 三十六 法則命令ヲ誹謗シ若ハ之ニ違背シタル者
- 第七十二條 前條ニ據リ處分ヲ爲ストキハ本人ニ宣告ノ上其ノ宣告文ヲ五日間工場ニ掲示スヘシ
- 宣告ノ爲ニスル呼出ニ應セサルトキハ缺席ノ儘ニテ之ヲ宣告シ前項ノ例ニ依ル

第十一章 諸報告

第七十三條 各廳長ハ毎年三月末日現存スル第七條各號ノ圖面及目錄ヲ檢査シ五月末日迄ニ海軍
艦政本部長ニ提出スヘシ但シ建築物等ニテ將來建設スヘキ計畫ノ確定シタルモノハ玆諸機械ニ
テ將來据付クヘキ計畫ノ確定シタルモノハ之ヲ圖面及目錄ニ掲ケ其ノ旨ヲ附記スヘシ
第七十四條 各廳長ハ各期日迄ニ左ノ月報ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

- 艦艇工務月頭報告 第四號 式 提出期日 毎月一日
- 造兵月報 第五號 式 提出期日 毎月五日
- 製鋼月報 第六號 甲乙 提出期日 毎月五日
- 甲鐵板製造月報 第七號 提出期日 毎月五日
- 造船造機工事費現況月報 第八號 提出期日 毎月末
- 造兵依頼工事費月報 第九號 提出期日 毎月末
- 工費月報 第十號 提出期日 毎月末
- 職工配置月報 第十一號 提出期日 毎月末
- 材料費及請負工事費月報 第十二號 提出期日 毎月末
- 製造兵器落成月報 第十三號 提出期日 翌月十五日
- 購買兵器月報 第十四號 提出期日 翌月十五日
- 第七十五條 各廳長ハ翌年度六月末日迄ニ左ノ年報ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
- 艦船製造費年報 第十五號 甲乙 式
- 艦船修理費年報 第十六號 甲乙 丙
- 兵器修理及備裝費年報 第十七號 式
- 受託造修費年報 第十八號 式

海軍部内依頼工事費年報

附屬費年報 第十九號

繰越兵器組替年報 第二十號

材料物品年報 第二十一號 甲乙

資金所屬物品受拂年報 第二十二號 甲乙

第七十六條 諸報告表中ノ工數ハ定時間内一人ノ服業ヲ一工數トシ定時間外ノ服業ハ一人一時間
ヲ以テ十分ノ一工數トシテ計算シ工費ハ工數ニ依リタル賃錢及其ノ他ノ加給並工費ニ屬スル
旅費ヲ包含スルモノトス 第二十三號

第七十七條 第十四條ニ依リ工事ノ依託ヲ受ケタルトキハ各廳長ハ翌月十五日迄ニ其ノ理由氏名
種類及入費精算高(材料費工費ノ区分シテ工費ノ月分ノ精算高及累計ヲ掲ケ)ヲ所屬長官ヲ經テ海軍艦政本部長ニ
報告スヘシ

附則

第七十八條 朝鮮樺太及清國ニ派遣セラル、職工ノ給與ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七十九條 本規則施行細則ハ各廳長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十條 本規則ハ明治四十五年一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年三月達第六十二號海軍工廠工務規程、明治二十七年三月達第六十三號海軍職工規則、明治
三十三年一月達第二號職工人夫給與規則、同達第四號職工賃錢等級別表、明治三十六年一月達第三號及
明治三十八年四月官房第一三五九號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別表第一號

艦船入渠料表

艦船ノ總噸數	以三百噸以下	以四百噸以上五百噸以下	以五百噸以上六百噸以下	以六百噸以上七百噸以下	以七百噸以上八百噸以下	以八百噸以上九百噸以下	以九百噸以上一千噸以下	以一千噸以上
入渠料	五〇〇	五二〇	五四〇	五六〇	五八〇	六〇〇	六二〇	六四〇

別表第二號

四日以下		五日以下		六日以下		七日以下		八日以下		九日以下		十日以下		十一日以下		十二日以下											
一	入渠料ハ日曜日公休日及風雨ノ日等官ノ都合ニ依リ入渠船ノ工事ヲ爲サ、ル日及出渠ノ日ハ之ヲ徴收セス平日日曜日公休日ト雖入渠船ニ於テ工事ヲ施行スルトキハ官ノ職工ヲ使用スルト否トニ拘ラス之ヲ徴收ス船底乾燥ノ爲ニ工事ヲ爲サ、ル日及船底検査ノ爲ニ船ノ都合ニ依リ工事ヲ見合ストキト雖亦之ヲ徴收ス	二	無届ニテ入渠期日ニ遅延シ入渠セサルトキハ常日入渠準備ノ爲ニ要シタル費用ヲ徴收ス	三	船長等ノ要求ニ依リ船渠内ノ盤木若ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ又ハ其他特ニ費用ヲ要スルトキハ入渠料ノ外之ニ關スル費用ヲ徴收ス	四	總積噸數不明ノ船渠ニ在リテハ左ノ式ニ依リ總積噸數ヲ算定ス 總積噸數 = $L \times B \times D \times C$ Lハ上甲板ニ於テ船首骨ノ内部ヨリ船尾ノ内部迄(或ハアルトキハ其ノ長サ) Bハ船助ノ内縁ヨリ内縁迄(或ハアルトキハ其ノ最大幅) Dハ船ノ中央部ニ於ケル上甲板梁ノ中央ヨリ船底ノ頂上迄(或ハアルトキハ其ノ深サ) Cハ長幅深ノ尺度、メートルナルトキハ0.3、フイットナルトキハ0.33	五	諸機械使用料表	六	諸機械使用料表	七	諸機械使用料表	八	諸機械使用料表	九	諸機械使用料表	十	諸機械使用料表	十一	諸機械使用料表	十二	諸機械使用料表	十三	諸機械使用料表	十四	諸機械使用料表
一	汽機	二	抽水機	三	揚水機	四	送風機	五	製氷機	六	電燈	七	電話	八	無線電	九	汽笛	十	汽鐘	十一	汽笛	十二	汽鐘	十三	汽笛	十四	汽鐘
一	右ノ外諸機械並小燈	二	汽機	三	抽水機	四	揚水機	五	送風機	六	製氷機	七	電燈	八	電話	九	無線電	十	汽笛	十一	汽鐘	十二	汽笛	十三	汽鐘	十四	汽笛
一	時間未滿ノ噸數ハ一時間ニ以上計算ス	二	時間ニ付	三	時間ニ付	四	時間ニ付	五	時間ニ付	六	時間ニ付	七	時間ニ付	八	時間ニ付	九	時間ニ付	十	時間ニ付	十一	時間ニ付	十二	時間ニ付	十三	時間ニ付		
一	時間未滿ノ噸數ハ一時間ニ以上計算ス	二	時間ニ付	三	時間ニ付	四	時間ニ付	五	時間ニ付	六	時間ニ付	七	時間ニ付	八	時間ニ付	九	時間ニ付	十	時間ニ付	十一	時間ニ付	十二	時間ニ付	十三	時間ニ付		

別表第三號

職工賃銀等級表

等級	金額	等級	金額	等級	金額
特別一等	三圓	特別二	二圓七十錢	特別三	二圓五十錢
特別二等	二圓九十錢	特別四	二圓八十錢	特別五	二圓七十錢
特別三等	二圓六十錢	特別六	一圓九十錢	特別七	一圓七十錢
特別四等	一圓九十錢	特別八	一圓八十錢	特別九	一圓七十錢
特別五等	一圓六十錢	特別十	一圓七十錢	特別十一	一圓六十錢
特別六等	一圓四十錢	特別十二	一圓六十錢	特別十三	一圓五十錢
特別七等	一圓三十錢	特別十四	一圓四十錢	特別十五	一圓三十錢
特別八等	一圓二十錢	特別十六	一圓三十錢	特別十七	一圓二十錢
特別九等	一圓十錢	特別十八	一圓十錢	特別十九	一圓十錢
特別十等	一圓十錢	特別二十	一圓十錢	特別二十一	一圓十錢
特別十一等	一圓十錢	特別二十二	一圓十錢	特別二十三	一圓十錢
特別十二等	一圓十錢	特別二十四	一圓十錢	特別二十五	一圓十錢
特別十三等	一圓十錢	特別二十六	一圓十錢	特別二十七	一圓十錢
特別十四等	一圓十錢	特別二十八	一圓十錢	特別二十九	一圓十錢
特別十五等	一圓十錢	特別三十	一圓十錢	特別三十一	一圓十錢
特別十六等	一圓十錢	特別三十二	一圓十錢	特別三十三	一圓十錢
特別十七等	一圓十錢	特別三十四	一圓十錢	特別三十五	一圓十錢
特別十八等	一圓十錢	特別三十六	一圓十錢	特別三十七	一圓十錢
特別十九等	一圓十錢	特別三十八	一圓十錢	特別三十九	一圓十錢
特別二十等	一圓十錢	特別四十	一圓十錢	特別四十一	一圓十錢
特別二十一等	一圓十錢	特別四十二	一圓十錢	特別四十三	一圓十錢
特別二十二等	一圓十錢	特別四十四	一圓十錢	特別四十五	一圓十錢
特別二十三等	一圓十錢	特別四十六	一圓十錢	特別四十七	一圓十錢
特別二十四等	一圓十錢	特別四十八	一圓十錢	特別四十九	一圓十錢
特別二十五等	一圓十錢	特別五十	一圓十錢	特別五十一	一圓十錢
特別二十六等	一圓十錢	特別五十二	一圓十錢	特別五十三	一圓十錢
特別二十七等	一圓十錢	特別五十四	一圓十錢	特別五十五	一圓十錢
特別二十八等	一圓十錢	特別五十六	一圓十錢	特別五十七	一圓十錢
特別二十九等	一圓十錢	特別五十八	一圓十錢	特別五十九	一圓十錢
特別三十等	一圓十錢	特別六十	一圓十錢	特別六十一	一圓十錢
特別三十一等	一圓十錢	特別六十二	一圓十錢	特別六十三	一圓十錢
特別三十二等	一圓十錢	特別六十四	一圓十錢	特別六十五	一圓十錢
特別三十三等	一圓十錢	特別六十六	一圓十錢	特別六十七	一圓十錢
特別三十四等	一圓十錢	特別六十八	一圓十錢	特別六十九	一圓十錢
特別三十五等	一圓十錢	特別七十	一圓十錢	特別七十一	一圓十錢
特別三十六等	一圓十錢	特別七十二	一圓十錢	特別七十三	一圓十錢
特別三十七等	一圓十錢	特別七十四	一圓十錢	特別七十五	一圓十錢
特別三十八等	一圓十錢	特別七十六	一圓十錢	特別七十七	一圓十錢
特別三十九等	一圓十錢	特別七十八	一圓十錢	特別七十九	一圓十錢
特別四十等	一圓十錢	特別八十	一圓十錢	特別八十一	一圓十錢
特別四十一等	一圓十錢	特別八十二	一圓十錢	特別八十三	一圓十錢
特別四十二等	一圓十錢	特別八十四	一圓十錢	特別八十五	一圓十錢
特別四十三等	一圓十錢	特別八十六	一圓十錢	特別八十七	一圓十錢
特別四十四等	一圓十錢	特別八十八	一圓十錢	特別八十九	一圓十錢
特別四十五等	一圓十錢	特別九十	一圓十錢	特別九十一	一圓十錢
特別四十六等	一圓十錢	特別九十二	一圓十錢	特別九十三	一圓十錢
特別四十七等	一圓十錢	特別九十四	一圓十錢	特別九十五	一圓十錢
特別四十八等	一圓十錢	特別九十六	一圓十錢	特別九十七	一圓十錢
特別四十九等	一圓十錢	特別九十八	一圓十錢	特別九十九	一圓十錢
特別五十等	一圓十錢	特別一百	一圓十錢		

別表第四號

特種事業加給表

種	類	區	別	毎一時間加給額
第一	終業時限後三時間外ヨリ起業時限迄ノ服業	終業時限三時間後六時間迄及起業時限前二時間以内	終業時限六時間後及起業時限二時間以前	日給二十分ノ一以内 日給十分ノ一以内
第二	硝煙製造又ハ之ニ類似ノ服業	水底五尋未満		日給五十分ノ一以内
第三	潜水事業	水底五尋以上		六錢乃至十五錢
第四	潜水器ヲ用ヒサル水中ノ事業	五月及十月、北海道ニ在リテハ六月及九月迄 十一月ヨリ四月迄、北海道ニ在リテハ十月ヨリ五月迄		八錢乃至二十錢 十二錢乃至三十錢
第五	腰及脚下ヲ水中ニ入ルヘキ事業	五月及十月、北海道ニ在リテハ六月及九月迄 十一月ヨリ四月迄、北海道ニ在リテハ十月ヨリ五月迄		一錢五厘乃至三錢 二錢乃至五錢
第六	病毒傳染ノ恐アル處所ニ於ケル服業 天災其ノ他非常防禦ノトキノ服業 艦ノ如キ機及二重底ナル修繕ノ服業 艦内ノ修繕ノ服業 艦上及艦船機突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業			二錢乃至五錢
第七	艦上及艦船機突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業			一錢乃至二錢五厘

第八	艦船試運及ハ銃砲水雷試射ノ爲ニ船中ノ區域外ニ出航ノ事業	艦船機突室内ノ事業 水雷艇機突室内ノ事業 機關室内ニ非ラサル事業		二錢五厘乃至五錢 四錢乃至六錢 一錢乃至二錢五厘
第九	艦船ニ乗組ミ明治四十二年達第六十九號ノ區域外ニ出航ノ事業	運轉其ノ他事業		一錢乃至二錢五厘

(書式略ス)

(参照)

明治三十六年十一月三日 海軍省達第三號ハ海軍工廠海軍造兵廠下國火藥製造所及海軍修理工場勤務時間並ニ職工服業時間規定ナリ

○海軍省達第百十八號

建築工場請到任官以下ノ執務時間ニ關シテハ明治四十四年達第百十七號海軍工務規則第四章ヲ適用ス

明治三十六年達第四號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十四年十月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治三十六年十一月三日海軍省令第四號ハ本號ト同件ナリ
 ○海軍省令百十九號
 海軍工作廳以外ノ工場ニ於テ常時使役スル職工、人夫(官役人夫)ノ給與ニ關シテハ別ニ定ムルモ
 ノ、外本年達第百十七號海軍工務規則第五章及第九章ヲ準用ス
 但シ經理部衣糧科職工賃錢ノ最上額ハ四等、女工賃錢ノ最上額ハ十六等トス
 明治四十四年十月三十日
 海軍大臣 男爵齋藤實

○陸軍省令百二十二號
 砲兵工廠服務規程左ノ通定ム

明治四十四年十一月二十五日
 砲兵工廠服務規程

陸軍大臣 男爵石本新六

第一章 分課及業務

- 第一條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 人事及兵籍名簿ニ關スル事項
 - 二 機密ニ屬スル事項
 - 三 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 四 公文書類及成案文書ノ授受發送ニ關スル事項
 - 五 法令條規及一般圖書ノ整理ニ關スル事項
 - 六 統計ニ關スル事項
 - 七 職工ノ補充、異動及其ノ名簿ニ關スル事項
 - 八 警戒、消防其ノ他取締ニ關スル事項
 - 九 防疫、工場衛生ニ關スル事項
 - 十 診斷、治療ニ關スル事項
 - 十一 前各號ノ外他課ノ主務ニ屬セサル事項
- 第二條 作業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 作業經營ニ關スル事項
 - 二 製造ノ命令及製造品ノ注文ニ關スル事項
 - 三 生産費ノ計算ニ關スル事項

字	治	各種火藥、爆藥
門	司	各種車輛、軍具等
門	司	各種火藥製造所
門	司	各種火藥製造所

第七條 提理ハ本規程ニ基キ處務細則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 提理ハ部下ヲ課長、所長、課附、所附ヲ命シ且高等官ニ在リテハ陸軍大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第九條 提理ハ各課、所ヲ掛又ハ工場ニ區分ス

第十條 課長、所長ハ部下ニ掛長、工場長、掛員、工場員ヲ命シ各其ノ職務ニ服セシム

第十一條 掛長及工場長ハ上官ノ命ヲ承ケ掛員、工場員ヲ指揮シ擔任ノ業務ヲ整理ス

第十二條 提理ハ毎年一回廠内ノ檢閲ヲ行フヘシ

前項檢閲ニ關スル方法及日割ハ檢閲開始前、其ノ成績ハ檢閲終了後陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條 提理ハ毎年四月及十月兵器其ノ他物品ノ前半期ニ於ケル製作竣工數及當該半期ニ於ケル製作豫定數ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 提理ハ左ノ諸表ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

- 一 物品價格受拂仕譯書
 - 二 固定資本價格増減明細書
 - 三 價格改定ヲ爲シタル作業物品明細書
 - 四 代價徵收済未渡物品明細書
 - 五 損失物品價格調書(三月盡日調)
 - 六 定期職工人員異動表(十二月盡日調)
 - 七 職工給額區分人員表(十二月盡日調)
- 前項第一號乃至第四號表ハ會計檢査院ニ提出ノ際其ノ副本ヲ提出シ第五號乃至第七號表ハ調査

後一箇月以内ニ提出スヘシ

第十五條 提理ハ主要兵器及軍需品ノ當該年度ニ於ケル製造力ヲ調査シ毎年四月盡日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

大阪砲兵工廠提理ハ製鐵所ニ於ケル鋼製彈體ノ製造力ヲ調査シ前項報告ト同時ニ陸軍大臣ニ報告シ且之ヲ東京砲兵工廠提理ニ通報スヘシ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 新ナル製造設備ヲ爲シ又ハ既設ノ設備ヲ撤回シ作業力ニ大ナル變化ヲ及ボスヘキ場合
- 二 兵器用特定材料ヲ外國ニ注文スル場合

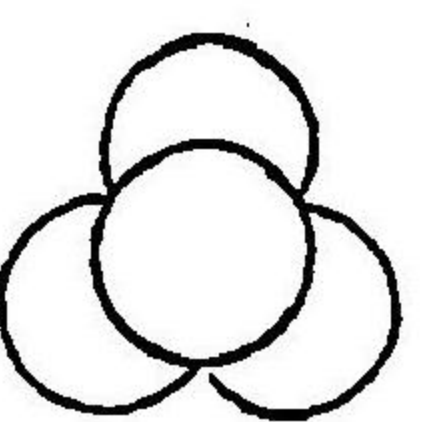
第十七條 陸軍大臣ヨリ派出所ノ設置ヲ命セラレタルトキハ提理ハ其ノ組織及職域ヲ規定シ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 東京砲兵工廠提理ハ陸軍火藥研究所及陸軍砲兵工科學校ニ關スル事項ヲ適宜各課ニ分掌セシム

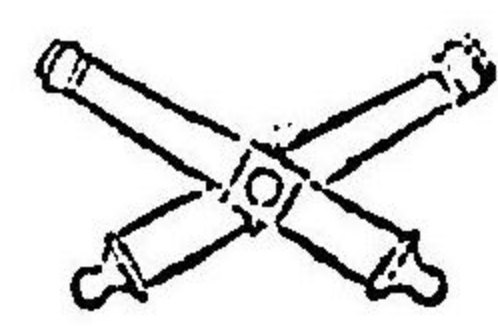
第十九條 東京砲兵工廠提理ハ陸軍砲兵工科學校ノ實業教授ニ關スル事項ヲ適宜各製造所ニ分掌セシム

第二十條 砲兵工廠ニ於テ製作スル物品及其ノ容器ニ使用スヘキ記號ハ左ノ如シ

東京砲兵工廠



大阪砲兵工廠



第二章 注文ノ引受及販賣

- 第二十一條 海軍ヨリ黒色薬及褐色薬製造ノ請求アリタルトキハ之ニ應シ銃砲藥類製造ノ注文アリタルトキハ作業ノ都合ニ依リ之ニ應スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ在リテハ其ノ品目數量ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 第二十二條 左記ノ物品及火薬類ハ各工廠ニ貯藏シ兩工廠同一價格ヲ以テ賣渡ヲ爲スヘシ
 - 一 陸軍諸部隊ノ請求ニ係ル兵器手入用消耗品
 - 二 工業用及獵用各種火薬、爆薬ニシテ一般ニ需用セラルルモノ
- 第二十三條 工業用及獵用各種火薬、爆薬ノ賣渡ニ關シテハ兩工廠提理協同ノ上之ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十四條 陸海軍以外ノ官廳又ハ人民ヨリ左ニ掲クル軍用兵器及軍需品ノ注文アリタルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ兵器運搬請負者カ補償ノ爲運搬ヲ爲サレタル部隊ヲ經テ兵器ノ製造ヲ願出タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 陸軍制式兵器兵器取扱規則第二類兵器ヲ除ク及其ノ主要ナル半成品
 - 二 銃砲火薬類取締法ノ適用ヲ受クヘキ軍用銃砲
 - 三 外國ヨリ注文ヲ受ケタル兵器及軍需品
- 第二十五條 前條物品ノ注文ニ付テハ注文ノ目的品目及期間ヲ限定シ豫メ許可ヲ受クルコトヲ得

此ノ場合ニ在リテハ翌月十日迄ニ注文ノ箇所及品目數量ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

- 第二十六條 砲兵工廠條例第十一條ニ依リ官廳又ハ民間ノ依頼ニ應シ得ヘキ物品ノ種類左ノ如シ
 - 一 官廳又ハ公署ノ注文品
 - 二 民間ニ製造ノ設備ナキカ又ハ其ノ設備不足ナル製作品
 - 三 多數ニ輸入セラルル物品
 - 四 輸出ヲ目的トスル注文品
 - 五 工廠作業ニ伴フ副生物ヲ主タル原料ノスル製作品
 - 六 特ニ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケタル物品

第三章 職工入夫

- 第二十七條 砲兵工廠ノ職工ヲ分テ定期職工及普通職工トス
- 第二十八條 定期職工ハ普通職工中年齡滿二十歳以上四十歳未滿ニシテ身體強壯、品行方正且技術發達ノ見込アリテ永年奉職ノ志操確實ナル者ヨリ選抜採用ス
- 定期職工ノ年齢ハ滿五十歳ヲ以テ限トス但シ身體強壯ニシテ特別ノ技能アル者ハ定限年齢ニ達スルモ證衡ノ上二年ヲ延期シ滿六十歳迄繼續就業セシムルコトヲ得
- 第二十九條 定期職工ノ人員ハ東京砲兵工廠ニ在リテハ四千五百人以内、大阪砲兵工廠ニ在リテハ三千五百人以内トス
- 第三十條 普通職工ハ作業又ハ之ニ關聯スル業務ニ從事セシムヘキ常備又ハ臨時備ノ職工ニシテ其ノ採用ニ關シテハ提理之ヲ定ム
- 第三十一條 職工ノ給料ハ十時間就業ニ應スル額ヲ日給ト定メ就業時間ニ應シ之ヲ給ス日給最高

額ハ貳圓五拾錢トス

職工ノ給料ハ作業ノ種類ニ依リ請負法ニ依ルコトヲ得

第三十二條 特別ナル作業又ハ夜間作業ニ従事セシメタル場合共ノ他特殊ノ事情アルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ前條第一項ノ外更ニ特別ノ増給ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 職工人夫ニシテ能ク諸規則ヲ遵守シ誠實ニ其ノ職務ニ勉勵スル者ニハ毎年十二月ニ於テ慰勞金ヲ與フ

前項ノ外成績特ニ良好ナル者ニ限リ七月ニ於テモ慰勞金ヲ與フルコトヲ得

第三十四條 製造上有益ナル器械工具ヲ發明シ又ハ作業ノ方法ニ改良進歩ヲ來シ共ノ他特ニ功勞アル者ニハ相當ノ賞與ヲ與フルコトアルヘシ

第三十五條 職工人夫ニシテ諸規則ヲ遵守セス又ハ有害ナル行爲アリタル者及過失若ハ怠慢ニ依リ作業上官ニ損害ヲ加ヘタル者ハ左ノ罰目ニ處ス

- 一 免職
- 二 減給

免職ハ職工又ハ人夫ヲ免シ再之ヲ採用セス減給ハ日給一時間乃至五十時間以内ヲ減スルモノトス

第三十六條 職工ヲ外國ニ派遣セムトスルトキハ派遣ノ目的、派遣地、派遣期間等ヲ具シ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本規程中職工日給最高額ニ關スル事項ハ明治四十五年四月一日以降之ヲ實施スヘシ

○陸軍第三十二號

明治三十五年陸軍第六十三號中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月二十五日

陸軍大臣 男爵石本新六

本文但書中「主計正アラサルトキハ高級古參ノ主計」ノ下ニ「朝鮮滿洲駐師團各部隊備附被服兵舍廳舍備附陣營具及宿舍備附家具ニ係ルモノハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮駐師團軍經理部長、滿洲ニ在リテハ關東都督府陸軍經理部長」ヲ加ヘ第四項中「滿韓樺太」ヲ「朝鮮樺太滿洲」ニ、韓國」ヲ「朝鮮」ニ改メ

〔參照〕

明治三十五年五月三日陸軍第六十三號ハ明治三十五年度以降計算ノ檢査及責任解除委託ノ件ナリ

○海軍省達第百二十號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月二日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條ノ三 熱帶地方又ハ炎暑酷烈ナル地方ニ於テハ正服着用ノ場合ニ夏服ヲ着用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ外國トノ交際上必要アルトキハ正服劔帶或ハ正服袴ヲモ着用スルコトヲ得
第十三條中「並禮服用ノ場合ニ」ヲ「並正服禮服用ノ場合ニ」ニ改メ

○海軍省達第百二十一號

佐世保海軍工廠ニ於テ製造ノ砲艦ヲ鳥羽ト命名セラル

明治四十四年十一月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十二號
艦艇類別等級別表中砲艦ノ欄内「伏見」ノ次ニ「鳥羽」ヲ加フ
明治四十四年十一月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十三號
軍艦鳥羽ニ左ノ通信號符字ヲ附ス

明治四十四年十一月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十四號

信號符字 G Q H D 艦名 鳥羽

海軍無線電報取扱規約第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治四十四年十一月九日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍陸上無線電信所ニ於テ有線電信ノ連絡ヲ有セサルカ又ハ有線電信故障ノ爲通信不可能ナル場合ハ艦船ニ準シ本規約ニ據リ通信ヲ行フコトヲ得

○海軍省達第百二十五號

海軍戰技優等賞授與手續ノ通定

明治四十四年十一月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍戰技優等賞授與手續

第一條 海軍戰技優等賞令施行規則ニ依リ優等賞ヲ授與スルトキハ本手續ニ依ルヘシ

第二條 檢定射擊、檢定發射、通信各箇檢定、檢定汽釀優等賞授與式ハ陸上適宜ノ場所ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第三條 檢定射擊優等賞授與式ニハ左記第一號、檢定發射優等賞授與式ニハ第二號、通信各箇檢定優等賞授與式ニハ第三號、檢定汽釀優等賞授與式ニハ第四號ノ諸官適宜之ニ參會スルモノトス

一、在港各艦團部隊長各艦砲術長砲臺長驅逐艦長水雷艦長及檢定射擊委員

二、在港各艦團部隊長各艦水雷長驅逐艦長水雷艦長及檢定發射委員

三、在港各艦團部隊長各艦航海長(水雷長)驅逐艦長水雷艦長及通信各箇檢定委員

四、在港各艦團部隊長並各艦機關長驅逐艦長水雷艦長驅逐隊艦隊機關官及檢定汽釀委員

第四條 海軍戰技優等賞ヲ受クヘキ優等艦、隊ノ現所屬長官ハ該優等賞ヲ海軍大臣ヨリ受領シ其ノ授與式日ヲ定メ海軍大臣ニ報告シ麾下一般ニ公示スルモノトス

第五條 海軍戰技優等賞授與式ハ軍艦ニ在リテハ其ノ艦ニ於テ、驅逐隊以下ニ在リテハ要港部水雷團若ハ所屬母艦ニ於テ、附屬セル出合ニ在リテハ其ノ艦ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第六條 海軍戰技優等賞授與式ニハ時宜ニ依リ海軍大臣海軍教育本部長參列シ在港各艦團部隊長及海軍戰技優等賞令施行規則第二條第五號乃至第八號ノ關係戰技委員之ニ參會スルモノトス

優等艦ノ乘員ハ總員共ノ式場ニ整列スルモノトス驅逐隊艇隊潛水艇隊ニ在リテハ差支ナキ限り其ノ乘員ヲ式場ニ列セシムヘキモノトス

第七條 海軍戰技優等賞ハ所屬長官自ラ之ヲ優等艦長又ハ司令ニ授與スルモノトス

第八條 式場ノ設備ハ別紙圖例第一及第二ニ依ルヘシ但シ必要ナルトキハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得(圖例參看)

第九條 褒狀授與式ハ海軍戰技優等賞授與式ニ準シ之ヲ行フモノトス

第十條 本手續ニ依ル各授與式ノ服裝ハ通常禮服トス

第十一條 次回ノ優等艦、隊決定シタルトキ現ニ海軍戰技優等賞ヲ保有シタル艦、隊ハ之ヲ所屬長官ニ返納スヘシ其ノ返納期日ハ所屬長官之ヲ指定スルモノトス

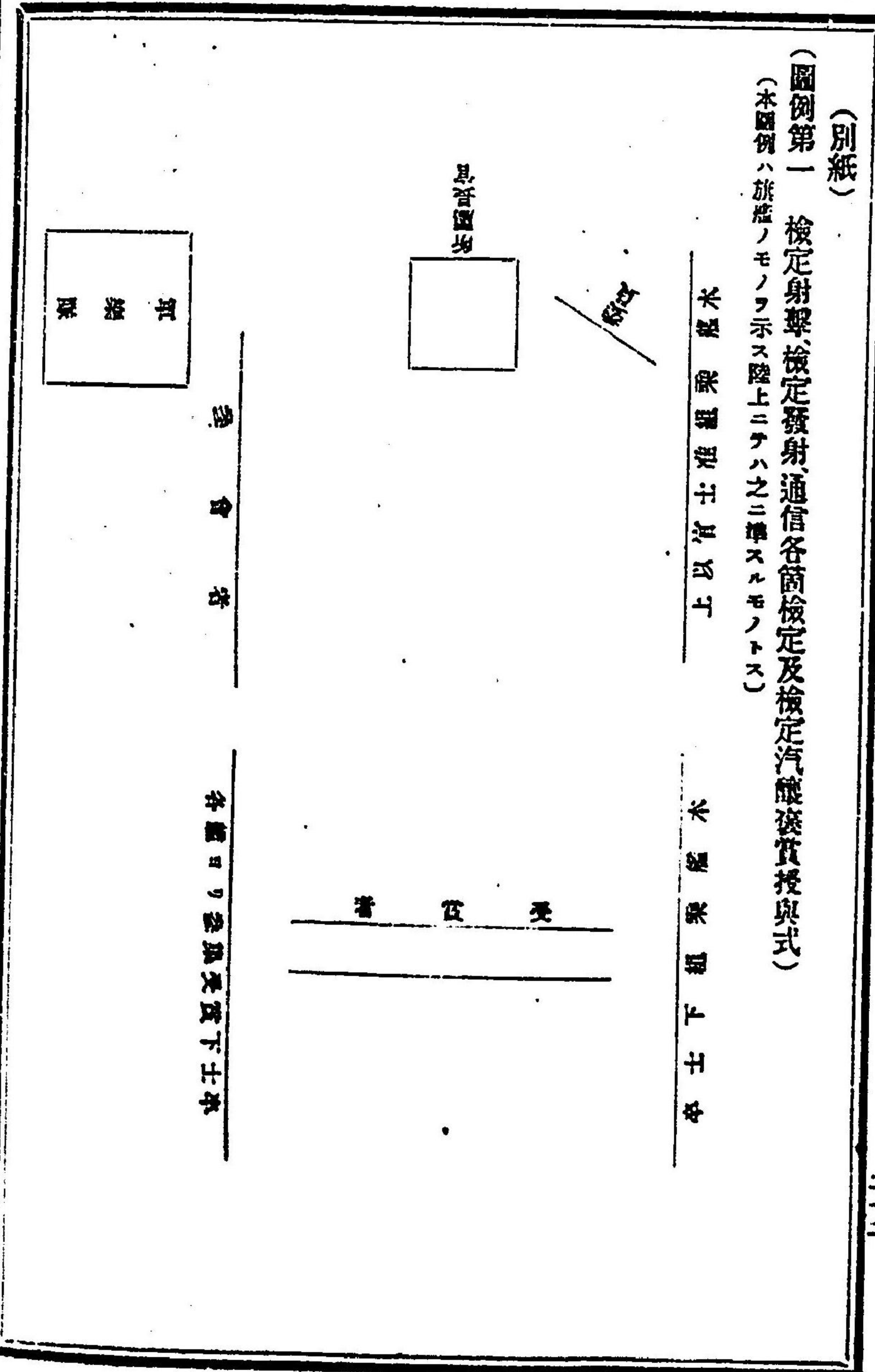
附則

艦砲射擊、魚形水雷發射、通信術及機關高力運轉優等賞授與手續ハ之ヲ廢止ス

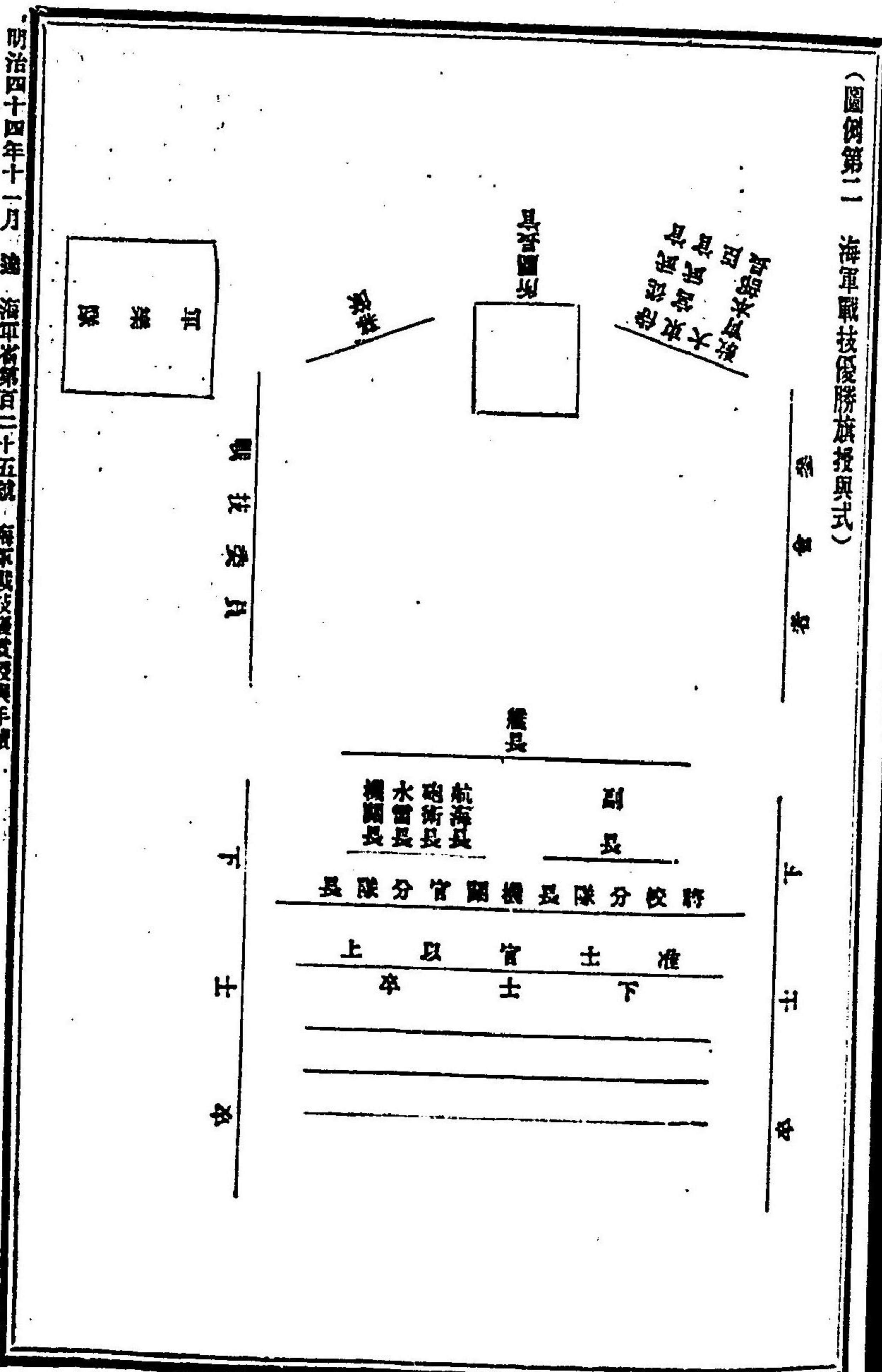
(別紙)

(圖例第一) 檢定射擊、檢定發射、通信各箇檢定及檢定汽釐發賞授與式

(本圖例ハ旗艦ノモノヲ示ス陸上ニテハ之ニ準スルモノヲス)



(圖例第二) 海軍戰技優等旗授與式



○海軍省達第百二十六號

海軍艦砲操式別冊ノ通改

但シ艦ノ構造砲種及砲ノ裝備等ニ依リ本操式ヲ適用シ能ハサルトキハ之ニ準據シ適宜變更スル
コトヲ得此ノ場合ニ在リテハ該事項ヲ速ニ海軍教育本部長ニ報告シ同時ニ海軍砲術學校長ニ通
報スヘシ

別冊ハ海軍教育本部ヲシテ之ヲ要スル向ニ配附セシム

明治四十四年十一月十六日

○海軍省達第百二十七號

明治四十一年^四達第五十九號ヲ廢ス

明治四十四年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

明治四十一年^四海軍省達第百二十九號ハ海軍艦砲操式草案ニ依リ艦砲操式實施方ノ件ナリ

○海軍省達第百二十八號

明治四十二年達第百三十二號中「朝鮮總督府及臺灣總督府」朝鮮總督府、臺灣總督府及關東都督
府ト別表臺灣總督府無線電信所略符號ノ下ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治四十四年十一月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

海 岸 局	J D A	大 連 灣
船 舶 局		
日 本 郵 船		
Y K B	神 戶 丸	
Y S W	西 京 丸	

關東都督府無線電信所略符號

〔参照〕

明治四十三年^四海軍省達第百三十二號ハ海軍艦船ト朝鮮總督府及臺灣總督府所屬無線電信所同ノ無線電信通符號
方ノ件ナリ

○海軍省達第百二十九號

右吳海兵團附屬ニ改ム

明治四十四年十一月二十七日

吳海軍港務部附屬

汽船初加勢

海軍大臣 男爵齋藤實

○陸軍第三十四號
兵器取扱規則別冊ノ通改正ス

明治四十四年十二月四日
(別冊略ス)

陸軍大臣 男爵石本新六

○海軍省達第百三十號

海軍無線電取扱規則附表第一中左ノ通改ス

明治四十四年十二月四日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍艦(船)名略符號ノ欄中

戦艦ノ部

相模ノ「G S G」ヲ「G S I」ニ

一等巡洋艦ノ部

伊吹ノ「G I B」ヲ「G I V」ニ

二等巡洋艦ノ部

千歳ノ「G C S」ヲ「G C T」ニ

水雷母艦ノ部

豊橋ノ「G T S」ヲ「G T Y」ニ

改メ

砲艦ノ部

伏見ノ次ニ

G T V 島羽

ヲ加フ

○海軍省達第三百三十一號
 造船造兵材料中本邦内ニ於テ生産製造スル物品ハ内國品ヲ使用スヘシ
 前項ノ物品ニシテ特ニ外國品ヲ使用スルノ必要アルトキハ理由ヲ具シテ認許ヲ受クヘシ
 本達ハ明治四十五年二月一日ヨリ施行ス
 明治四十四年十二月八日
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三百三十二號
 明治四十年達第五十五號軍艦經費爲替拂順序第二條一號中「コルサコフ」次ニ「田名部」ヲ追加ス
 明治四十四年十二月八日
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三百三十三號
 海軍里程表別冊ノ通改正シ明治四十四年十二月十五日ヨリ施行ス
 但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ經理局ヨリ配付セシム
 明治四十四年十二月十三日
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三百三十四號
 艦隊日誌摘要報告様式別紙欄外中「前月分二通」ヲ「前月分一通」ニ改ム
 但シ現存ノ分ハ訂正ノ上使用スヘシ
 明治四十四年十二月十三日
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三百三十五號
 雇員備人給與規則中左ノ通改正ス
 明治四十四年十二月十四日
 海軍大臣 男爵齋藤實

第四條中「臺灣、關東州、韓國」ヲ「朝鮮、臺灣、關東州」ニ改ム
 第五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

雇員備人ノ給料ハ毎月文官ト同日ニ之ヲ支給ス但シ日給者ハ前月十六日ヨリ共ノ月十五日迄ノ
 間ニ於ケル給料トス
 艦船及營舎ニ在勤スル日給者ノ給料ハ前項ノ規定ニ拘ラス共ノ月分ノ給料ヲ毎月末日(二十五日)
 ニ之ヲ支給スルコトヲ得但シ當日休暇ニ當ルトキハ順次繰上ル
 第六條中「死亡」トキハ其ノ月末日迄之ヲ支給ス之ヲ支給セ「死亡」トキハ其ノ月全額ヲ給スニ改ム
 第八條但書ヲ削ル
 第九條 朝鮮、臺灣、關東州及樺太ニ在勤スル雇員備人ニハ第三表又ハ第四表ニ依リ増給ヲ支給ス
 其ノ地所在官衙部隊所屬艦船乗組ノ者亦同シ
 第十條中「臺灣、關東州」ヲ「朝鮮、臺灣及關東州」ニ改ム
 第一表ヲ附表ノ如ク改ム
 第四表中「關東州、韓國」ヲ「朝鮮、關東州」ニ改ム
 第五表中「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム
 附則
 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (附表)

第一表 雇員給料最上限表

月給三十圓	月給二十五圓	日給二圓	日給一圓
筆	生	守	衛
		技	生
		通	抗
		器	内
		操	取
		手	給

〔參照〕

海軍省達第三十三號雇員備人給與規則(明治四十三年三月二十九日)抄録

第五條第一項 雇員備人ノ給料ハ毎月文官ト同日ニ之ヲ支給ス日給者ハ前月十六日ヨリ其ノ月十五日迄ノ支給スヘキ日數ヲ計算シテ之ヲ支給ス但シ便宜ニ依リ其ノ月分ノ給料ヲ毎月末日ニ支給スルコトヲ得

第六條第一項 雇員備人ノ給料ハ新ニ採用ノトキ又ハ増給給給ノトキハ辭令ノ日ヨリ、文官ニ任用又ハ解雇解雇ノトキハ辭令ノ日迄、他ノ雇員備人又ハ職工ニ轉雇轉雇ノトキハ其ノ前日迄死亡ノトキハ其ノ月末日迄之ヲ支給ス

第八條 雇員備人外國ニ出張スルトキ又ハ艦船乗組ノ備人ヲシテ航海ヲ爲ストキハ海軍給與令施行細則中俸給家族渡ノ例ニ依リ其ノ給料ヲ家族ニ下渡スコトヲ得但シ第五條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ月末日(休日日ハ除外ス)

第九條 臺灣、關東州、韓國及樺太ニ在勤スル 雇員備人ニハ第三表又ハ第四表ニ依リ増給ヲ支給ス臺灣、關東州所在官衙部隊所屬艦船乗組ノ者亦同シ

○海軍省達第百二十六號
年額又ハ月額ノ報酬金ハ毎月(年額ノモノハ)文官ト同日ニ之ヲ支給シ疾病、事故、缺勤及死亡等ノ場合ニ於ケル支給區分ハ雇員備人給與規則ニ準據ス
明治四十四年十二月十四日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十七號
艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「山風」ノ次ニ「櫻」ヲ加フ
明治四十四年十二月二十日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十八號
海軍砲隊 改良陸用砲架機砲隊操式別冊ノ通定ム
別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配附セシム
明治四十四年十二月二十三日
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十九號

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

○海軍省達第百四十號
艦艇類別等級別表中「春雨」ヲ削ル
明治四十四年十二月二十八日

明治四十四年十二月二十八日

佐世保鎮守府在籍

驅逐艦 春雨

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

法令全書

告示

○内閣告示第一號

樺太移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方中左ノ通改正ス

明治四十四年一月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

第二條中「遞信省所管ノ鐵道」ヲ「鐵道院所管ノ鐵道及汽船」ニ改メ「日本郵船株式會社ノ汽船」ノ下及青森函館線ヲ削ル

第三條 鐵道院所管ノ鐵道及汽船ニ於ケル乘車船地降車船地ハ左ノ如シ

- | | | |
|------------------------------|-------------------------|----|
| 東海道、山陽、讚岐、九州、中央西、北陸、阪鶴、關西線各驛 | 乘車 | 船地 |
| 武豐、中央西、關西線及名古屋神戶間各驛 | 降車 | 船地 |
| 九州線各驛 | 大阪、神戶、橫濱、平沼、青森、函館、中央小樽驛 | |
| 北陸線各驛 | 酒田、四日市驛 | |
| 信越、中央東線各驛 | 門司、鹿兒島、長崎驛 | |
| 奥羽線各驛 | 敦賀、金津、高岡、伏木驛 | |
| 東北線各驛 | 直江津、新潟、橫濱、青森、函館、中央小樽驛 | |
| 山陰線各驛 | 青森、函館、中央小樽、能代、土崎驛 | |
| 德島線各驛 | 青森、函館、中央小樽、橫濱驛 | |
| 總武線各驛 | 境驛 | |
| 北海道線各驛 | 德島驛 | |
| | 兩國橋、青森、函館、中央小樽驛 | |
| | 中央小樽、函館、室蘭、釧路驛 | |

第四條中「成田」ノ下ニ「及東武」ヲ「青森」ノ下ニ「函館」ヲ加フ

○鐵道院告示第一號

明治四十四年十一月三日 逕信省告示第六百九十五號ニ左記但書ヲ追加シ明治四十四年二月一日ヨリ施行ス

明治四十四年一月九日

但二級品中氷及高級品中生絲、生鳥、魚ニ限リ別ニ高率ナル運賃ニ據ルコトアルヘシ此場合ニハ關係停車場ニ揭示ス

〔參照〕

逕信省告示第六百九十五號(明治四十四年十月三十一日)
群島各埠間、舞鶴小樽間、船越境(境以西ノ中海ヲ含ム)間各航路ノ營業運程ヲ左ノ通相定メ明治三十九年九月逕信省告示第四百號通常片扱、通常噸扱運賃ヲ適用シ來十一月一日ヨリ實施ス
舞鶴宮津間 二十一哩
舞鶴小樽間 三十五哩
舞鶴境(宇津川)間 百五十哩

○鐵道院告示第二號

明治四十四年一月十一日ヨリ北海道函館本線伊納旭川間ニ近文停車場ヲ設置シ一般運輸營業ヲ開始ス其哩程左ノ通

明治四十四年一月九日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

伊納近文間

三哩八分

近文旭川間

二哩五分

○鐵道院告示第三號

明治四十四年一月二十一日ヨリ九州筑豐本線岩崎、香月停車場ニ於テ一般貨物ノ取扱ヲ開始ス

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○鐵道院告示第四號

明治四十四年十一月十日逕信省告示第六百四十號中左ノ通改正シ來二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年一月二十日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

「場合ハ總テ」ノ五字ヲ「トキ」ハ環狀線ヲ四分ノ三以上ニ互リテ迂回乗車スル場合ヲ除キ「ニ改ム

〔參照〕

逕信省告示第六百四十號(明治四十四年十月十六日)
乘車區間ノ線路カ私設鐵道線ヲ介セスシテ接続スル場合ハ總テ哩程ヲ通算ス
但シ九州線及山陽線ハ線路ノ接続シタルモノト見做ス

○鐵道院告示第五號

常磐線三河島停車場ニ於ケル取扱貨物ハ來ル二月五日ヨリ左記品目ニ限定ス

明治四十四年一月二十一日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

牛馬 豚 襪襪 肥料 紙(第一級ノ)

古綿 皮(第二級ノ) 毛及髪 獸骨

○鐵道院告示第六號

明治四十四年二月一日ヨリ東海道本線有樂町、烏森、濱松町及田町ノ各停車場ニ於テ小荷物ノ受付ヲ爲ス

但取扱小荷物ノ種類ハ當該停車場ニ揭示ス

明治四十四年一月二十一日

鐵道院總裁 男爵後藤新平

○宮内省告示第一號

今般 皇太子妃殿下御服喪ニ付御喪期中同妃殿下ニ附屬スル宮内官及同妃殿下ヘ伺候ノ向喪服着用方左ノ通定メラシ

明治四十四年一月二十七日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

男子 第一期

- 大禮服
 - 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
 - 一 黑紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク
 - 一 襟飾及手套白
- 但宮内高等官ノ小禮服之ニ準ス
- 通常禮服
 - 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
 - 一 襟飾及手套白
- 通常服
 - 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
 - 一 帽黒 黒羅紗ヲ以テ之ヲ卷ク
 - 一 襟飾黒
 - 一 手套 黒又ハ鼠色
- 陸軍正裝及禮裝
- 海軍正服及禮服
- 一 黑紗ヲ以テ左腕ニ纏フ
- 一 黑紗ヲ以テ劔ノ柄ヲ卷ク
- 陸軍軍裝及通常禮裝略裝
- 海軍軍服及通常禮服

婦人

- 西洋服
 - 一 服(無紋) 服飾 帽 帽飾 手套 扇 傘 及 飾品等總テ黒
 - 一 靴及足袋黒
- 文官ニシテ帶劔アル制服
- 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ

男子 第二期

- 大禮服
 - 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
 - 一 襟飾及手套白
- 但宮内高等官ノ小禮服之ニ準ス
- 通常禮服
 - 一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
 - 一 襟飾及手套白
- 通常服
 - 一 黒羅紗ヲ以テ帽ヲ卷ク
 - 一 襟飾黒
- 陸軍正裝及禮裝
- 海軍正服及禮服

一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
○ 文官ニシテ帶劔アル制服
一 黑紗ヲ左腕ニ纏フ
婦人

○ 西洋服
一 衣服飾及帽飾ハ黒
一 手套ハ黒又鼠色又ハ白

○ 外務省告示第一號
帝國政府ハ明治三十九年一月三十一日調印ノ日本帝國及英領加奈陀間修交通商航海條約ヲ本年七月十七日ヨリ無効ニ歸セシムコトヲ欲シ本年一月十七日英國政府ニ對シ此ノ旨通告ニ及ヒタリ
明治四十四年一月十九日
外務大臣 伯爵小村壽太郎

○ 內務省告示第一號

兵庫縣神戸市中山手通三丁目五十五番屋敷ノ四住

清國人 葉鐵輝

右日本帝國ニ歸化ヲ允許セリ

明治四十四年一月四日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○ 內務省告示第二號

一 明治四十四年九星早見 一册

大坂市東區大野助藏 發行

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十四年一月九日 內務大臣 法學博士男爵平田東助

○ 內務省告示第三號

國幣中社嚴島神社 廣島縣安藝國佐伯郡嚴島町鎮座

祭神 市杵島姬命

右官幣中社ニ列セラル、旨 仰出サル

○ 內務省告示第四號

國幣中社住吉神社 山口縣長門國豐浦郡勝山村鎮座

祭神 表筒男命荒魂

中筒男命荒魂

底筒男命荒魂

右官幣中社ニ列セラル、旨 仰出サル

明治四十四年一月十二日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○ 內務省告示第五號

明治三十九年五月當省告示第五十七號北海道移住民ニ對スル汽車汽船ノ特別取扱方第三條第二無賃區間降車地ノ欄川端夕張間ノ次ニ池田陸別間、深川留前間ヲ加フ

明治四十四年一月十八日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○ 內務省告示第六號

一 明治四十四年九星早見 一册

一 明治四十四年九星早見 一册

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十四年一月二十六日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

東京市下谷區萬年町 中田直道 發行

大坂市心橋本 健 發行

大坂市南區入橋本 健 發行

明治四十四年一月 告示 內務省第三號 第四號 第五號 第六號

七

○内務省告示第七號

暴風雨標條例ニ依リ兵庫縣港務部ニ於テ本年二月一日ヨリ暴風雨標信號揚卸ヲ開始ス
明治四十四年一月二十八日
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省告示第一號

明治四十四年二月一日ヨリ同月二十八日マテ税關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム
但本表所掲ノ外外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通
明治四十四年一月四日
大藏大臣 侯爵桂太郎

内外貨幣比較表

外國貨幣	日本金貨	
	上海一兩	天津一兩
漢口一兩	二六〇	三〇五
墨西哥銀	一ドル	二六〇
英吉利銀	一ドル	九三五
香港銀	一ドル	九一一
暹羅銀	一ナカル	九一一
暹羅貨	一ナカル	七七三

○大藏省告示第二號
製造煙草定價左ノ通相定ム

明治四十四年一月十二日

種類 製造 所
葉卷煙草 スマトラ、タバココンパニ

同 同
同 同

○大藏省告示第三號

明治四十三年五月大藏省令第二十一號同第二十三號同年九月同第四十二號及同年十月同第四十八號ニ依リ發行スル國債ノ内四十二年十二月甲種國債登錄簿ニ登錄シ又ハ日本銀行ニ交付シタル國債證券ノ額面高左ノ如シ
明治四十四年一月二十一日
大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十三年發行

一五分利公債額面七百九拾八萬八千百圓

一第一回四分利公債額面拾八萬七千八百五拾圓

○大藏省告示第四號

明治四十二年三月大藏省告示第四十四號中左ノ通改正シ即日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十四年一月二十一日
大藏大臣 侯爵桂太郎

函館專賣局	函館專賣局
北 函館 小樽 釧路 青森 秋田 岩手 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口	北 函館 小樽 釧路 青森 秋田 岩手 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口

高梁專賣支局 爲取縣 島根縣 興津郡 鹿足町 除之、兵庫縣 福崎郡 美方町
米子出張所

〔參照〕

明治四十二年三月七日大藏省告示第四十四號ハ鹽販賣官署名稱及區域ノ件ナリ

○大藏省告示第五號

一大藏省證券額面千五百萬圓

但大藏省證券條例ニ依ル分

仕拂期日 明治四十四年二月二十四日

但帝國鐵道會計法第十二條第一項ニ依ル分

仕拂期日 明治四十四年二月二十四日

右割引ノ方法ヲ以テ本月二十五日之ヲ發行セリ

明治四十四年一月二十六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省告示第六號

熊本稅務監督局管内白杵稅務署ヲ明治四十四年二月五日大分縣北海郡那白杵町大字白杵字濱二ノ百七番地ノ二百四十四ニ移ス

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省告示第七號

今般左記國債事務取扱店臨時派出所ヲ廢止ス

明治四十四年一月二十八日

大藏大臣 侯爵桂太郎

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

一日本銀行臨時海運橋派出所

明治四十四年一月 告示 陸軍省第一號 第二號

○陸軍省告示第一號

陸軍戸山學校軍樂生徒二十五名ヲ召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第八章ノ規定ニ依リ願書其ノ他ノ書類ヲ明治四十四年三月二十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ但シ軍樂生徒ヲ入校セシムルハ明治四十四年十二月一日ニシテ志願シ得ヘキ者ノ出生年月日ハ明治二十四年十二月一日ヨリ同二十七年十二月一日迄トス

○陸軍省告示第二號

臨時陸軍建築部廣島支部ハ之ヲ閉鎖ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○海軍省告示第一號

海軍兵學校生徒百二十名召募ス志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年四月三十日迄ニ海軍兵學校長ニ出願スヘシ

海軍兵學校生徒志願者身體検査所及學術試験所ヲ左記十二箇所ニ設ク

- 東京市 長野市 名古屋市 仙台市 京都市 廣島市
- 高知市 鳥取市 熊本市 鹿兒島市 金澤市 大分町

海軍兵學校生徒志願者ノ身體検査ハ本年七月中旬又ハ下旬施行スル豫定ナリ其ノ期日ハ追テ更ニ告示ス

地方長官ハ市區町村長ヲシテ本告示ノ要領(海軍兵學校生徒何名召募ノ旨何月何日官報海軍省告示第何號ヲ以テ告示アリタリトノ旨)ヲ其ノ役場ニ掲示公表セシムルヲ要ス

明治四十四年一月六日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍兵學校生徒志願者心得

- 第一條 海軍兵學校生徒ハ本年九月中ニ於テ年齡滿十六年以上滿二十年以下(明治二十四年九月十二日ニ於テ出生)ニシテ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス
- 第二條 左ノ諸號ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス
 - 一 有妻ノ者
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
 - 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人
 - 五 品行又ハ家庭不良ナルカ爲將米將校タルノ體面ヲ保フ能ハスト認ムル者
- 第三條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第四條 生徒ニハ入校ノ日ヨリ手當金ヲ給シ被服共ノ他修學ノ費用ニ充テレム

第五條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第六條 生徒ハ左ノ諸號ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

- 一 將校タルヘキノ器量ニ乏シキ者
- 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 四 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難ト認ムル者

第七條 志願者ハ父兄親族其ノ他可成自己ニ關係深ク一家ヲ爲シ身元確實ナル者二名ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第八條 志願者ハ志願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ市區町村長(志願者單身寄留ノモノナルトキハ原籍地ノ市區町村長、全戸寄留ノモノナルトキハ寄留地ノ市區町村長)ノ與書證印ヲ受ケ書留郵便若ハ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ直接海軍兵學校長ニ差出スヘシ

- 一 履歷書(第二號書式)
- 二 承認書(第三號書式)
- 三 身元明細書(第四號書式)
- 四 戶籍謄本

身元明細書ハ志願書ト同シク市區町村長ノ與書證印ヲ受クルヲ要ス

第九條 入校試験ノ前後ヲ問ハス志願ヲ取消サント欲スル者ハ保證人連署ヲ以テ速ニ海軍兵學校長ニ届出ツヘシ

第十條 志願書ヲ差出シタル後志願者及保證人ノ原籍住所及身上ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ保證人ヲ變更シタルトキハ第八條ニ準シ市區町村長ノ與書證明ヲ得テ速ニ海軍兵學校長ニ届出ツヘシ

代數英文和譯平面三角算術及英文法中其ノ一科目ニ於テ成績不良ノ者ハ爾後試験ヲ繼續セシメス

第十六條 志願者ハ身體検査ノ際新ニ(本年三)月以後)撮影(著帽ヲ禁ス)セル紙寫真(寫紙附ナルヲ要シ

裏面ニ族籍氏名ヲ自書スヘシ)一葉ヲ携帶シ試験官ニ差出スヘシ

第十七條 志願者ハ洋服又ハ袴ヲ著用スヘシ又身體検査ニ際シテハ其ノ前入浴シテ身體ヲ清淨ニ

シ殊ニ耳垢ヲ除キ口中ヲ清潔ニシテ出頭スヘシ

第十八條 志願者何等ノ事故アリト雖之カ爲時日ヲ延シ検査ヲ行フコトナレ

第十九條 志願者検査地ヘノ往復並滞在費等ハ一切自辨スルヘシ

第二十條 志願者ノ身體検査日割表ハ検査開始ノ一日前ニ各受驗地ノ府縣廳(東京ハ築地海軍經

理學校)ニ揭示ス

志願者ハ各受驗地ノ前記揭示場ニ就キ限メ自己ノ身體検査日割ヲ承合シ且受驗地ニ於ケル自己

ノ宿所(受驗地ニ住所アル者ハ其ノ住所)ヲ検査開始ノ前日迄ニ到達スル様書面(用紙半紙)又ハ

葉書ヲ以テ同地ニ出張セル試験官(東京ハ築地海軍經理學校内其ノ他ハ各府縣廳内ニ宛テ)ニ届

出ツヘシ

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ身體検査所若ハ學術試験所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ限メ其ノ旨

ヲ届出ツヘシ

第二十一條 生徒ヲ命スルニハ志願者ヲ海軍兵學校ニ召集シ再ヒ身體検査ヲ行ヒ其ノ合格者中ヨ

リ之ヲ命ス而シテ之ヲ召集スルニハ校長ヨリ之ヲ第一保證人ニ選ス

第二十二條 前條ノ召集ニハ本人住所(受驗當時ノ住所)ヨリ海軍兵學校マテノ里程ニ應シ相當ノ

旅費ヲ給ス

第二十三條 海軍兵學校生徒志願者ニシテ海軍機關學校生徒海軍經理學校生徒ノ中其ノ一若ハ其

ノ二ヲモ志願シ其ノ入學試験ニ合格シ採用ヲ豫定セラレタルトキハ海軍兵學校生徒志願ハ自然

消滅ス

第一號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

年月日

氏名	月主(ハ主ニアラサレハ其ノ續稱)
氏名	志願者
氏名	第一保證人
氏名	本籍
氏名	住所
氏名	族籍職業
氏名	第二保證人
氏名	本籍
氏名	住所
氏名	族籍職業
氏名	住所

海軍兵學校生徒志願ノ件

海軍兵學校長俯氏名殿

英(志願者ノ名)備海軍時校出身ヲ志願ス許可入校ノ上ハ海軍ノ紀律ニ服従スルコトヲ誓フ

志願者ノ身上ハ何等ニ限ラス保證人ノ之ヲ擔保ス

受驗地 東京(長野)(名古屋)(仙臺)(京師)(金澤)(高知)(長崎)(熊本)(鹿児島)(大分)

右出願ス

別紙履歷書、承認書、身元明細書及月籍簿不ヲ添フ

前書相違無シ

年月日

(注意) 志願者ノ氏名及保證人ノ住所及氏名ニハ片假名ヲ付シ其ノ讀方ヲ明ニスヘシ

市區町村長 氏 名印